

平成28年度

若者自立支援のための実態把握調査

報 告 書

平成29年3月

青 森 県



# 目 次

I 調査の概要	1
II 調査の結果	3
15歳から39歳までの若者（学生を除く）及び	
その保護者等を対象とした調査【A調査】	3
ア) 若者本人を対象とした調査	3
● 基礎的な項目（問1～3）	3
● 日常生活状況・経緯等（問4～6）	4
● これまでの仕事・就職活動等の状況、職業・就職に関する考え方（問7～14）	9
● 相談状況（問15～20）	18
● 意見・要望等（問21）	25
イ) 保護者等を対象とした調査	35
● 基礎的な項目（問1～4）	35
● 若者本人の生活状況・経緯等（問5～7）	37
● 若者本人の就職状況（問8～15）	42
● 相談状況（問16～21）	50
● 意見・要望等（問22）	57
2 県内の相談支援機関を対象とした調査【B調査】	65
● 相談者の状況	65
● 相談対応を行う上での課題	70
3 県内の高等学校を対象とした調査【C調査】	73
● 不登校・中途退学に至る生徒・家族の状況	73
● 不登校・中途退学への対応を行う上での課題	76
● 相談支援機関との連携状況	79
● 連帯協力が必要とされる相談支援機関	81
● 生徒を不登校・中途退学させないための対応策	83
● 生徒の自立支援を行う上での課題、行政への意見・要望等	85

Ⅲ 講評・考察	88
1 子ども・若者の自立支援へ向けて～コミュニケーションの視点から～	88
教育心理支援教室・研究所ガジュマルつがる代表 松本 敏治 氏	
Ⅳ 調査票（単純集計結果付 ※結果付はA調査のみ）	95

# I 調査の概要



## 1 調査目的

「青森県子ども・若者育成支援推進計画」の計画期間が平成 29 年度で終了することから、次期計画の施策の方向性を検討するに当たっての基礎資料とするため、若者自立支援のための実態把握調査を行う。

なお、平成 24 年度に実施した前回調査結果との経年変化を比較検討するため、調査対象、調査票項目等については、前回調査と同様とする。

## 2 調査対象・調査方法

### (1) 本人及び保護者等（父母、兄弟姉妹、祖父母等） … A 調査

#### ① 15 歳から 39 歳までの若者で職に就いていない者（学生を除く）

県内の相談支援機関を通じて調査票配付 各 400 人

#### ② 高等学校中退後、概ね 2 年以内の者

県内の高等学校を通じて調査票配付 各 160 人

### (2) 県内の相談支援機関等 … 【B 調査】

ニート、ひきこもり、発達障害、不登校、中途退学に関する相談担当者に対する調査票配付

#### ① 公的機関：63 機関

※雇用分野・・・14 機関 ※保健・医療・福祉分野・・・・・・20 機関

※教育分野・・・16 機関 ※非行、矯正・更正保護等分野・・・13 機関

#### ② 民間機関：15 団体

### (3) 県内の高等学校 … 【C 調査】

不登校、中途退学に関する相談担当者に対する調査票配付

#### ① 県立高等学校 63 校

#### ② 私立高等学校 17 校

## 3 調査項目

### (1) 本人及びその保護者等 … 【A 調査】

#### ア) 若者本人を対象とした調査

- ① 基礎的な項目
- ② 仕事・就職活動等の状況、職業・就職に関する考え方
- ③ 日常の生活状況・経緯等
- ④ 相談状況
- ⑤ 意見・要望等

#### イ) 保護者等を対象とした調査

- ① 基礎的な項目
- ② 若者本人の就職状況
- ③ 若者本人の生活状況・経緯等
- ④ 相談状況
- ⑤ 意見・要望等

(2) 県内の相談支援機関を対象とした調査 …【B調査】

- ① 相談窓口における相談件数及び相談内容
- ② 相談を受け付けた際の対応のながれ
- ③ 他の相談支援機関との連携状況
- ④ 相談者の状況
- ⑤ 相談対応を行う上での課題

(3) 県内の高等学校を対象とした調査 …【C調査】

- ① 不登校・中途退学に至る生徒・家族の状況
- ② 不登校・中途退学への対応を行う上での課題
- ③ 相談支援機関との連携状況
- ④ 連携協力が必要とされる相談支援機関
- ⑤ 生徒を不登校・中途退学させないための対応策
- ⑥ 生徒の自立支援を行う上での課題、行政への意見・要望等

4 調査時期

平成28年12月中旬～平成29年1月上旬

5 回収結果

(1) 15歳から39歳までの若者（学生を除く）及びその保護者等【A調査】

- ① 県内の相談支援機関における調査票配布分  
若者本人：168人、保護者等 130人
- ② 県内の県立高等学校を中退後、概ね2年以内の者に対する調査票送付分  
若者本人：17人、保護者等 18人

(2) 県内の相談支援機関【B調査】

- ① 公的機関：機関  
※雇用分野・・・8機関      ※保健・医療・福祉分野・・・17機関  
※教育分野・・・9機関      ※非行、矯正・更正保護等分野・・・11機関
- ② 民間機関：4機関

(3) 県内の県立高等学校【C調査】

- ① 県立高等学校 60校
- ② 私立高等学校 9校



## II 調査の結果



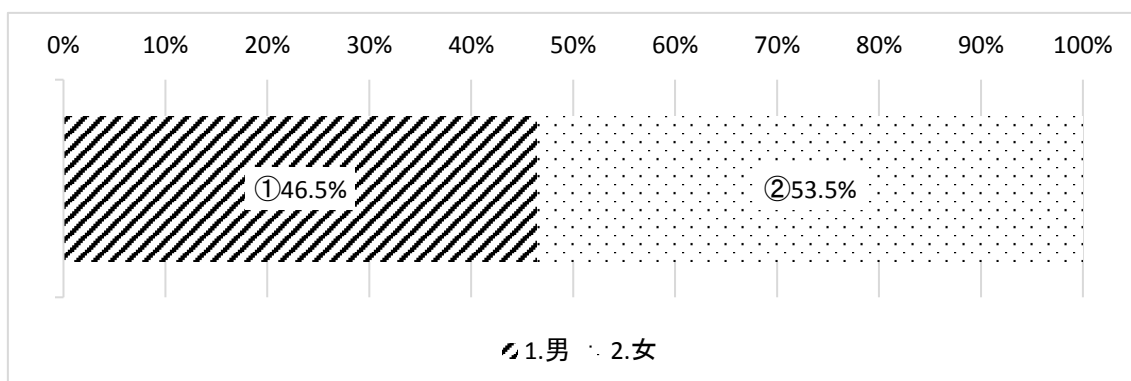
## 【A調査】

15歳から39歳までの若者（学生を除く）及び  
その保護者等を対象とした調査  
ア）若者本人を対象とした調査



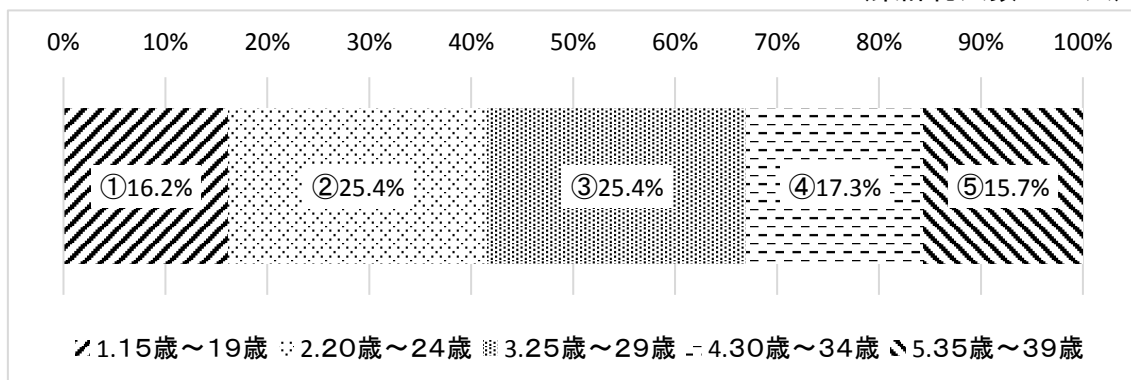
問1 あなたの性別をお答えください。

(集計総人数=185人)



問2 あなたの年齢をお答えください。

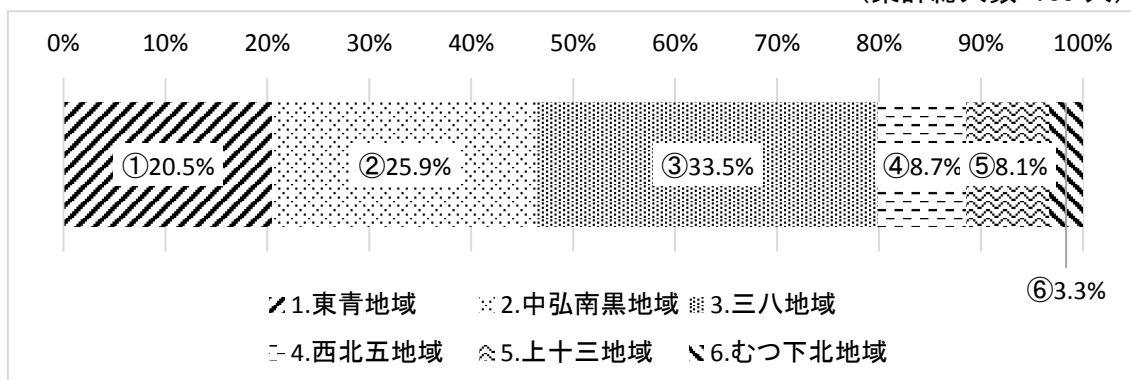
(集計総人数=185人)



年齢を聞いたところ、「20歳～24歳」「25歳～29歳」が25.4%と最も多く、次いで「30歳～34歳」が17.3%となっている。

問3 あなたが住んでいる市町村名を（ ）内に記述してください。

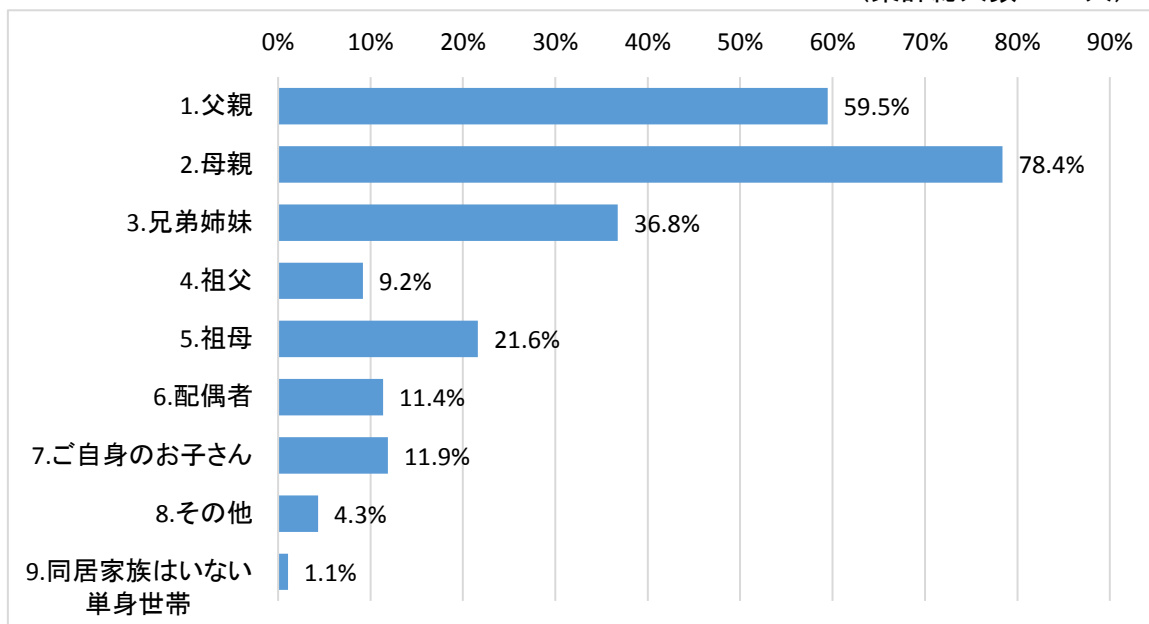
(集計総人数=185人)



住んでいる地域を聞いたところ、「三八地域」が33.5%と三分の一を占めた。次いで「中弘南黒地域」「東青地域」となっている。

問4 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)

(集計総人数=185人)



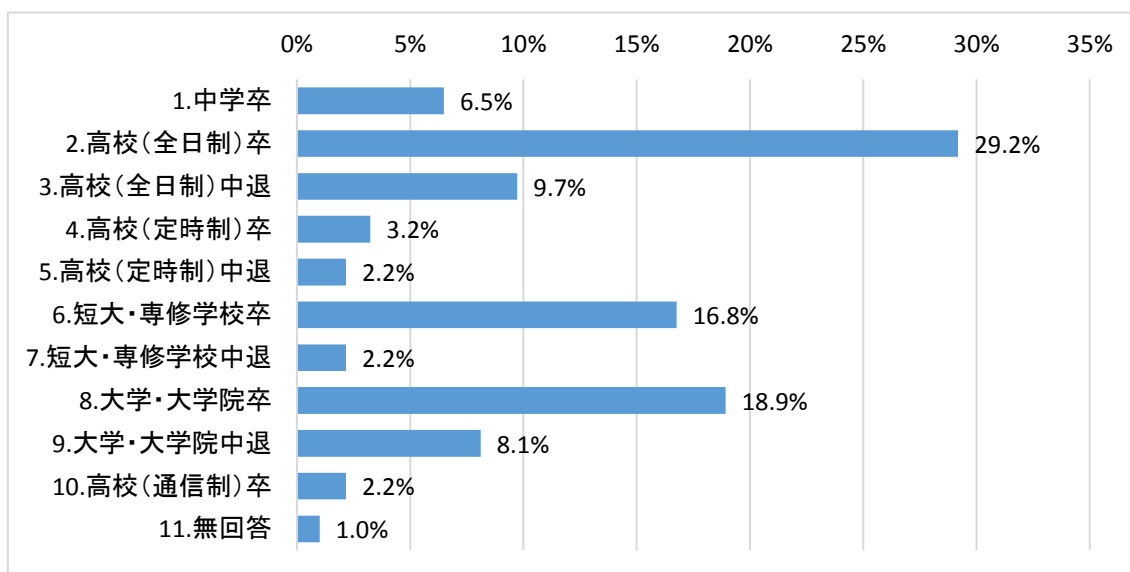
「8. その他」の内容

- ・ 弟の妻・甥・姪
- ・ 隣人
- ・ 義父母
- ・ 甥
- ・ 母の姉妹二人
- ・ 叔母

現在同居している家族を聞いたところ、「母親」が78.4%と最も多く、次いで「父親」が59.5%、「兄弟姉妹」が36.8%、「祖母」が21.6%となっている。

問5 あなたが最後に卒業（中退）した学校はどこですか。

(集計総人数=185人)

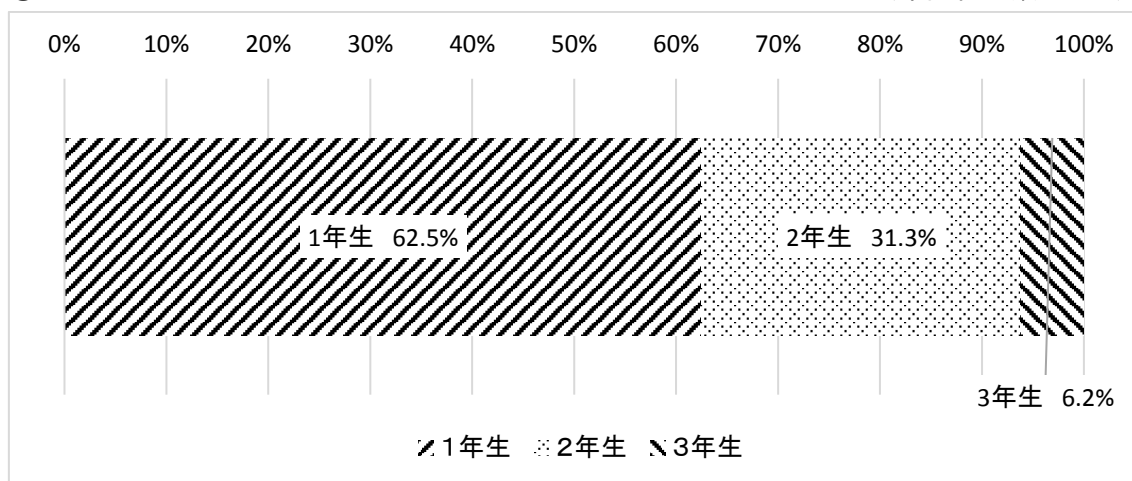


最後に卒業（中退）した学校を聞いたところ、「高校（全日制）卒業」が 29.2%、「大学・大学院卒」が 18.9%、「短大・専修学校卒」が 16.8%となっている。なお、「高校（全日制）中退」が続いて多かったのは、高校中退者へのアンケートも含めて行った集計となっているためと思われる。

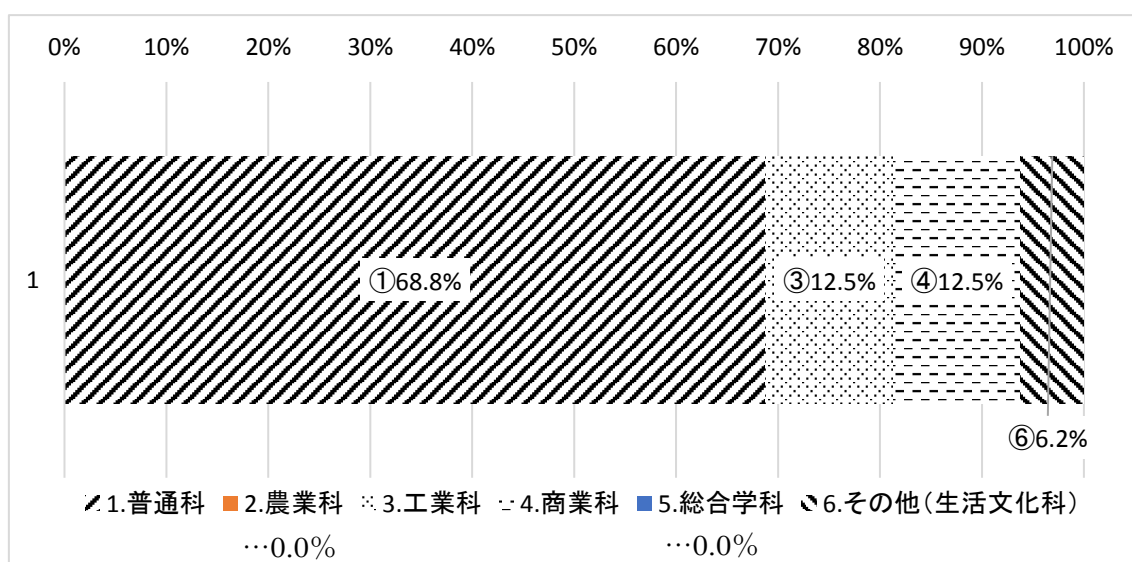
問5-1 問5で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

①中退したときの学年及び ②中退した学科を教えてください。

① (集計総人数=16人)

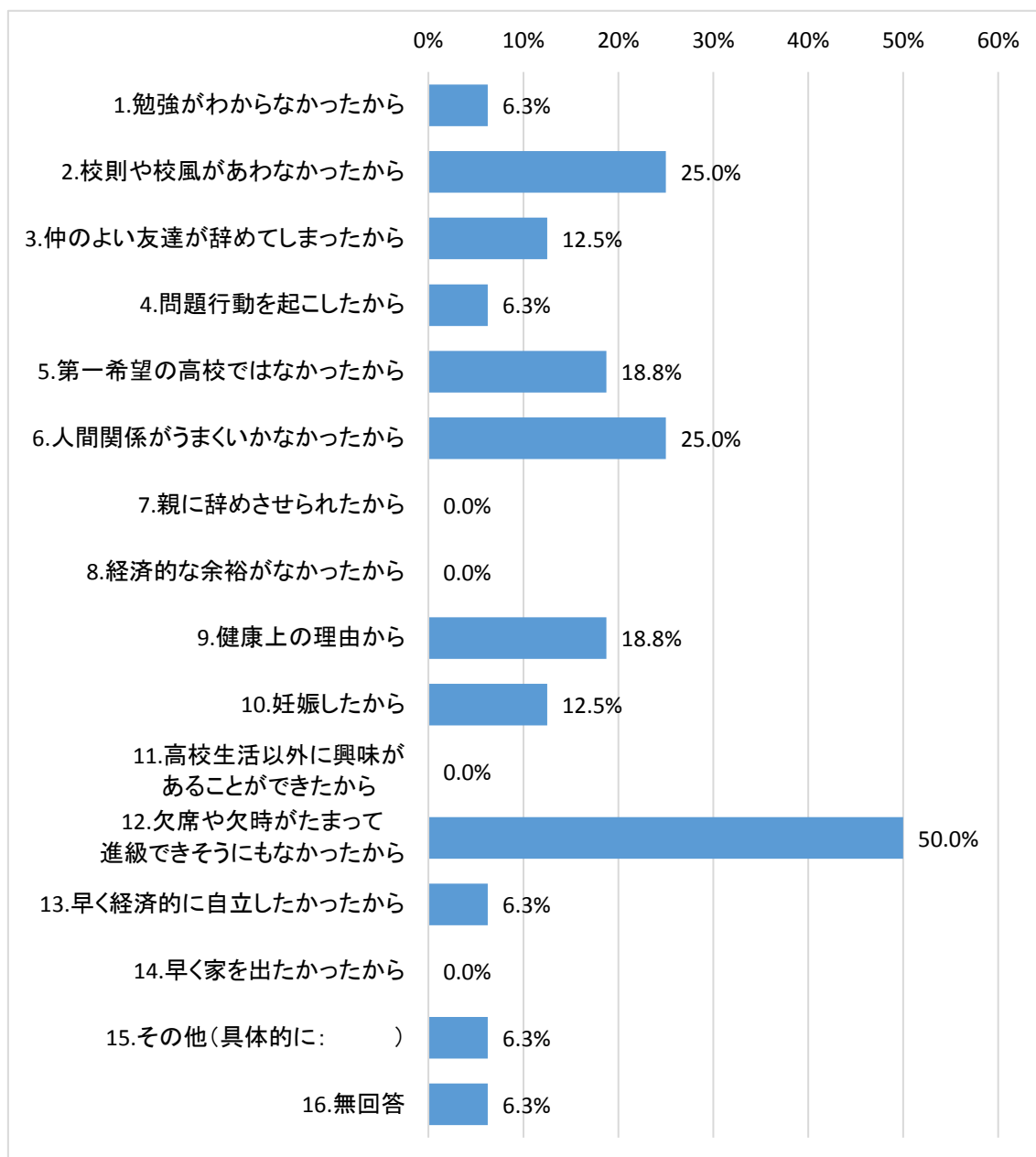


② (集計総人数=16人)



問5で「高校（全日制）中退」「高校（定時制）中退」を選んだ方に、中退したときの学年及び学科について聞いたところ、「1年生」が 62.5%と最も多く、次いで「2年生」が 31.3%となった。学科は「普通科」が 68.8%と半数以上を占めており、次いで「工業科」「商業科」が 12.5%となっている。

問5-2 問5で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。あなたが中退した理由はなぜですか（〇はいくつでも）（集計総人数=16人）



「15. その他」の内容

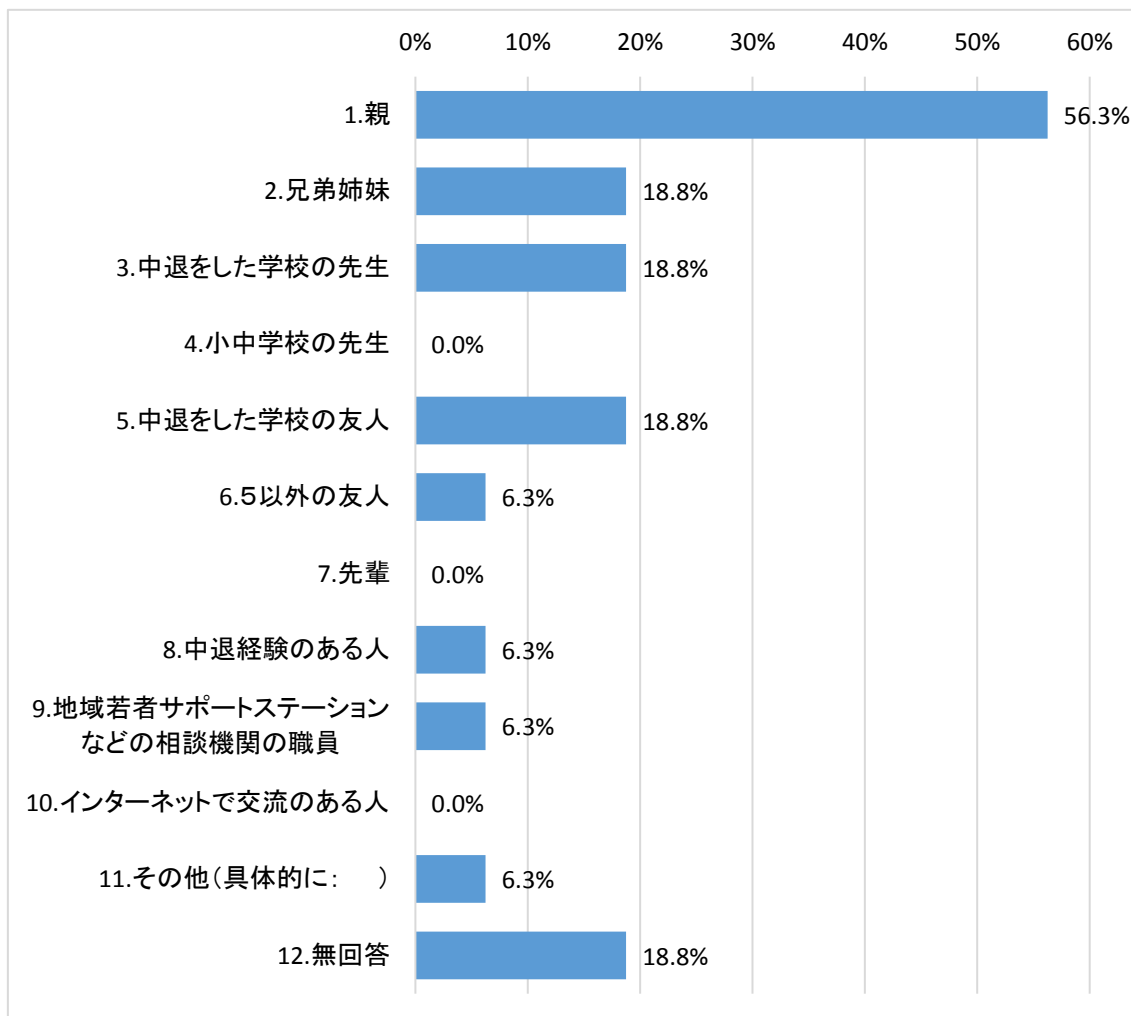
- ・ 高校に行く気がなかったし、行っても意味が無いと思った。

問5で「高校（全日制）中退」「高校（定時制）中退」を選んだ方に中退した理由を聞いたところ、「欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから」が50.0%で最も多く、次いで「校則や校風があわなかったから」「人間関係がうまくいかなかったから」が25.0%、となっている。



問5-3 問5で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。あなたが中退することについて誰かに相談しましたか（〇はいくつでも）

（集計総人数=16人）



「11.その他」の内容

- ・いとこ

問5で「高校（全日制）中退」「高校（定時制）中退」を選んだ方に、中退することについて誰かに相談したか聞いたところ、「親」が56.3%と最も多く、次いで「兄弟姉妹」「中退をした学校の先生」「中退をした学校の友人」が18.8%となっている。

問5-4 問5で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。あなたが中退するにあたって、また中退後に、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったですか。

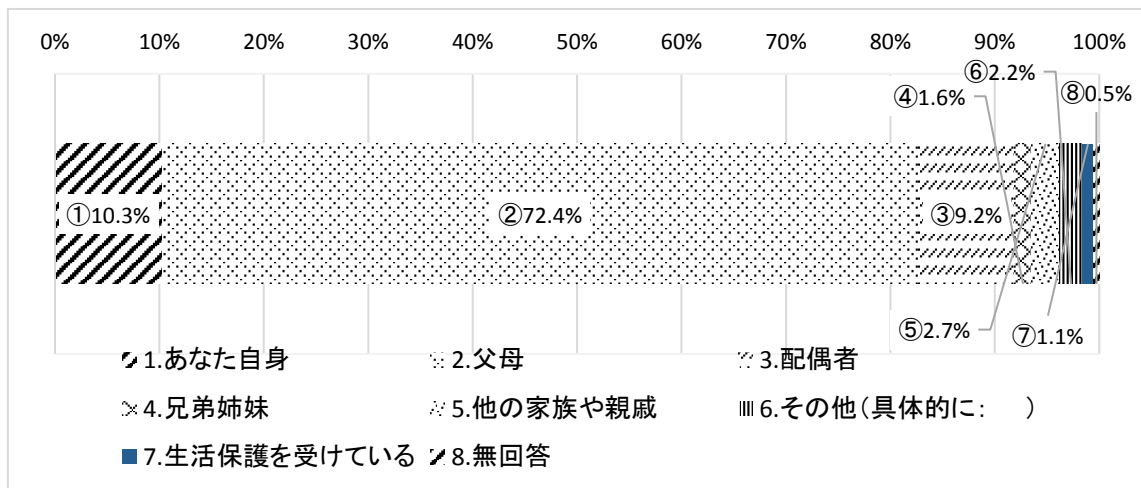
(○は一つだけ)

(集計総人数=16人)



問5で「高校(全日制)中退」「高校(定時制)中退」を選んだ方に、中退するにあたって、また中退後、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったですか聞いたところ、「特に必要ない」が25.0%、「今後の進路について悩んだ時に相談する方法」「他の高校に転入学する方法」「高等学校卒業程度認定試験(高卒認定試験)を受ける方法」が12.5%となっている。

問6 現在、あなたの生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。(〇はひとつだけ)  
(集計総人数=185人)



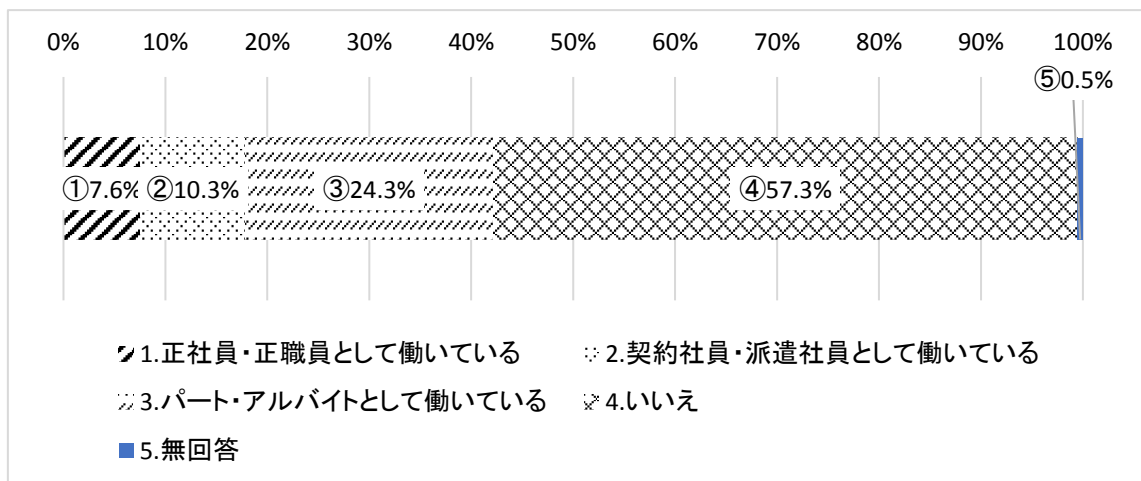
「6. その他」

- ・ 祖父母
- ・ 傷病手当
- ・ 隣人

あなたの内容あなたの生計を支えているのは誰か聞いたところ、「父母」が72.4%と最も多く、次いで「あなた自身」10.3%「配偶者」が9.2%となっている。

問7 あなたはいま、仕事に就いていますか。

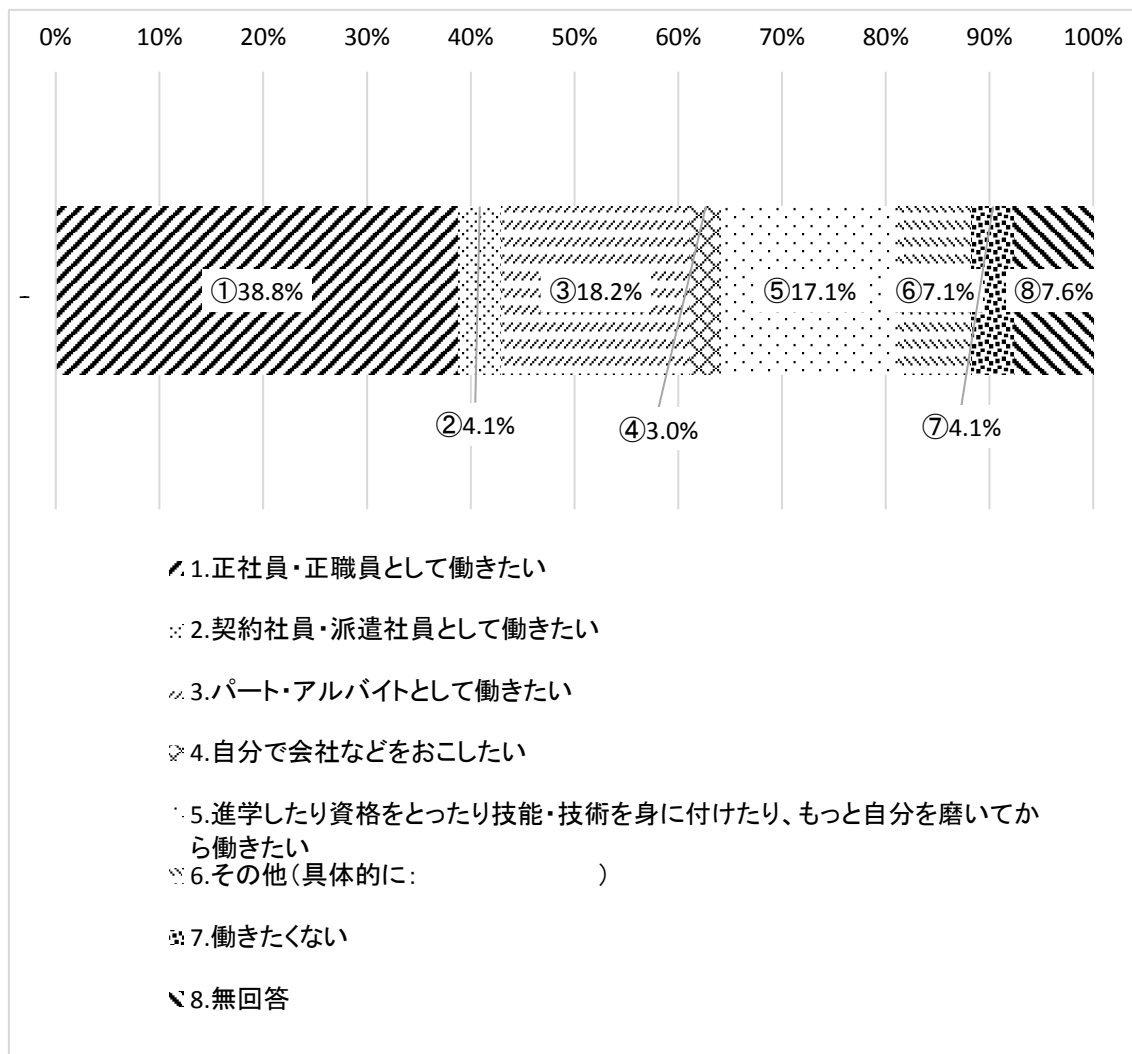
(集計総人数=185人)



いま、仕事に就いているか聞いたところ、「いいえ」が57.3%で半数以上を占めており、次いで「パート・アルバイトとして働いている」が24.3%、「契約社員・派遣社員として働いている」が10.3%となっている。

問8 問7で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または、「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。あなたは今後の自分の進路についてどのように考えていますか。（〇はひとつだけ）

（集計総人数=170人）



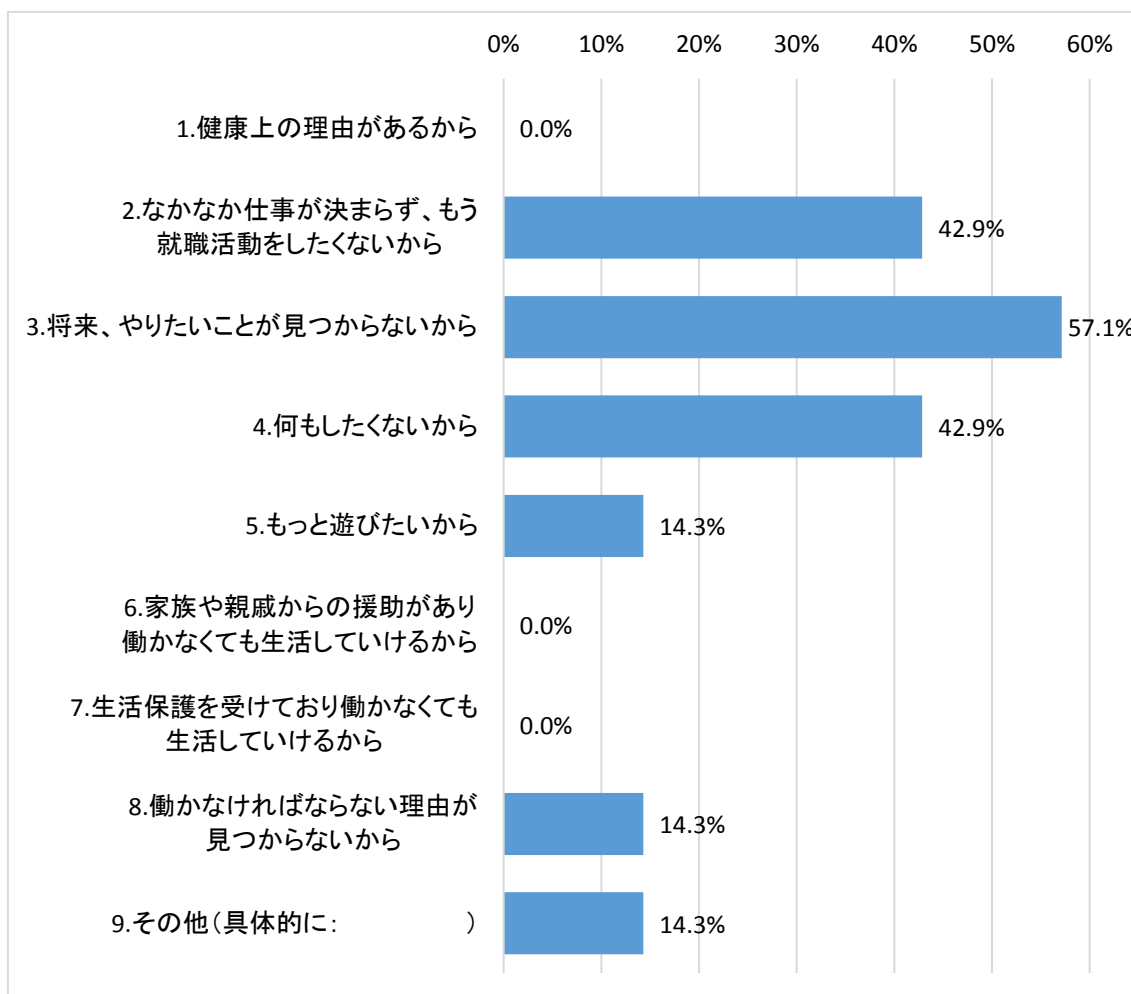
「6.その他」の内容

- ・ 来年度から就職予定（正社員）。就職先から内定をもらっている。
- ・ 最初は単時間のパートで慣れてから正社員として働きたい。
- ・ 出来そうな仕事をしたい。転職したい。人が多いところ、うるさいところ、人間関係がめんどくさいから家で働きたい。
- ・ 性格上のことを見つめ直してから考えたい
- ・ 何も考えられない。

現在、「正社員・正職員として働いている」以外の方に今後の進路を聞いたところ、「正社員・正職員として働きたい」が38.8%と最も多く、次いで「パート・アルバイトとして働きたい」が18.2%、「進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたり、もっと自分を磨いてから働きたい」が17.1%、となっている。

**問9 問8で「7 働きたくない」と回答した方にお聞きします。  
その理由を教えてください。（〇はいくつでも）**

（集計総人数=7人）



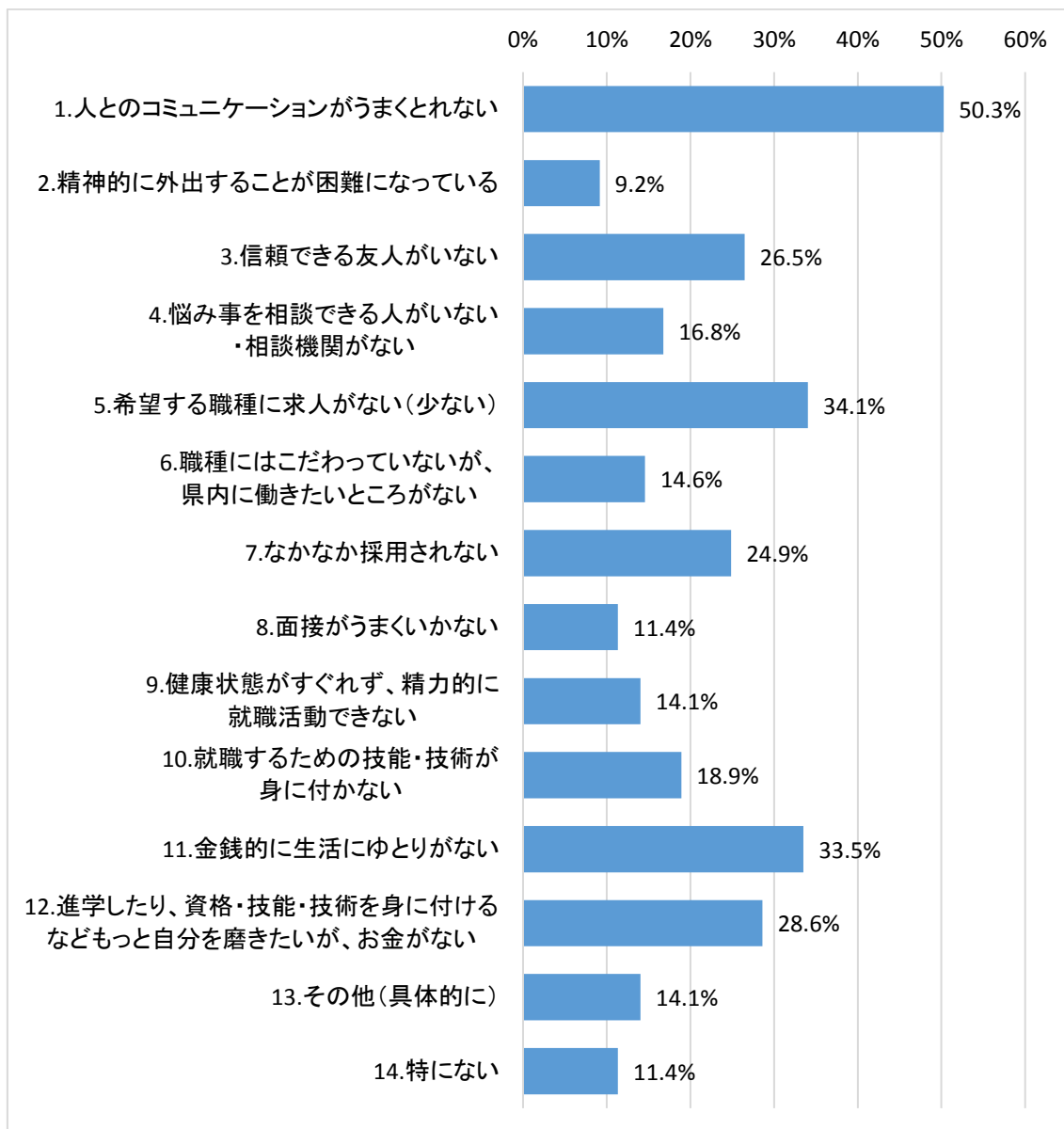
「9.その他」の内容

- ・「死にたい」と言う願いを叶えたい

「働きたくない」と回答した方にその理由を聞いたところ、「将来、やりたいことが見つからないから」が57.1%となっている。次いで「なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから」「何もしたくないから」が42.9%となっている。

問 10 いま、あなたが日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。また、それはどんなことですか。（〇はいくつでも）

（集計総人数=185人）



「13. その他」の内容

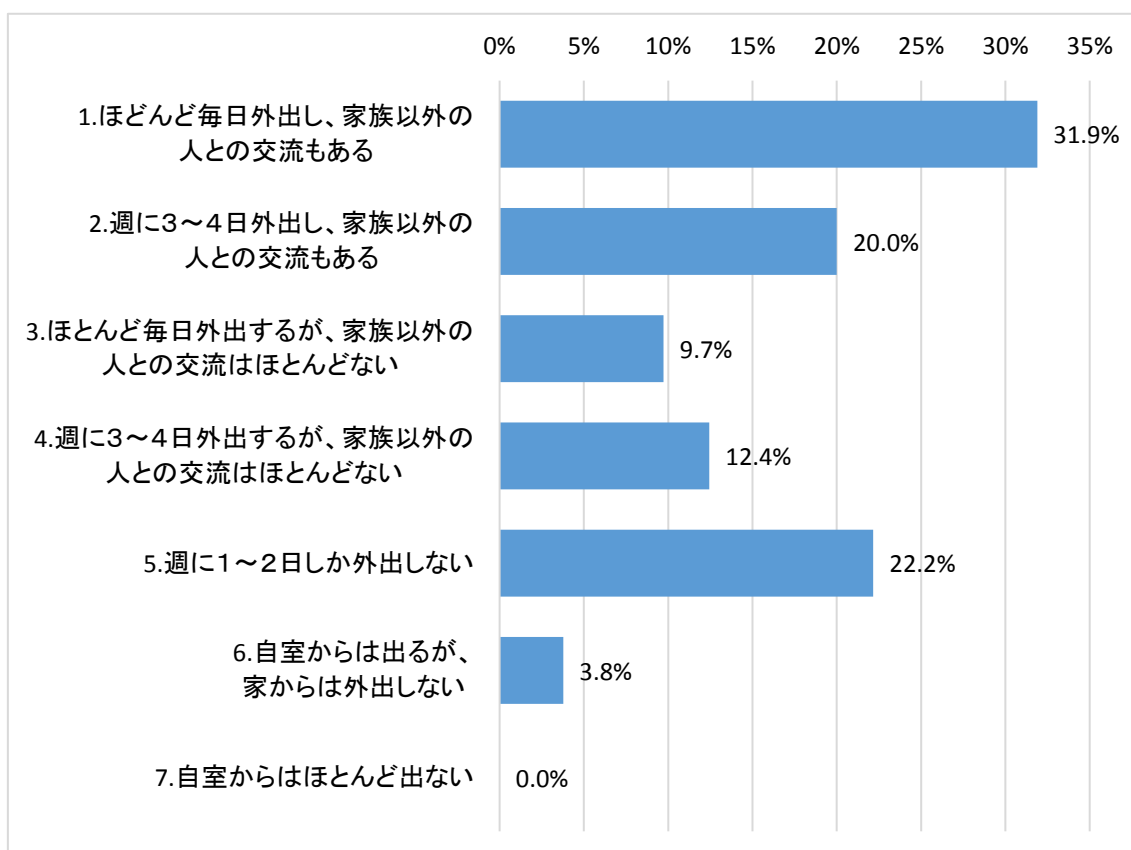
- ・人への不信感が強い、就職出来たとしても、職場での人間関係が上手くいかず、すぐに辞めそう、目上の立場の人に嫌われやすいみたい。
- ・転職したいけれど、自分に合っている所がどこなのか分からず転職にふみ出せない。
- ・前職場での出来事が精神的に不安定になる原因となっている。
- ・訓練校に通っていますが、仕事が決まるか心配。
- ・ひとり親で子供を育てていく予定でいろいろ求職していますが、子育て世代でも子供を受け入れてくれる職業や、上手く片親で子供を育てていけるか不安です。

- ・ 職を転々と短期で辞めてしまう。
- ・ 書類選考を通過できない。
- ・ 年金が高くて支払えない、交通費や時間帯を考えると中々仕事先が見つけれられない。
- ・ 病気によって基本的な生活に支障が出ている

日常生活や就職活動に関して悩んだり困っていることはあるか、また、それはどんなことか聞いたところ、「人とのコミュニケーションがうまくとれない」が 50.3%と最も多く、次いで「希望する職種に求人がない（少ない）」が 34.1%、「金銭的に生活にゆとりがない」が 33.5%、「進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたいが、お金がない」が 28.6%となっている。

**問 1 1 あなたは普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。（〇はひとつだけ）**

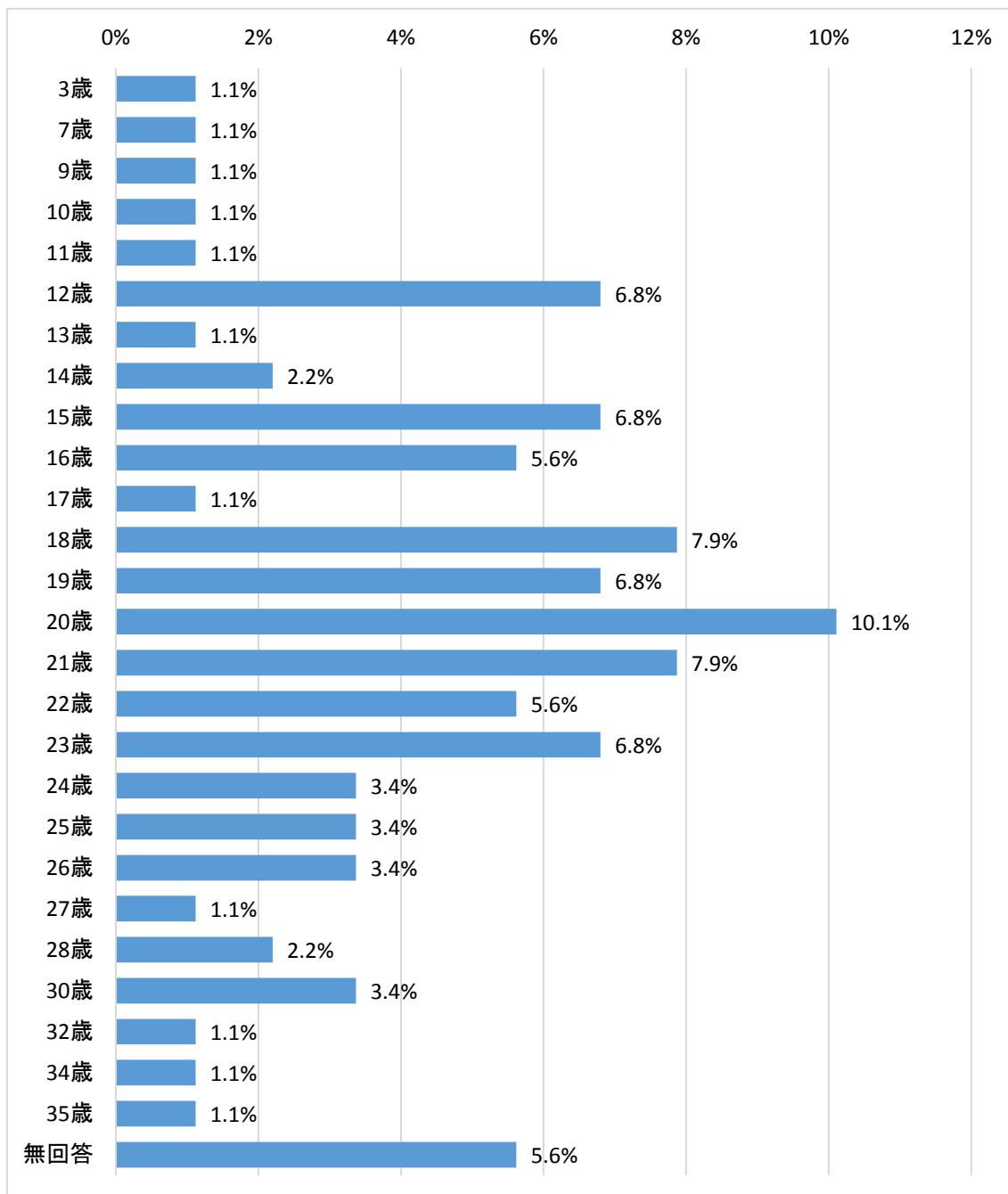
（集計総人数=185人）



普段どのくらい外出しているか、また家族以外の人との交流はあるか聞いたところ、「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」が 31.9%、「週に1～2日しか外出しない」が 22.2%、「週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」が 20.0%となっている。

問12 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

(集計総人数=89人)

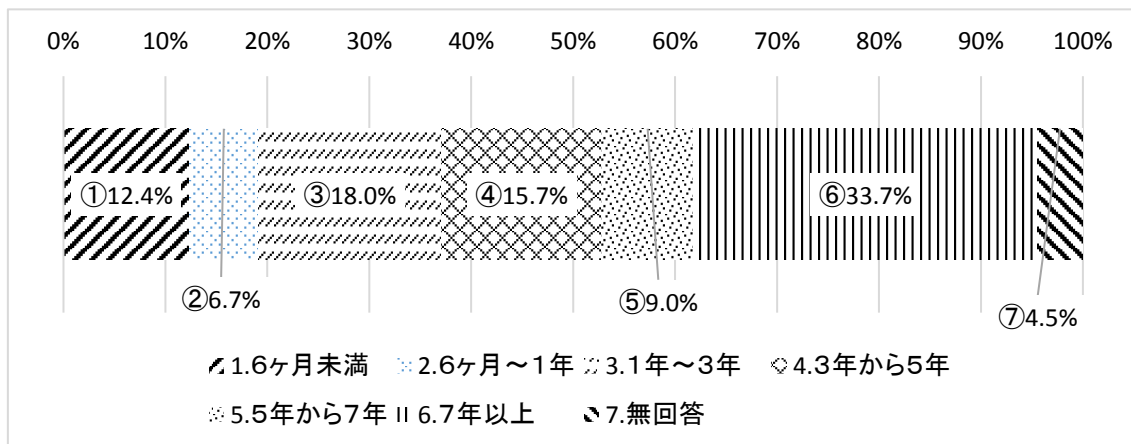


問11で「1 ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「2 週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方に、現在の状態になったのは何歳の頃か聞いたところ、「20歳」が10.1%と最も多く、次いで「18歳」「21歳」が7.9%、「12歳」「15歳」「19歳」「23歳」が6.8%となっている。



問13 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。現在の状態となってどのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ)

(集計総人数=89人)

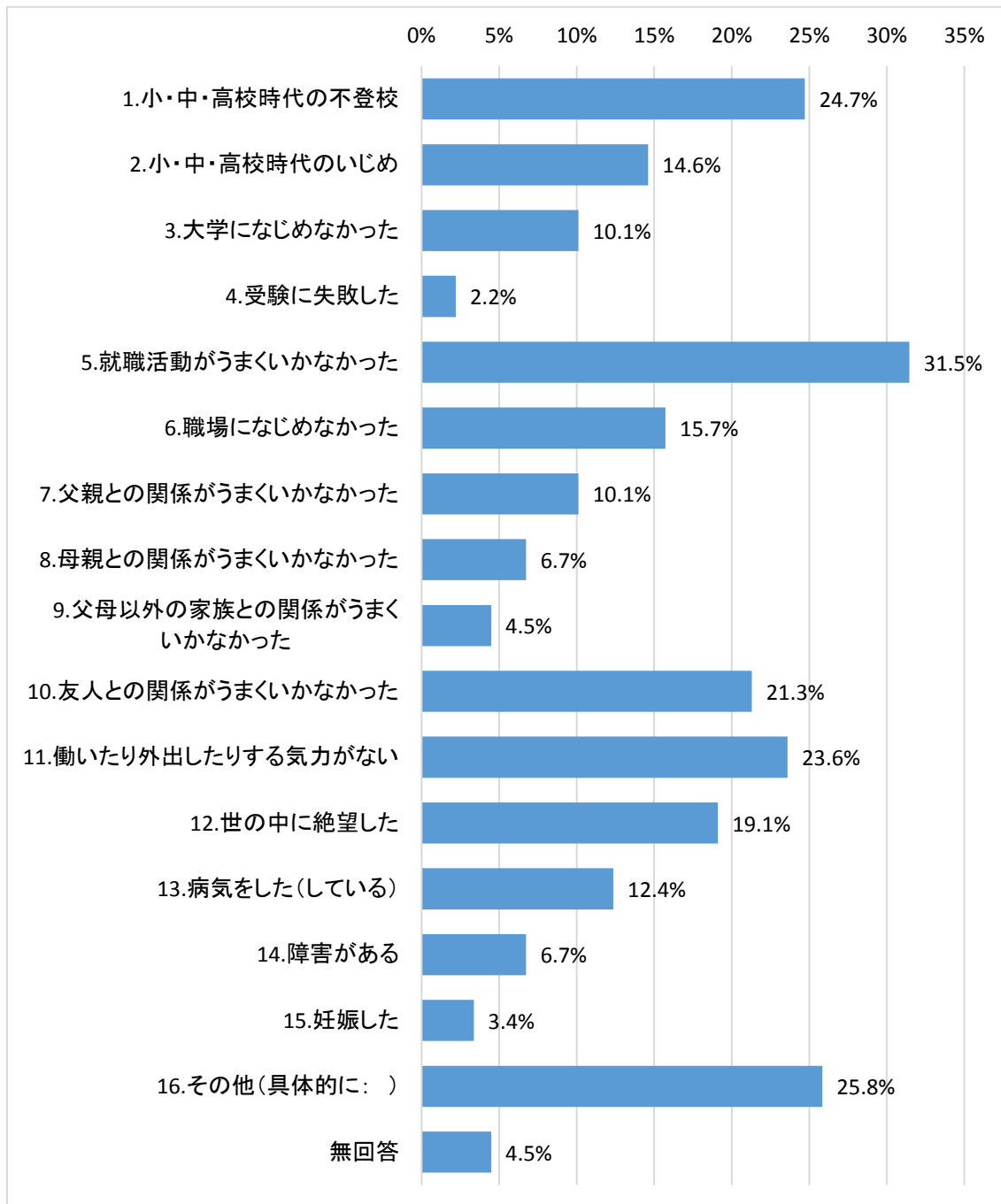


問11で「1 ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「2 週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方に、現在の状態となってどのくらい経つか聞いたところ、「7年以上」が33.7%と最も多く、次いで「1年～3年」が18.0%、「3年～5年」が15.7%となっている。

問14 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

(集計総人数=89人)



「16. その他」の内容

- ・人の目が気になったり、深く人と関わるのが苦手。
- ・男性に近づくのが嫌になった。土地も人も嫌になった。

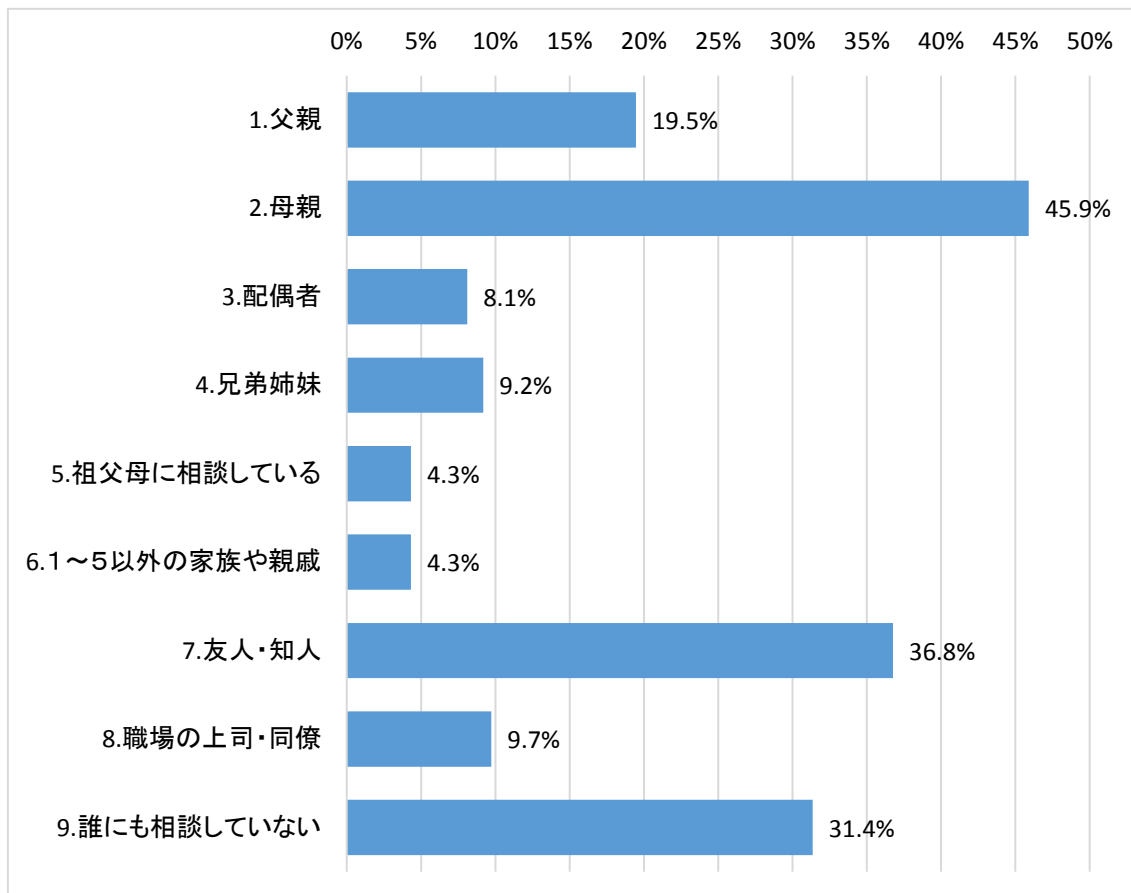
- ・自分の能力の無さに絶望した。知り合いに会いたくないので外出は出来ればしたくない。
- ・パワハラ。
- ・元々、他人とのコミュニケーション。
- ・大学の必須科目をクリアできなかった。
- ・仕事以外で外に出る用事がない。
- ・就職活動中。
- ・貧困、小学校の学校生活。
- ・離婚した。
- ・出勤、帰宅時それぞれで事故をおこしてしまったため精神的に落ち着かない。
- ・失職した。
- ・インドア派なため。

問11で「1 ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「2 週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方に、現在の状態になったきっかけを聞いたところ、「就職活動がうまくいかなかった」が31.5%と最も多く、次いで「その他」が25.8%、「小・中・高校時代の不登校」24.7%「働いたり外出する気力がない」が23.6%「友達との関係がうまくいかなかった」が21.3%となっている。

問 1 5 あなたは、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。

(○はいくつでも)

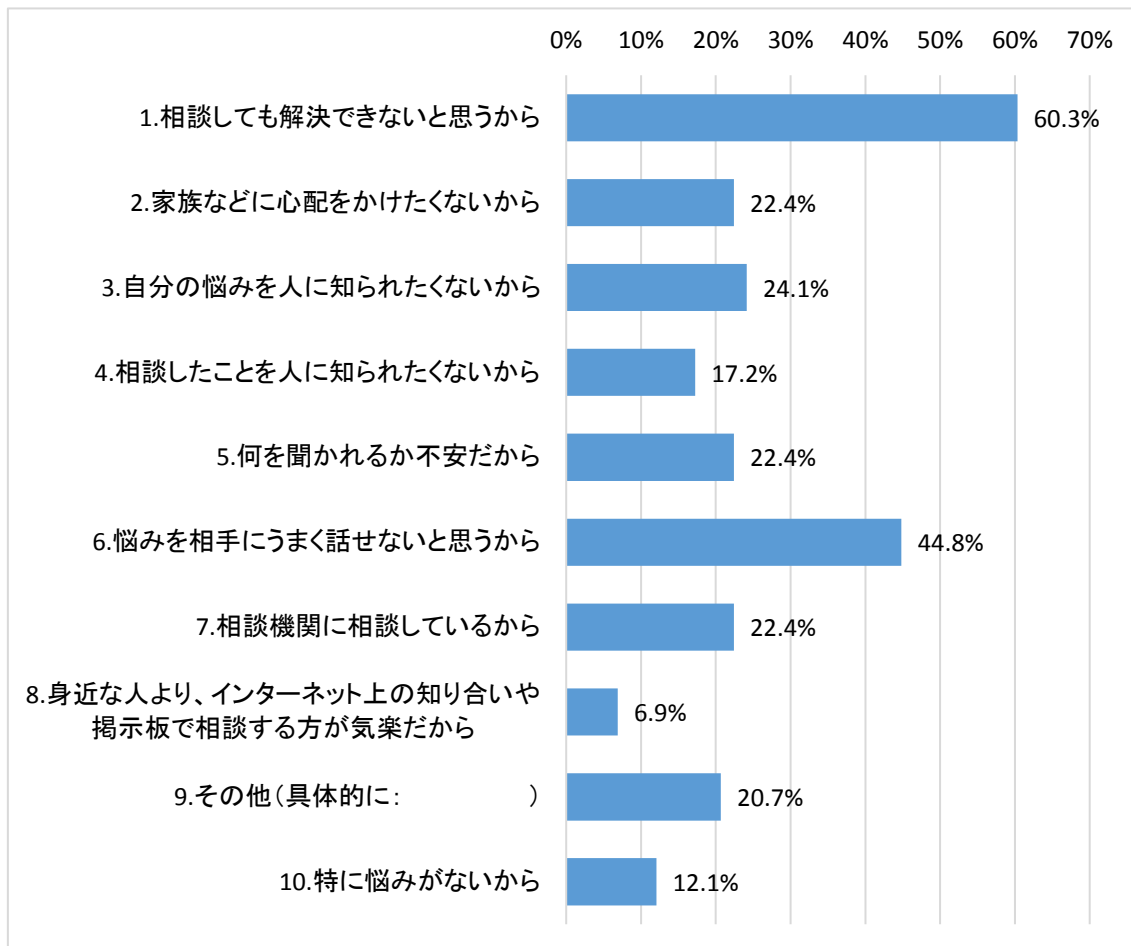
(集計総人数=185人)



日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談しているか聞いたところ、「母親」が 45.9%、「友人・知人」が 36.8%、「誰にも相談していない」が 31.4%、「父親」が 19.5% となっている。

問16 問15で「9 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。  
その理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

(集計総人数=58人)



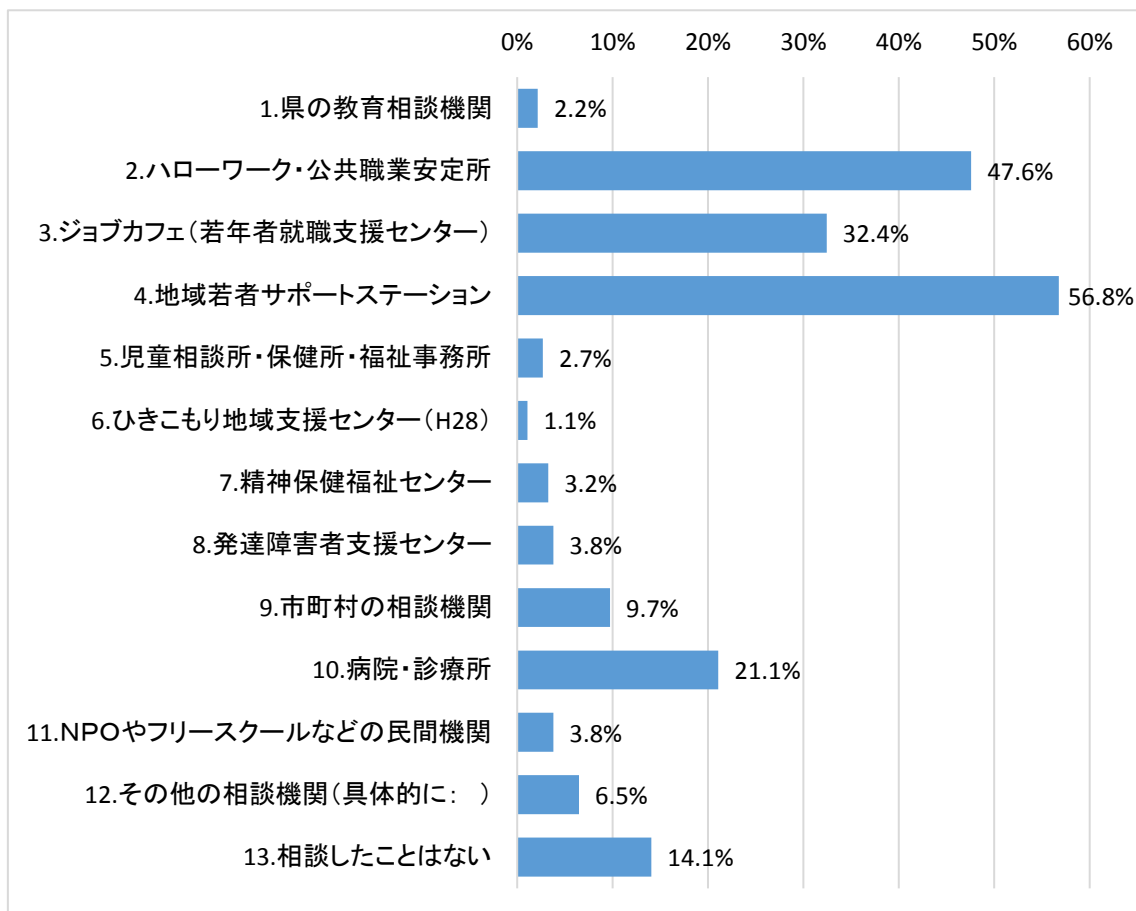
「9.その他」の内容

- ・よくわからないから。
- ・話したとしても、人生そんなものだよとあきらめたようなことしか言われなから。
- ・話せる人がいない。
- ・人への不信感が強いから、悩み事を相談出来るような信頼できる人はいない。
- ・自分で解決したい。人に頼りたくない。

問15で「9 誰にも相談していない」と回答した方にその理由を聞いたところ、「相談しても解決できないから」が60.3%と最も多く、次いで「悩みを相手にうまく話せないと思うから」が44.8%、「自分の悩みを人に知られたくないから」24.1%、「家族などに心配かけたくないから」「何を聞かれるか不安だから」「相談機関に相談しているから」22.4%となっている。

問 1 7 あなたはこれまで、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、どのような相談機関に相談したことがありますか。(〇はいくつでも)

(集計総人数=185人)



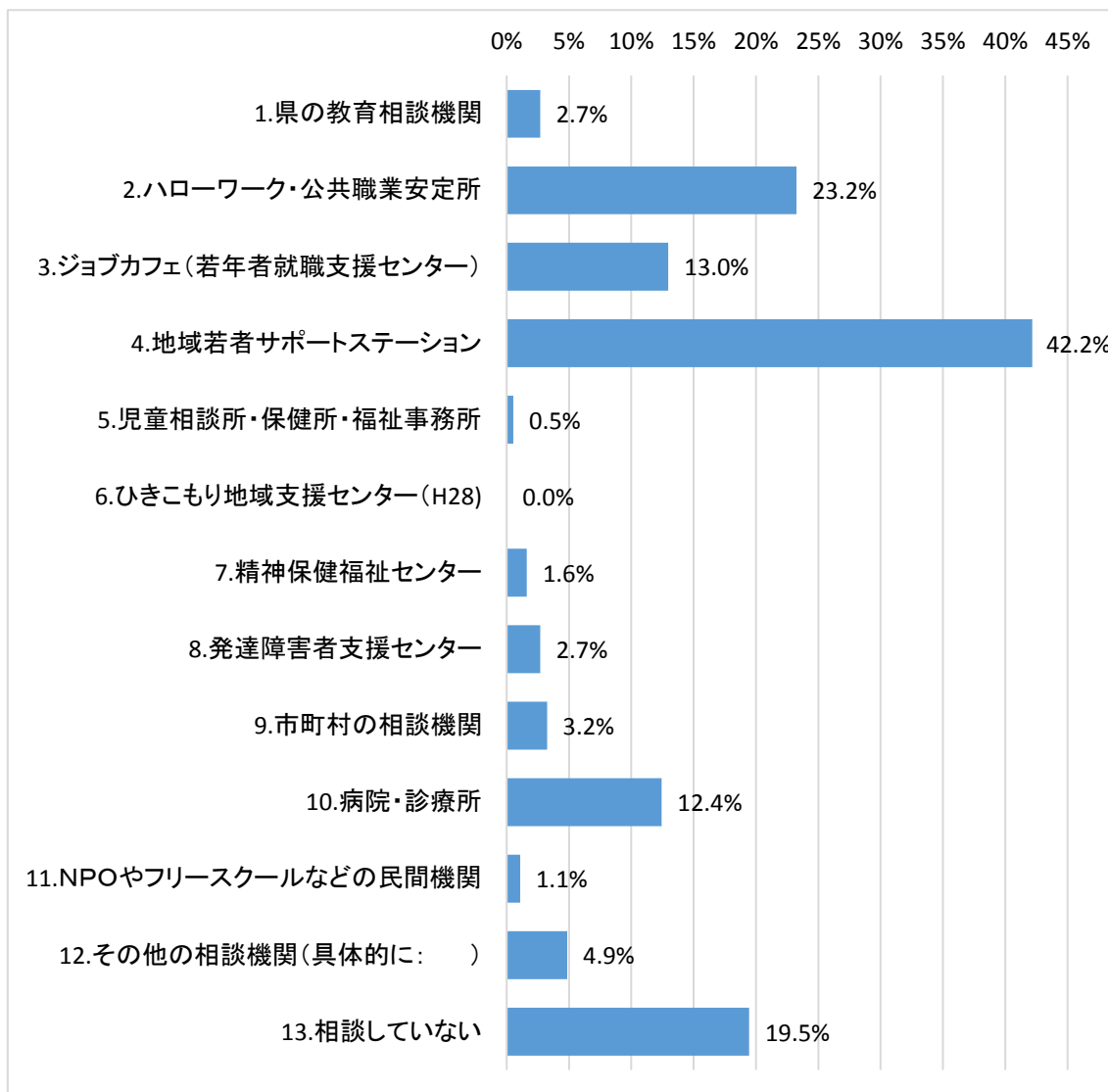
「12. その他の相談機関」の内容

- ・ あおば学園
- ・ 個人カウンセラー
- ・ 役場
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 職業訓練機関
- ・ B型就労支援施設
- ・ 就職支援事業を実施する企業

これまで、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、どのような相談機関に相談したことがあるか聞いたところ、「若者サポートステーション」が56.8%で最も多く、次いで「ハローワーク・公共職業安定所」が47.6%、「ジョブカフェ(若年者就職支援センター)」が32.4%、「病院・診療所」が21.1%となっている。

問 18 あなたは現在、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。(〇はいくつでも)

(集計総人数=185人)



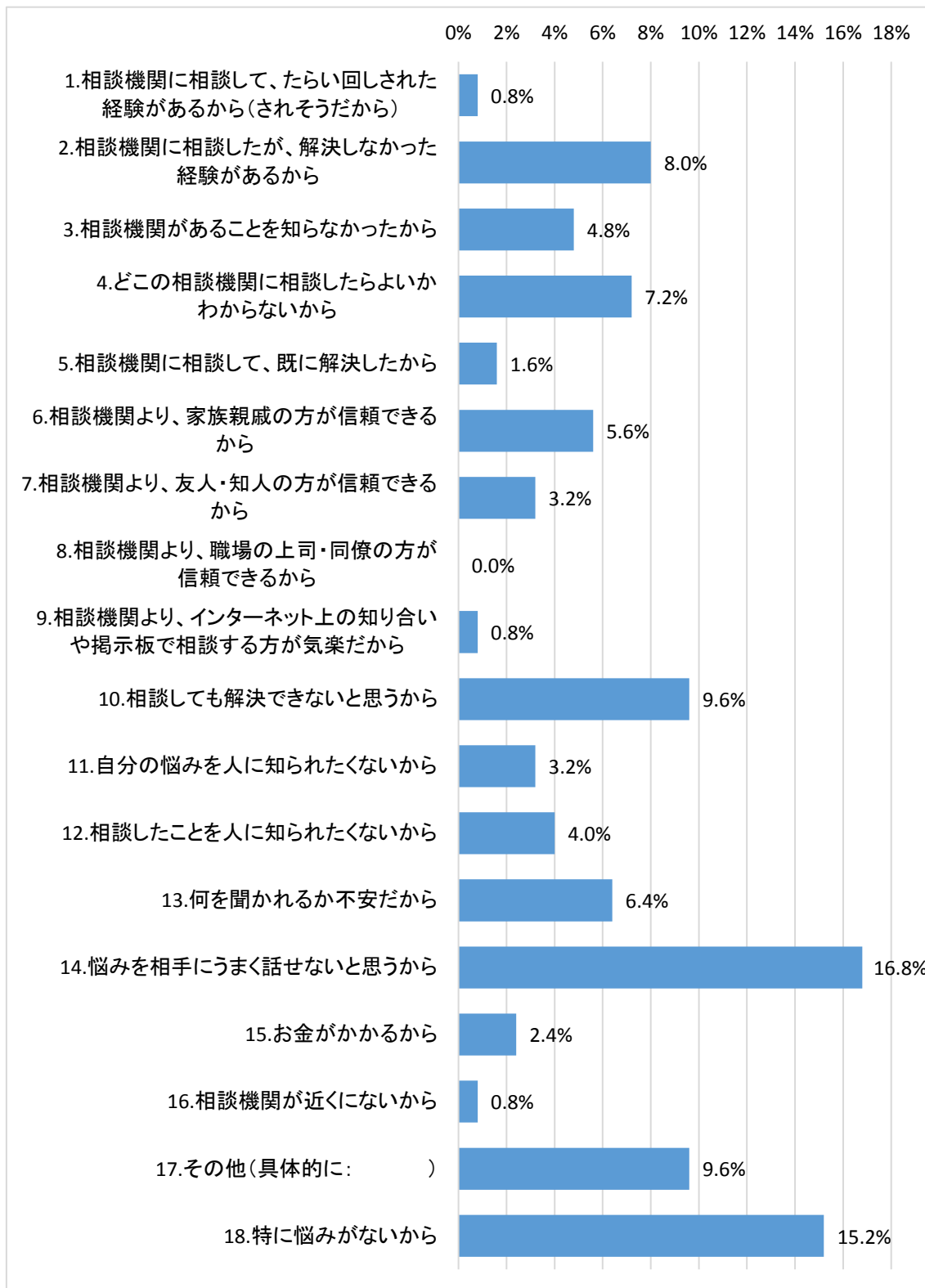
「12. その他の相談機関」の内容

- ・ 個人カウンセラー
- ・ 職業訓練機関
- ・ 就職支援事業を実施する企業
- ・ 役場
- ・ 就職関連
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 学校の先生

現在、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談しているか聞いたところ、「若者サポートステーション」が42.2%と最も多く、次いで「ハローワーク・公共職業安定所」が23.2%、「相談していない」が19.5%、「ジョブカフェ(若年者就職支援センター)」が13.0%となっている。

問19 問17で「13 相談したことはない」、または問18で「13 相談していない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

(集計総人数=125人)



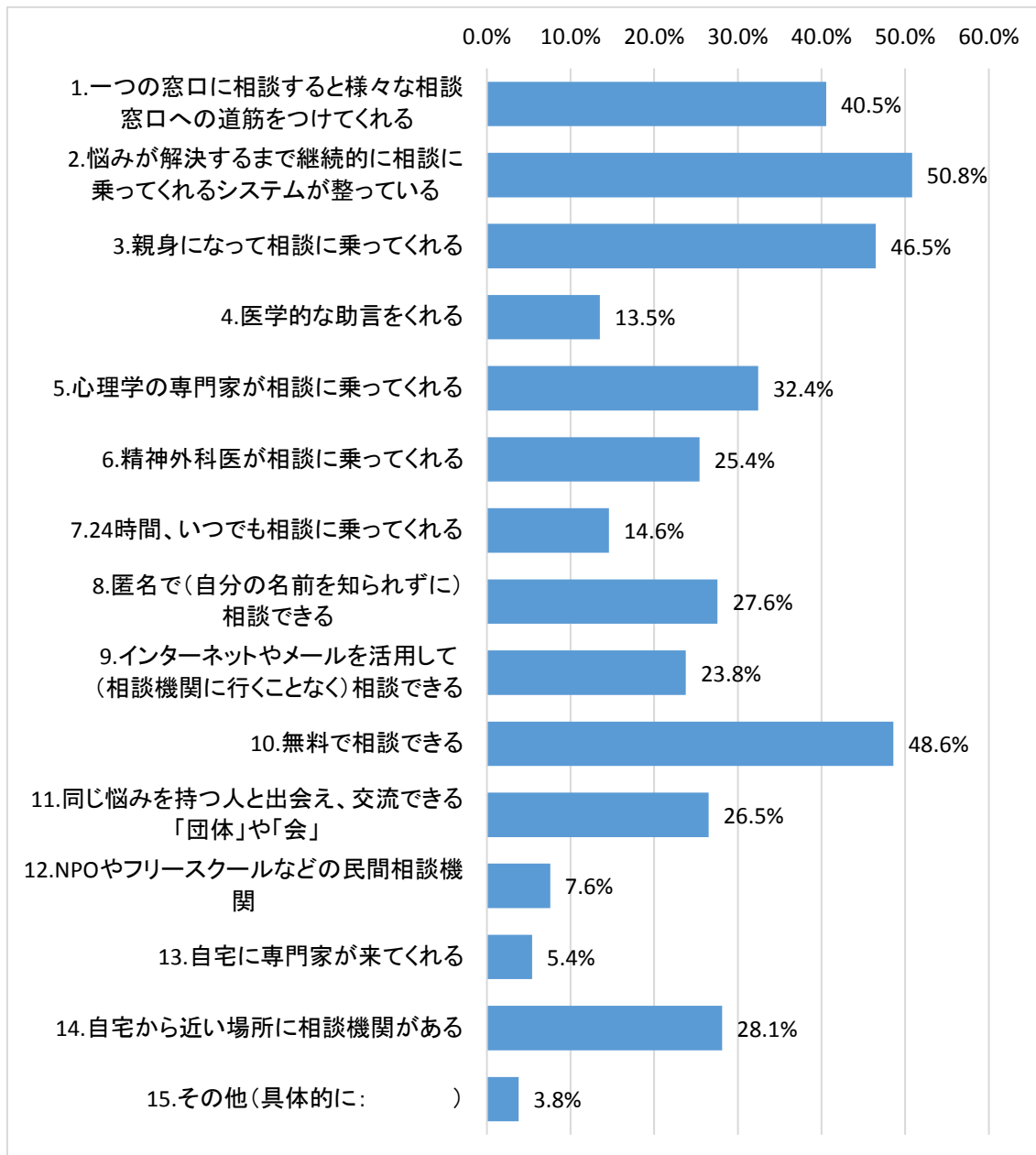


「17.その他」の内容

- ・自分でも「どうしたい」という具体的な答えが見つからないから。
- ・予定がなかなか空けられないからです。
- ・相談しに行きたくても、休みが少なく、シフトも15日刻みでしかでなくて、予約が出来ない。
- ・仕事が休みの日に相談機関もお休みだから。また、数か月に一回行ける日があっても家から出る気力がわからない。
- ・相談しに行くための手段がない。
- ・相談機関に行くことが減ったから。
- ・自分でインターネット等で情報収集して解決した。
- ・相談する意欲と、意思と、方法が自分の手元になかった。
- ・現在は、自分なりの方法で問題に取り組むことを重視しています。また相談をする可能性はあります。
- ・精神的科に通院しているが、医師を信頼出来ないから相談してもスッキリせず逆に後悔するから。
- ・就業中。
- ・相談しても就職できるわけではないから。

問17で「13 相談したことはない」、または問18で「13 相談していない」と回答した方にその理由を聞いたところ、「悩みを相手にうまく話せないと思うから」が16.8%で最も多く、次いで「特に悩みがないから」が15.2%、「相談しても解決できないと思うから」9.6%となっている。

問20 皆様が日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。(〇はいくつでも)  
(集計総人数=185人)



「15. その他」の内容

- ・ 社会福祉協議会、アウトリーチ、家や居場所づくり。
- ・ 適正と性格に応じた仕事を斡旋してくれる。
- ・ 履歴書の書き方とか、面接のやり方を全部個別で教えてほしい。面接のときに一緒に来てほしい。(例えばハローワークの人が一緒に来たり)
- ・ 土日も利用できないと意味がないです。

日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があつたらよいか聞いたところ、「悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている」が50.8%で最も多く、次いで「無料で相談できる」が48.6%、「親身になって相談に乗ってくれる」が46.5%「一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる」が40.5%となっている。

**問2 1 最後に、あなたが日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。**

■ 相談受付体制について

- ◇ なかなか思うように就活ができず、困っていたところ、就労支援センターの方や、サポステの方に相談にのってもらえ、現在の仕事が出来ていると感じます。大変有り難いと思っています。
- ◇ 自分がまず何をすべきなのか分からなくなったり、ただただ不安にだけなってしまうたり、悩みに悩みまくっていたりしました。家族と相談しようにも不安にさせてしまうのではないかと心配になり、出来なくなっていました。サポートステーションに行った事で今までかかえていた不安や悩みが少しずつですが、なくなってきました。自分の中では早くなんとかしないとイケないと思ってしまっていました。スタッフの方にあせらずやっつけていきましょうと言われた時は、少し肩の荷がおりた感じがしました。サポートステーションに行ったら本当に良かったと思っています。
- ◇ 知人からの知らせでサポートステーションの存在を知りました。親身になって対応してくれてとても感謝しています。でも、もっと周囲に対してのアピール？があってもいいと思います。良い機関なので、悩んでいる人が気軽に利用出来るようにハローワークなどの窓口でも案内してくれたら良いと思います。
- ◇ 昨年地域若者サポートステーションが変更して職員の方なども新しくなったのですが、人見知りの私としては、環境が変わると、なかなか続けて相談する事が難しいので相談機関に行かなくなっていました。契約などがあり長く同じ方々が勤務するのは難しいと思いますが、相談した事がある方と少しでも長く接したいという希望です。
- ◇ 地域若者サポートステーションのパンフレットの表紙に「本気を出していないだけ」などとマイナスなことは、書かないで欲しい。
- ◇ 相談したことを、例えば若者サポステのスタッフ同士でシェアしてほしい。スタッフみんな均等に話せるように。

- ◇ ハローワークで職場の嫌がらせについて相談を聞いてくれる窓口を作ってほしいです。
- ◇ アスパムにハローワークがあるが、弘前のように駅ビルやアウガにあってもいいかと思う。
- ◇ 本職に支障のない時間、日にちで働ける副職の紹介（副職専門で紹介する機関など）
- ◇ 近くに相談機関があったとしても、場所が分からない。わざわざ遠くにいっても、解決したとは思えず、結局つづけて行かなくなる。の繰り返しになり、結局何も解決しないまま、次の職場に行ってしまうたり、あきらめてしまう→いろんな人の目が気になってしまって、上手く相談できない。ハローワークで相談しにくい。
- ◇ 仕事先が決まらないまま時間が経つだけなので、ハローワークは相談を受けたりするだけではなく、もっと親身になって探してもらいたい。あまり頼りがいがない。収入が無いので年金が支払えず、今後の不安。
- ◇ 職業安定所などまでの交通費サービスを考えてもらいたい。毎回のお金がかかってしまう。公務員ばかり得してないか？
- ◇ 何年も職についてないと、仕事を探すのが面倒くさくなるし、資格も免許もないし、働いた経験がないってだけで、何で何度も何度も落とされなきゃいけないのが本当に嫌で、こっちは頑張ってるのに面接の人は全然わかってくれないし、何か話すと思ったら説教されるし、何でわかってくれないんだろうって何回も何回も思っていると仕事を探すのが嫌になって、結局何年も働いてない生活が続くんです。だからってハロワみたいなかにも職探してますみたいなところに行きたくない。あそこはふんいきが悪いし、もっとフレンドリーみたいなカフェみたいなおしゃれな空間にしてほしい。ハロワ＝職探しのイメージしかないから行くのも勇気いるし、憂鬱になるし、本当にあの空間が嫌いです。もっと職探ししている人の気持ちをわかってあげてください。働きたいのに、そっちが採用してくれないから、いつまでたっても仕事に就けません。簡単な雑用でいいから本当に誰か仕事をください。じゃないと社会に嫌気がさして自殺したくなるんです。この気持ちあなたにわかりますか？きっとわからないでしょうね。だからこうやってアンケートとるのも意味無いと思います。どうせ誰も見てないし、そのうちこの資料捨てるんでしょ？そっちがこれ読んで行動に移さないなら何の為にアンケート取るんですか？仕事に就けない人の気持ちも理解出来なくせに、アンケート取ってる暇あったら行動しろ。
- ◇ 面談、面接の予約などしなくてもフラッと立ち寄って利用者どうしが雑談できる空間のある相談所。
- ◇ ハローワークなどで求人票と異なる求人を出している所や離職者の多い会社をきちんと伝えて欲しい。ブラック企業の求人などは公表してほしい。私は以前勤めた会社で休憩時間もなくて一日中お客さんから苦情対応におわれ体調を崩しました。人間も信用出来なくなりました。悪質な会社の求人は出さないでほしいし、確認して情報提供して下さい。

- ◇ この県にはまともな求人がほとんどない。周りの年配者は「どの会社もブラックだ」「先がない」と口にしている。もっと優良な企業や求人がないと、何も変わらないと思う。ハローワークの受付の態度が悪いので、直してください。
- ◇ 支援機関を利用させていただいていますが、辛いという気持ちを吐き出せた事で少し楽になりました。ただ実は自分が何を相談したいのか分からない事が多いです。考える事があっても「こんな事を相談していいのだろうか」と思ってしまうので、なかなか相談できません。雑談をするには楽しかったです。
- ◇ 就職活動に関する悩みは、友人など近い関係の人にこそ言えない悩みだと思います。バカにされたり、怠けている、甘えていると思われれます。家族も同じです。狭い地域に住んでいればなおさらです。相談機関がある事自体、知らない人も多いと思います。また、相談機関に相談する事を恥ずかしい事だと思っている人もいるかも知れません。気軽に相談して良いんだ、と言う空気を作る事も必要なのかな、と思います。
- ◇ 相談機関では相談の相手以外に話を聞かれないのですが、行っていた相談機関で他の職員の方や他の予約をしていた人に聞こえてしまうつくりになっていたせいで私の相談内容が聞こえてしまい、同じような嫌な事が3度同じ職員からされた為、現在の相談機関の利用をしていません。
- ◇ 相談する機関を増やして欲しい。
- ◇ いろいろな機関がありすぎて、どこの機関に相談して良いかわからない。
- ◇ 仕事はあっても非正規や給与が低いなど不安定なことが多い。一度つまずくとなかなかルールに戻れない。若者支援、専門家もいるが良くわからない民間団体もある気がする。相談機関は敷居が高い人、知らない人もいるのではないか。今は未来を安心できて暮らせるだけの収入がほしいです。
- ◇ 現在、就職し働いておりますが、職場での人間関係や会社の業績面で不安を感じております。もちろん今の職場で出来ることは精一杯やるつもりですが、もし現在の職を失ったら次に受け入れてくれる会社があるのか、また生活していけるだけの収入を得られるか心配でなりません。時々不安が大きくなった時は、以前就職の事で相談した相談機関で相談しており、悩みを聞いてくれるところがある事を、心強く思っております。私は、溜め込んでしまう性格ですので、身近な人に相談しづらい事を話せる場所があるのは助かります。
- ◇ 相談機関について。この前見学会に行けず（企業）、それ以来連絡がなくて少し寂しい思いをしています。当日熱を出してしまった自分も少し情けないのですが、どうして良いか分からず困っています。毎日不安で仕方ないですが、”なんとかなる”で乗り切っております。

■ 必要な支援・サポートについて

- ◇ 県内にもう少し、障害がある人に対する支援機関があれば良いと思います。また雇用してくれる場、理解のある環境が整ってほしいです。
- ◇ 自分は発達障害があるが、就労のA型などで働くほど重くない。しかし一般でやってくれるほどでもない。できれば親元を離れて立ち立たいが、障害者雇用ではなかなか一人暮らしてできる程稼げる求人がない。
- ◇ やはり障害者は稼げないのだろうか。前の職場のように「何も仕事ができない」と怒られながら一般で働くしかないのだろうか。
- ◇ 私は小一から不登校で勉強したくてもできるところがなかった。学校に相談してもまったくとりあってもらえず、どこにも（病院）行くことができないというか紹介すらされなかった。ただ家の中で過ごす事しか出来ず学生生活は、ほぼしてない。もっと早くに相談にのってくれるところがあったら障害だって早くにわかったはずだし、やりたかった勉強もできたはずだと思うと悔しくてたまらない。小さい田舎町にも、もっと相談できるところを増やしてほしい。20年以上前のことだから仕方ないかもしれないけれど、せめて学校側は、相談できる「場所」をちゃんと紹介するべきだったのではないのでしょうか。その後遺症みたいな感じで、今だに学生がうらやましい（もっと勉強したかった、楽しい学生生活をおくってみたかった。）。小学一年生で心がとまったままだから25歳過ぎてるのに大人になりきれない。
- ◇ 強迫性障害を克服できる機関などが弘前にできればいいなあと思っています。
- ◇ 障害者認定を受けたが、精神や知的障がいと違って視覚障がい者への支援や理解（級が低い者への理解）がまだ不完全だと思う。
- ◇ 成人して、この世の中が、後期高齢化社会とストレス社会と子供がいる主婦の皆さんが、働ける社会になってほしいし、同じ悩みを持つ方々も一緒に仕事出来るようにしてほしい。同じ悩みを持つ人と出会える「団体」や「会」などいっぱい増してほしい。
- ◇ これからもっともっとどこにでも相談に乗ってくれるところを増やして下さい。それをずっと継続してほしい。仕事に慣れるまでものすごい時間がかかるからそれを職場にもわかってもらえるよう間に入ってほしい。
- ◇ 自分で説明することが苦手なため良い支援の幅がこれから増えていくようになる事を願っています。
- ◇ 今後ますます息苦しい社会になるがそのたびにこまめなサポートを希望します。これからも御協力をお願いします。
- ◇ どんな仕事にも職業体験があった方がいいと思っています。
- ◇ 就職活動はしていますが、いざ面接を受けるとなかなかうまくいかないのでも、仕事をしたくても、そこまできません。誰かの紹介があつての仕事とかあればいいのですが、自分で探してする仕事がありません。何かいい方法がありましたら、お力いただきたいと思っています。よろしく願いいたします。
- ◇ 就職したいが親身になって教えてくれるところを必要としている。
- ◇ 自分に合った相談機関、相談場所があること自体最近まで知らず、とても悩んでいたし、就職活動がうまくいっていなかった。きちんと相談できる場所、人を見つけられたおかげで短期でも継続して仕事が出来ているし、自分に合った仕事を紹介してもらえてい

る。ハローワークの通常の相談窓口ではただただ焦りしかなく、面接もうまくいってなかった。もっともっと、その人に合った場所等をわかるようにしてほしい。青森、弘前まで行かないと相談窓口がないのも不満。

- ◇ 助けを求めている声なき声をもっと探してもっと見つけようとして欲しい、それを切に願います。そして、もっと連携を密にして欲しいとも思います。行政でも、民間でもNPOでも、どこでもいいと思うので。それに民間の力を信じていいと思うので。
- ◇ 何年間も、外の社会とは、関わることなく生活をしていました。地域若者サポートステーションを利用しはじめてから、数年かかって、やっと、人と少しずつ話ができるようになりました。社会に適応していくまでには、まだまだ時間がかかると思います。これから先、社会に出て、色んな悩みが増えた時、身近に相談出来る場所があると心強いです。
- ◇ もっと無料で利用できる若者や障害者や金銭的に困っている人達が利用出来る機関を増やして欲しい。もっと無料で学べる場所が欲しい。
- ◇ 弘前のサポステに通っていて、普段、人と会話をしないので、相談員と会話をして楽しんでいる。
- ◇ 働けない人達への支援もさることながら、働き始められた人達へのサポート、相談機関の充実。
- ◇ 10年以上就職活動をしているが仕事がまだ決まらないので長期間就労経験のない人やブランクがある人の為に軽作業や個人の特性にあった仕事などをさせて少しずつ社会性やコミュニケーションを身につけられるような所があれば良いと思う。また、自室や自宅から出られない人達の為に地元企業と連携しインターネットを通じて仕事を在宅で出来るようにする登録サイトがあれば良いと思う。
- ◇ 面接練習などを無料でしてもらってとても助かりました。これからも機会があればお世話になろうと思います。
- ◇ 親身になって聞いていただけること。家族以外の第三者の意見も貴重なものなので、このような機関はなくならないでほしいです。
- ◇ さまざまな職種、専門職以外も相談できるといい。女性の為にメイク講座をいろいろなメーカーでやってほしい。
- ◇ 就職するための相談だけではなく、働いている人が悩みを気軽に相談できる場があればいいなと思います。また同世代の人や同じ悩みを持つ人達と気軽に交流できる機会がほしいです。
- ◇ 相談機関への要望については、求職者がステップアップ出来る機会を増やして欲しいと思います。私は、過去に職業訓練校の選考に漏れてしまい、落ち込んで就職活動を諦めたりしましたが、常に門戸が開かれている方が、就職や社会復帰がしやすくなるのではと思います。また、講義形式ではなく実践的な講座を多くした方がよいと思います。例えば、電話の対応やビジネスマナー等。ブランクが長い人には始めから面接に行くのはハードルが高いので。
- ◇ 経験や知識が少ないので、いろんな体験が出来たり、いろんなことを学べたりするところを増やして行ってほしいです。また職場体験は、1日2日だけでなく、もっと多くしたり、もっといろんな体験先が増えて行って欲しいです。同じ悩みを持つ人との交流の場所や、自分に合う物が見つかる場などがもっと増えて欲しいです。

- ◇ 日常生活は、人との交流が家族、親せき以外の人とはまったく機会がないので、これからは、人とたくさん交流したいと思う。あと同じ地域で友人があまりいないので、気の合う友人も何人かほしいと思う。同じ趣味の知り合いが何人かほしいけれど青森にそういう集まりなどが無いのでそういう人とコミュニケーションをとる機会が少ないのが悲しい。

## ■ その他

- ◇ お金がなくてなかなか就職したい仕事に本格的に取り組めません。どうしていいのかわかりません。
- ◇ 仕事はしているものの、非正規での雇用のため、生活が安定せず、将来に希望が持てません。夢として「起業したい」との目標をたてたものの、県内には、資金を貯められないな、と半ばあきらめています。もう少し改善できれば、と思います。(条件などの面で)
- ◇ 自分の家ではお金がないので車の免許及び所持ができないので働くところがない。
- ◇ 思う様に行かない時もありますが、自分自身が納得した所に行き仕事ができる事は自立への一歩だと思います。不平不満を言うにしても、中々言えず、ストレスを抱えて生きて、辛い時期もありました。何事にも、良い方に考えるようにしとけば自然とチャンスが来るかもしれません。チャンスを確実にするためにも、日頃からの準備が必要です。
- ◇ 私が大学を卒業して八戸に戻ってきた時には就職そのものが厳しいというのもありましたが、情報が少なかったように思えました。いろいろ経験するうちに、若いうちにこういうのがあったらよかったのと思う事も多いです。ようやくアルバイトを始めても上手くいかずに考えこんでしまって調子を崩した事もあります。今現在、私ではないですが、同じような状況に落ちいる若い方も見てきました。まともに頑張ろうとする人を支えて良い方向へ促すものが必要だと感じ、出来る範囲で助言したり自分の経験を交えてお話ししたりしています。まともな人を失望させないように、困った時に支えとなる何かが必要なのだと、常日頃考えて私自身も早期就職に向けてがんばりたいとおもいます。
- ◇ 10年ほど東京で主婦をしていた(たまに働いて)こっちに帰って来て、色々と気付くことがある。良いことも多いのだが悪いことに関していえばいい年こいた大人(主に70~80代の老人のこと)のモラルが低く、平気でその辺にゴミを捨てたり教養がなさすぎる。そういう人たちが強いのがなんでだろうと。そして行政の下で働く人の意識の低さも目に余る。市民や客の立場が弱い。「面倒」・「お金がない」この2つで片付ける人が多すぎ。若者がいくら頑張っても足引っ張りが多くていやになる。
- ◇ 働く気はあるけど、音とかうるさいのにびんかんなのと人多いところが苦手なのと人間



関係の悪口とかが苦手。家でできる仕事あるならそれがいい。女同士のいざごどとか悪口とかそういうのも苦手。聞くだけでいやな気持ちになって落ち込む。

- ✧ 大卒は正社員じゃないといけないという空気があるように感じる。息苦しい。
- ✧ 自分に自信が持てない中でとにかく早期の就職を求められプレッシャーとなっている。
- ✧ 就職が決まらず卒業し、一度就職したけれど十二時間勤務無給、月給5万円等で働かされた事があるので安易に仕事を選べない。それでも親は「何でもいいから仕事しろ」と言う。自分はもう仕事選びに失敗したくない。年配の男性から性的暴行を受けた事を母に頼らず警察に行けば良かったと後悔した。年配の男性と話をするのが嫌なのに母は薬局で働けと言う。薬局のレジにいる女性に、年配の男性が長々と話しかけているのを見てから自分は絶対にやりたくないと思っている。しかし母は何でもいいとしか言わない。性的暴行の被害にあったのも、お前が悪いと言われた事があるので、母には私の悩みは理解されないのだと思う。母とは仲が良いし、母しか頼れる人はいないが就職や人間関係に関して母は信用できない。友人は前に東京に住んでいた頃の友人しかいないので近くに相談できる友人もいない。人や人が触ったものにも触れないので、接客業に対して前向きになれない。せめて住みたい町で少しでも興味のある仕事での接客業ならまだしも県内でそんな仕事もない。この県が大嫌い。
- ✧ 企業も若い人が欲しいだろうから新卒にチャンスが多いのは仕方がないかもしれないがもう少し上の年代にももっとチャンスがあってもよいのではないかと思います。
- ✧ いくつかアルバイトを経験したが、全て対人関係、特に仕事を教えてくれる先輩、上司と上手くいかず長く続くことがなかった。どこへ行ってもこのようなことが起こるのかと思うと就活なんて出来ない。採用されたとしても精神的に病んでいくだけと考えてしまう。バイト面接で担当者に見下され馬鹿にされた事もあり、人への不信感が増えていくばかり。自分にも非はあったのだと思うが、新人を育成するシステムというよりも職場の環境、一緒に働く人に恵まれなかったように思えてならない。最近ではグループの中で働いていくことが出来ないのだと感じている。自分に合うひとばかりがいる訳ではない。それは分かっている。ただあまりにも自分の敵が多すぎて身動きが取れずにいる。
- ✧ 仕事について、自分の希望が親に反対されています。どうしたら自分の希望を諦められるのか、ずっと考えています。そのせいか仕事探しに積極的になれません。働いていない今の状況がとても辛いです。
- ✧ 自分は親とあまりいい関係ではなく、仕事の話などはしたくありません。なのでこのようなアンケートを保護者の分も渡されても書いてほしいとお願いするのもとても苦痛でした。考慮していただけると幸いです。
- ✧ 両親の年齢に伴う体調の悪化が心配。
- ✧ 転職希望で、ハローワークにも通い、いろいろと探してはいるのですが、学歴でひっかかってしまいます。やはり、正社員、正職員として働くには高卒の資格がなければ厳しいのでしょうか…しかたがないこととは思いますが、やっぱり落ち込みます。それでも諦め

ずに頑張ります。

- ◇ 面接時に学歴について言われたり、性別は関係が無いような仕事なのに性別について言われたりされるので、就職活動をしなければならないのは分かっていますが、やりたくないなと思ってしまいます。
- ◇ 面接に行き落とされたが、未だ求人がある。自分が適しているとまではいかないがずっと求人を出すくらいであれば一度採用してみればよいのではないかと思っている。わがままだろうか…。
- ◇ 転職回数が多いと、不利なのは重々承知ですが、そこだけではなく面接での感じも採用の判断基準としてほしいです。
- ◇ パソコン必須なのは分かるが、出来ないからと言って落とすのではなく少しでも身につくように採用してから支援する方法もあるのではないか。
- ◇ 就職活動は自分の趣味に合った仕事がしたいと思う。自分がやりがいのある仕事に就きたい。
- ◇ 就職活動において、自分に劣っている部分、足りない部分を具体的に知りたい。
- ◇ ハローワークやジョブカフェなど、就職活動について相談する(できる)場所はあるが、そもそも県内に仕事がなく、求人がないので困っている。また、求人があったとしても、月給 12 万～14 万(正社員で)のものが多く、一人暮らしもできないため、県外で就職活動することも考えなければいけない状態で大変。
- ◇ 働く場所が少なすぎる。主に、介護の仕事が多すぎ。
- ◇ 自分の考えや思い、感じた事など、「個性」を否定しないで欲しい。100%その通りになることは非常に困難なことであり、「統一感」が必要な場面もある。100%通りにするのも、苦痛だと感じる人もいる。だから両方の考えがバランスよく保つ社会になってくれたらと常に考えています。
- ◇ 感じていること(日常生活について)。人付き合いが苦手なのは、自分自身が人と違うからだと思います。人の本能が(生まれつき持っているもの)自分には備わっていないからだと思日頃思います。感じていること(就職活動)。特にありません。今年に入って引っ越してから環境がガラッと変わり、戸惑い、不安がたくさんありました。(今もあります。)
- ◇ 世の中には、土、日、祝休みの人には優しく、それ以外の人には優しくないと感じる時があります。連休になる様になる「〇〇の日」。ニュースでよく見るプレミアムフライデーな人がいい例で、そういう事になると、サービス業や接客業の人はますます大変になるしストレスたまる一方です。観光客を相手にする仕事についていますが、大半の人が「客なんだから」と横柄な感じの人ばかりで、そういう人はこないで欲しい。店員も人間なんだからって解ってほしい。
- ◇ 結婚し子供を産み最中お金がかかる時期なのに世間は「ママ」が働きやすい場を作らないのはなぜですか？学校に通っている5～6時間の「ママ専用枠」みたいなものを企業

に作ってほしい。ある程度規模の大きい会社、病院などなら出来そうですが……。待機児童（保育園ママ）ばかりに目を向けるのではなく、小、中学校に通っている家庭にも目を向けてほしい。フルで働きたくても小1の子供には負担が大きい。旦那の協力なし、親の協力なし、ママ一人で「子育て、学校の事、家事仕事あり」で生活して行くのは限界がある。技術もない、資格もない子持ちには企業にとって「おにもつ」なのでしょうか。世の中の「ママ」がつぶれてしまいます。

- ◇ 私自身、今現在主人と離婚前提に生活をしていて、精神的に上手く気持ちの整理ができず、心を平常に保つのが苦しく子供達の存在で、何とか就職活動や資格取得の為の学習や仕事、家事と頑張っているのですが、もっともっと求職活動をしながら、さまざまな家庭環境や悩みを抱えながら生活をしている方もたくさんいると思います。相談員の方から何か一言でもいいので、こまめに連絡をとってくれるなど、悩みが解決するまで一緒に寄り添ってくれると私自身もとても気持ちが救われると思っています。
- ◇ 様々な職種の方からお話を伺える機会を設けて欲しい。子育て中の女性の就職支援セミナー等はありがたいが、内容をもう少し練ってほしい。子育て中の女性を講師として迎えられても、裕福な恵まれた環境の中で働いてきた方の話を聞いても参考にならないので止めて欲しい。保育園の一時預かりも断られる事が多く、1h¥500など高いので困っている。
- ◇ 正社員やパートに育児休暇を取得させている求人が少なく、長く働けそうにないと応募する気力がなくなる。
- ◇ 10年以上、ひきこもり状態で、この先について考えられない。相談したい気持ちはありますが、何から相談したらいいのかわかりません。
- ◇ 今の仕事に就く前、3～4年ほど引きこもり、半引きこもりの時期がありました。そのせいか体力がなく、仕事が休みの日はほとんど家で寝て過ごしています。以前は外出して人に会ったり、見られたりするのが嫌だし、趣味はゲームやパソコンだったので家から出たくなかったのですが、最近は対人恐怖は大分やわらぎ、外に出ていろいろなことをしてみたいと思います。ですが体力、気力不足により何もできない日々です。つまらない。悩みを全て書くにはこの余白が少なすぎるため省略しますが、やっぱり死にたいと思います。ただ思うだけで結局何もできやしないのですが。いつまでもこの生活が続くかと思うと、気分が良くないです。それどころか維持するために最大限の努力をしなければいけないというのが実に悲しい。
- ◇ 生まれなおしたい。
- ◇ 違う人生を生きたかった。
- ◇ “働きたい”ではなく、“働かなければならない”と感じてしまっています。正直に働きたくないと思っています。その為、いざ希望に叶う求人が見つかってもし面接まで持っていく事にためらいがあり、未だ踏み出せずにいます。相談機関にお世話になっており、少しずつ改善され前を向いていこうという気持ちが高くなってきている所です。頑張

りたいと思います。

- ◇ どの職場にいても、人間関係が上手くいかなくなり、会社に居づらくなります。そして仕事が長く続きません。
- ◇ なかなか就職できずにいるので、不安に感じています。早く仕事がしたいです。
- ◇ 生活保護へのハードルの引き下げ(お金を稼いではいけないとかアルバイトしていると保護は受けられない) 車を持っていると駄目とか(地方は車がないと働けない)等、改善される事で、アルバイト等の収入と生活保護で暮らしていける人もいます。又、生活保護を受けようとする人への窓口の対応が冷たい事もあり、本当に必要としている人が相談に訪れにくい事は問題だと思えます。
- ◇ 私は現在、企業にアルバイト（7時間勤務）で雇ってもらっております。しかし、2月中頃に期間が終わります。また就職活動をしなければなりません。何時も感じることは、青森県の雇用は若年者には優しくないということです。Uターンの若者を求めているわりには条件が短大卒、大卒の求人が多く、高卒の私のような者には応募資格すらありません。「それなら県外へ行けばよいのでは？」と思われるかもしれませんが、私自身出身ですし、県外へ出る資金すらありません。県内の企業は賃金が安いだけならまだしも、非正規雇用ばかりです。何故、仕事を覚えて懸命に働いているのに正規に雇ってもらえないのか？人を使い捨てるようにし、人を育てようとしないのか？「仕事をシェアし、沢山のの人にやってもらう」という制度のデメリットを考えた事があるか？私は、この青森県は住みやすく出来れば出たくありません。しかし、このままこの土地にいても、私のような者には「未来」が無いように思い、不安になる時があります。「働き手が欲しい」と訴えるなら、もう少し若年者のことを考えた条件、魅力的な事業、企業を展開する必要があるのではないかと考えております。
- ◇ 一人ではなく誰かといっしょにいたい。
- ◇ パートやアルバイトであっても定時で終わる会社が少ない。
- ◇ 正社員に戻ろうと思うのだが、また周りに迷惑をかけるのではないかと、コミュニケーションがまたとれるか不安。
- ◇ 人の前に出るのが怖い。
- ◇ 笑顔を出すことに抵抗がある。
- ◇ 働く意欲が湧かない。

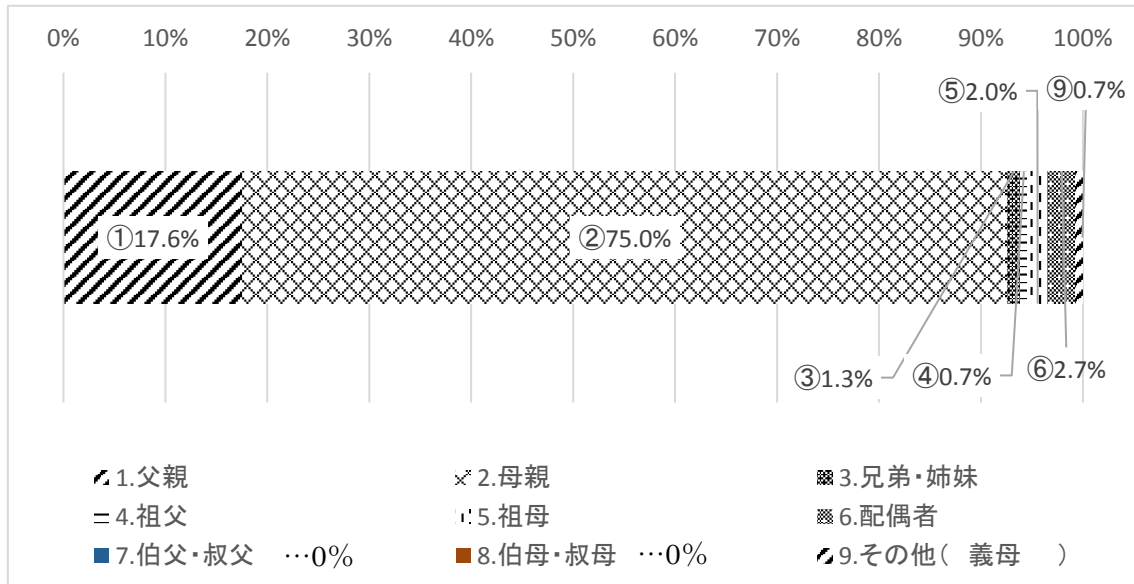
## 【A調査】

15歳から39歳までの若者（学生を除く）及び  
その保護者等を対象とした調査  
イ）保護者等を対象とした調査



問1 「ご本人」との関係をお答えください。

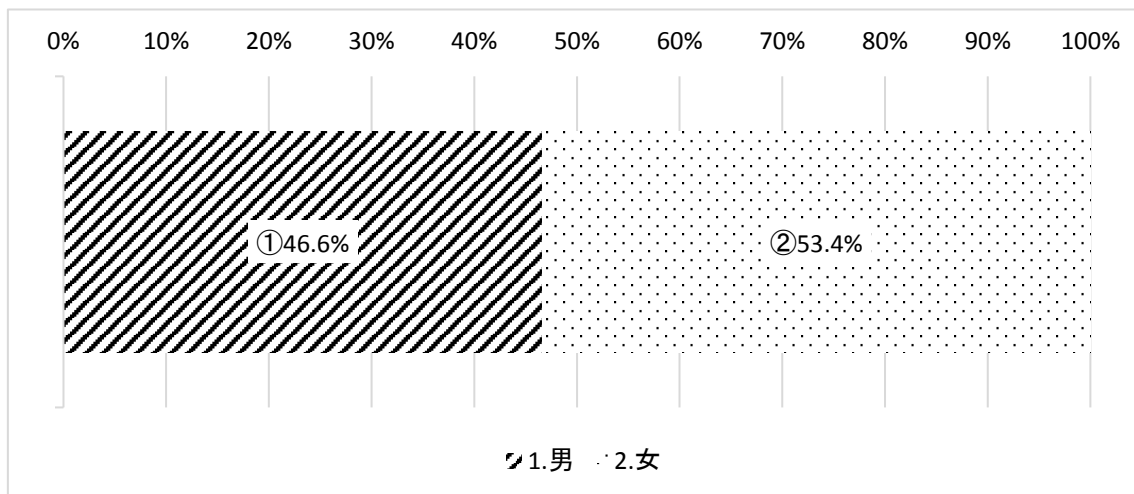
(集計総人数=148人)



本人との関係を聞いたところ、「母親」が、75.0%と最も多く、次いで「父親」が17.6%となっている。

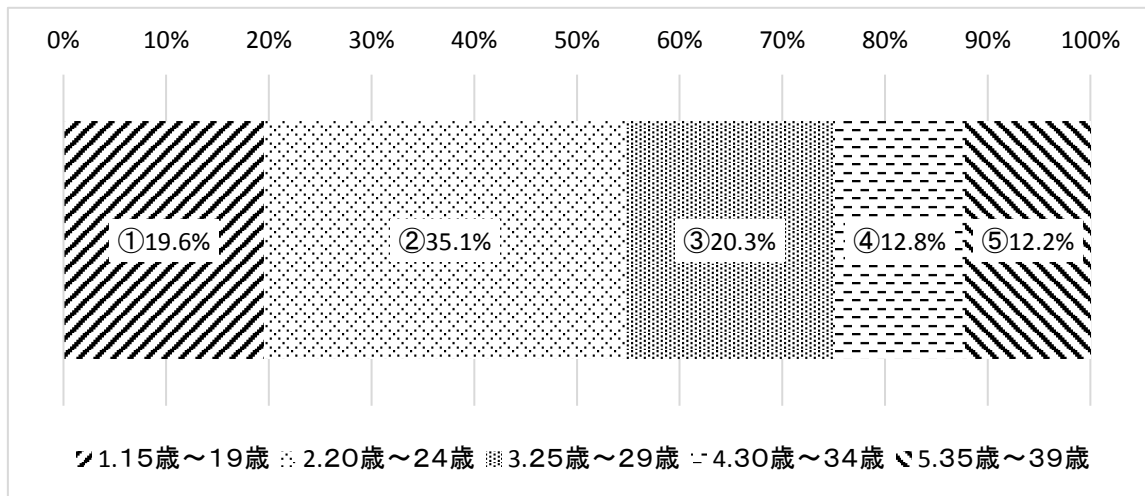
問2 「ご本人」の性別をお答えください。

(集計総人数=148人)



問3 「ご本人」の年齢をお答えください。

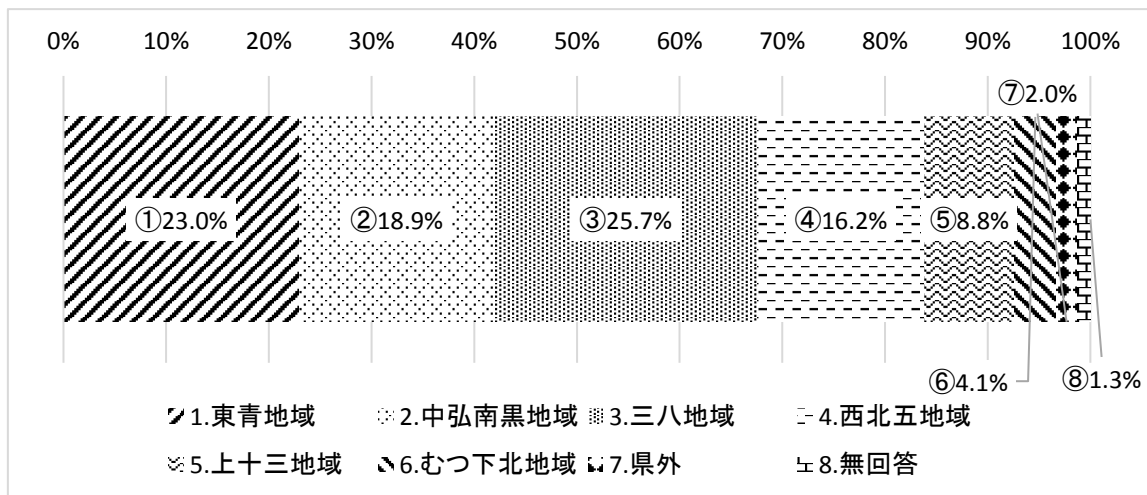
(集計総人数=148人)



本人の年齢を聞いたところ、「20歳～24歳」が35.1%と最も多く、次いで「25歳～29歳」が20.3%、「15歳～19歳」19.6%となっている。

問4 「ご本人」が住んでいる市町村名を（ ）内に記述してください。

(集計総人数=148人)



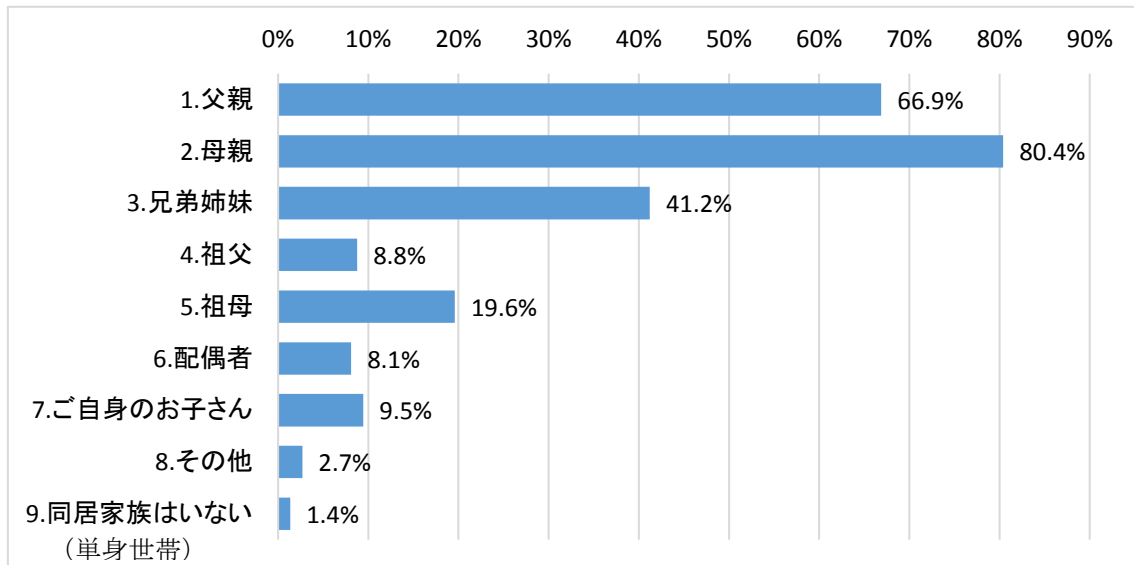
「7. 県外」の内容

- ・岩手県
- ・東京都
- ・神奈川県

本人が住んでいる地域を聞いたところ、「三八地域」が25.7%と最も多く、次いで「東青地域」23.0%、「中弘南黒地域」が18.9%となっている。

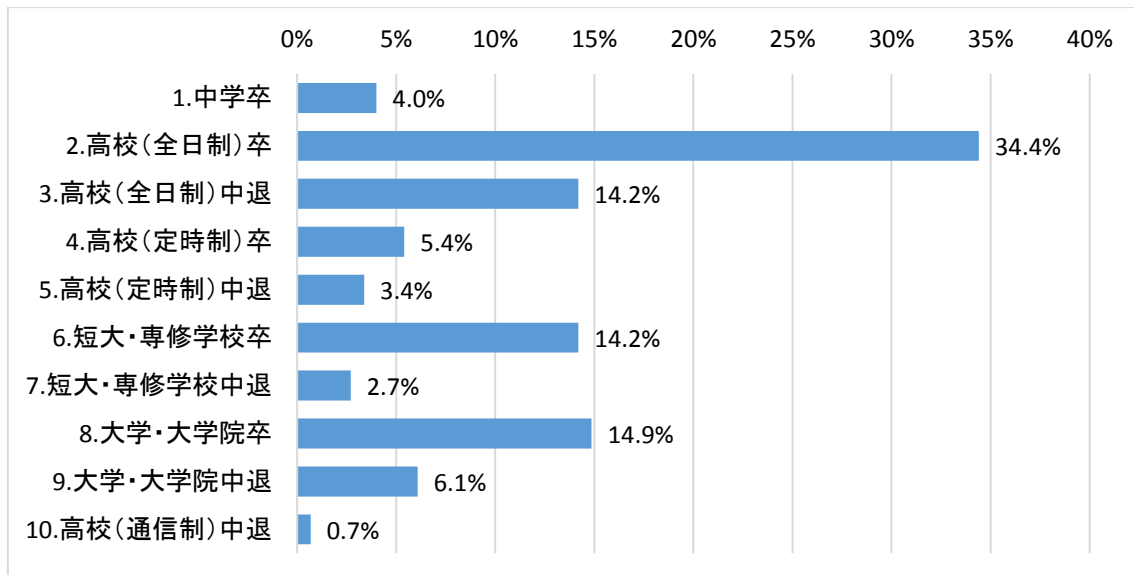


問5 「ご本人」が同居しているご家族に○をつけてください。（○はいくつでも）  
 （集計総人数＝148人）



本人が同居している家族を聞いたところ、「母親」が80.4%と最も多く、次いで「父親」が66.9%、「兄弟姉妹」が41.2%、「祖母」が19.6%となっている。

問6 「ご本人」が最後に卒業（中退）した学校はどこですか。  
 （集計総人数＝148人）



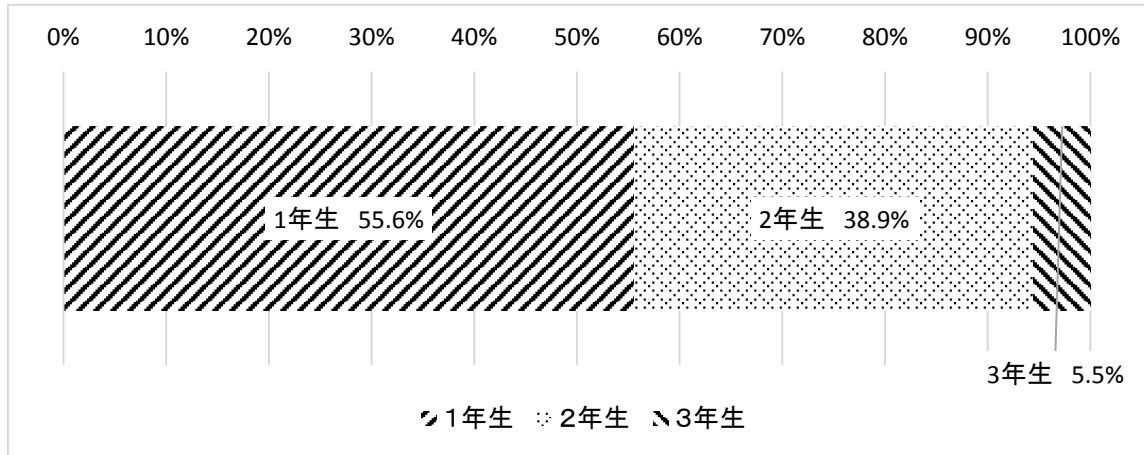
本人が最後に卒業（中退）した学校を聞いたところ、「高校（全日制）卒」が34.4%で、次いで「大学・大学院卒」14.9%、「短大・専修学校卒」「高校（全日制）中退」14.2%となっている。なお、「高校（全日制）中退」が多かったのは、高校中退者へのアンケートも含めて行った集計となっているためと思われる。

問6-1 問6で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

ご本人が①中退したときの学年 及び ②中退した学科 を教えてください。

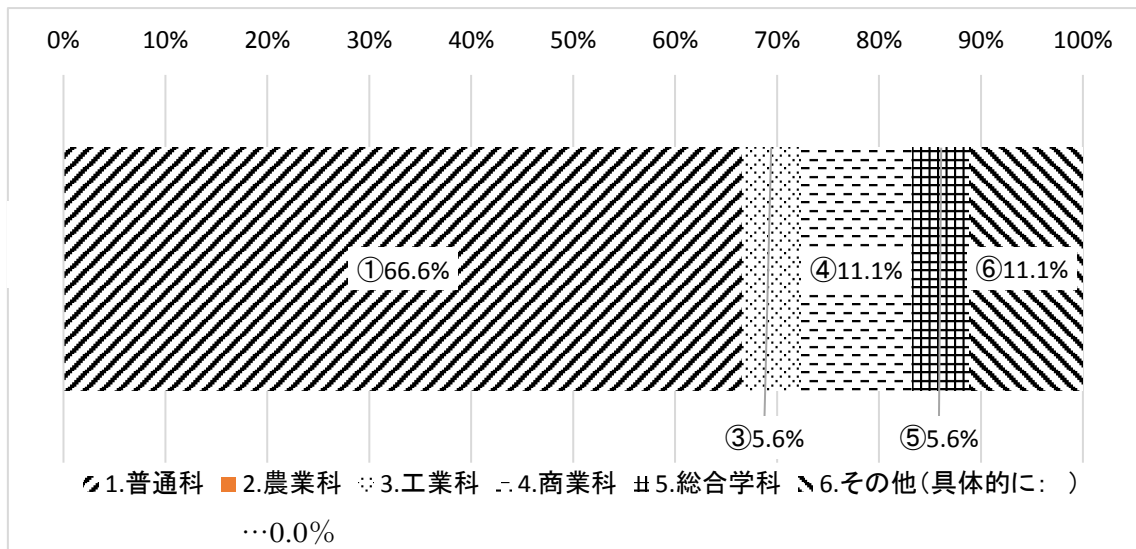
①

(集計総人数=18人)



②

(集計総人数=18人)

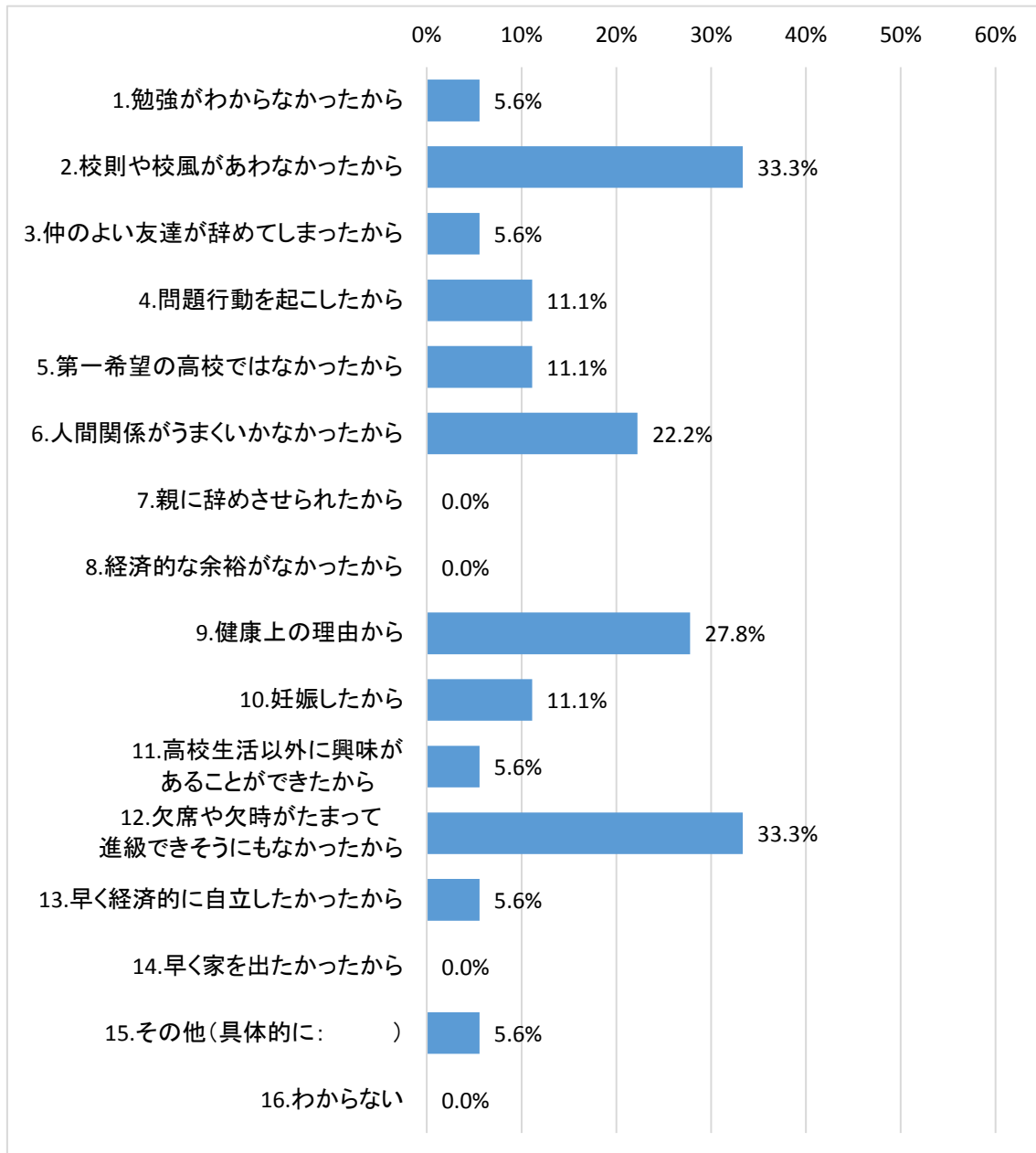


「6. その他」の内容

- ・生活文化科
- ・海洋生産科

問6で「高校（全日制）中退」「高校（定時制）中退」を選んだ方に、本人が中退したときの学年及び学科について聞いたところ、「1年生」が55.6%と最も多く、次いで「2年生」が38.9%となった。学科は「普通科」が66.6%と半数以上を占めており、次いで「商業科」「その他」が11.1%となっている。

問6-2 問6で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。「ご本人」が中退した理由はなぜですか（〇はいくつでも）  
（集計総人数=18人）



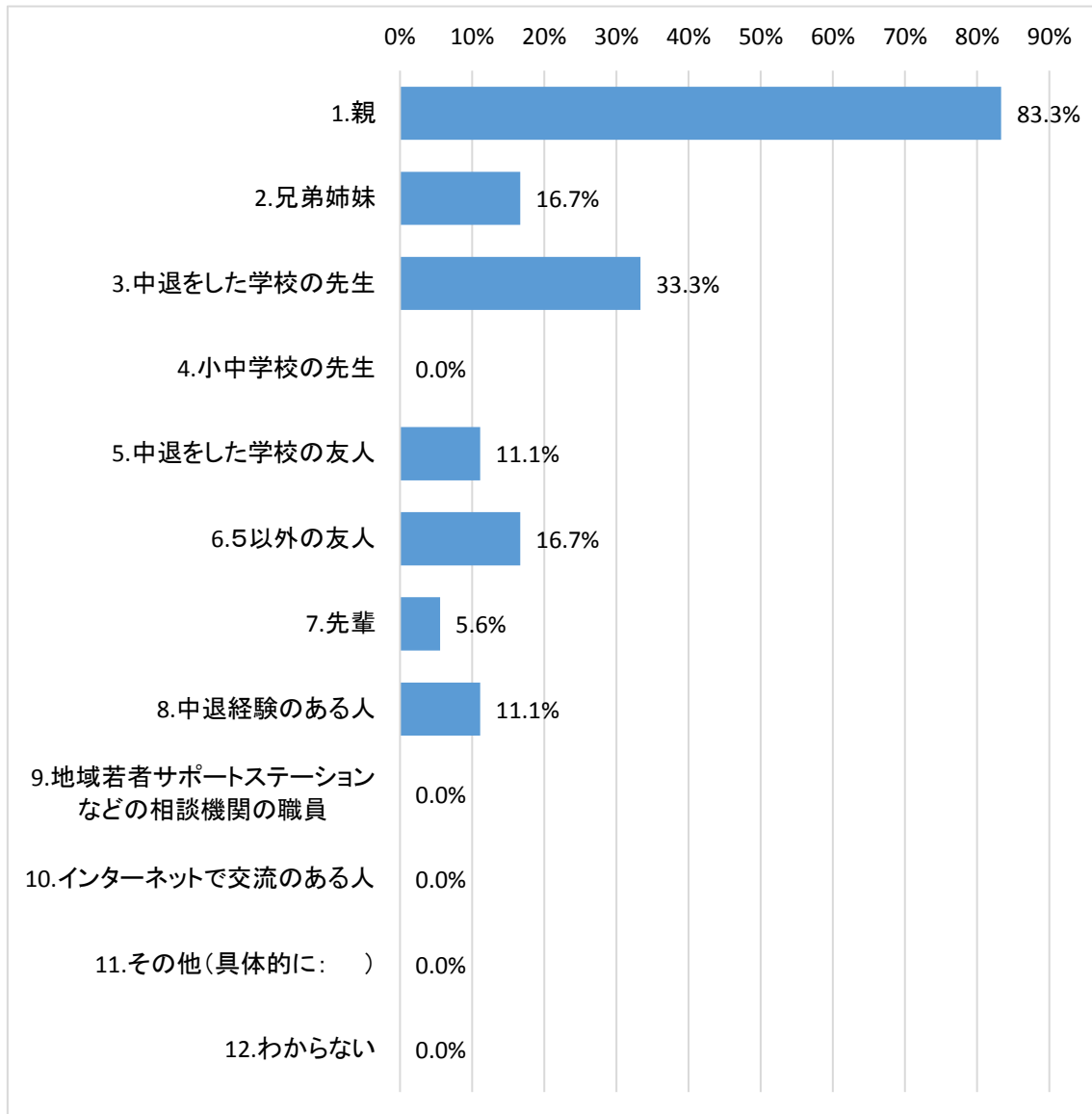
「15. その他」の内容

- ・妹が辞めたから

問6で「高校（全日制）中退」「高校（定時制）中退」を選んだ方に、本人が中退した理由を聞いたところ、「校則や校風があわなかったから」「欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから」が33.3%と最も多く、次いで「健康上の理由から」27.8%、「人間関係がうまくいかなかったから」22.2%、となっている。

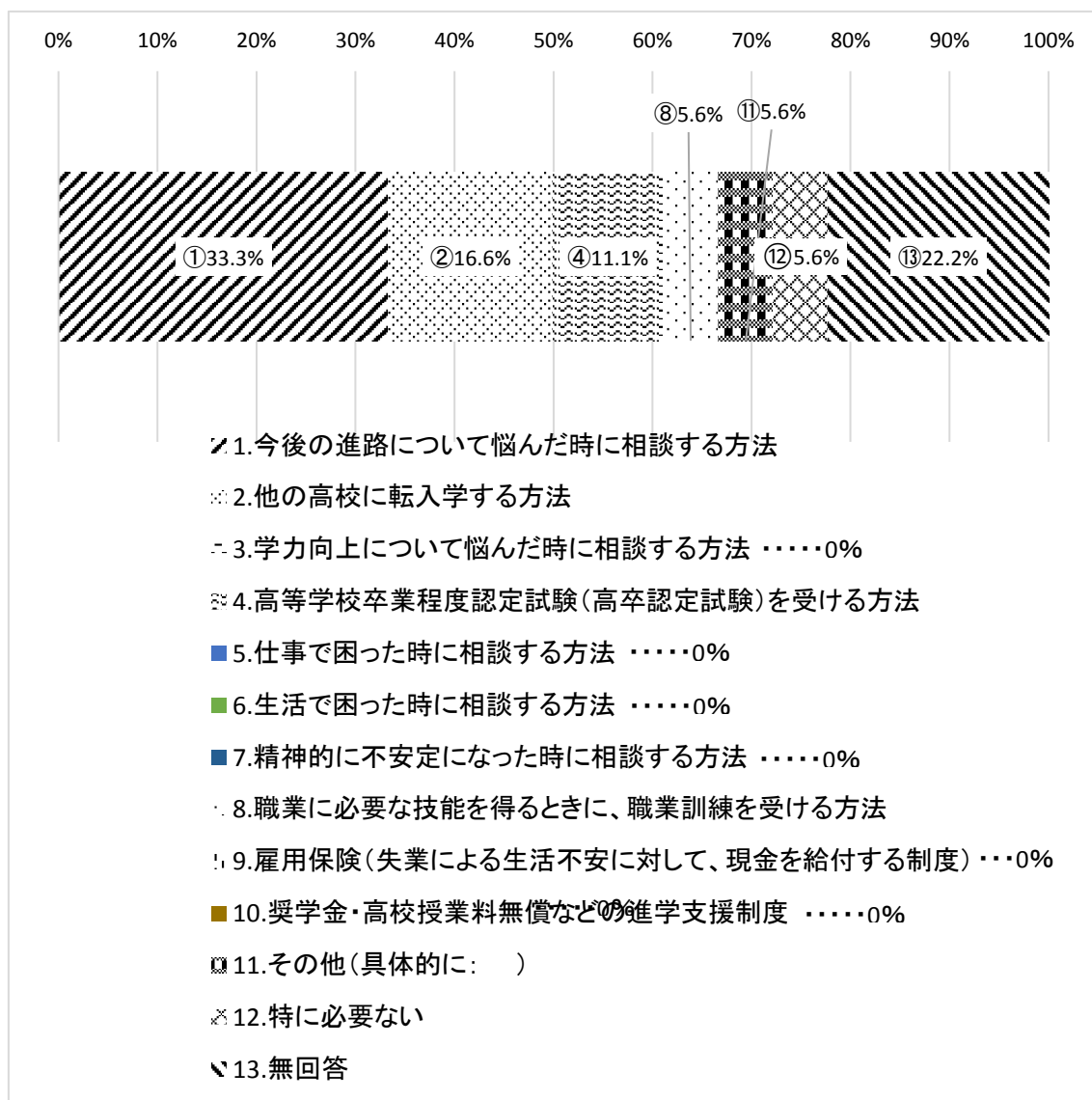
問6-3 問6で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。「ご本人」が中退することについて誰に相談していましたか（〇はいくつでも）

（集計総人数=18人）



問6で「高校（全日制）中退」「高校（定時制）中退」を選んだ方に、本人が中退することについて誰かに相談したか聞いたところ、「親」が83.3%と最も多く、次いで「中退をした学校の先生」が33.3%、「兄弟姉妹」「5. 以外の友達」が16.7%となっている。

問6-4 問6で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。「ご本人」が中退するにあたって、また中退後に、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったのではないかと思いますか。（○は一つだけ）（集計総人数=18人）

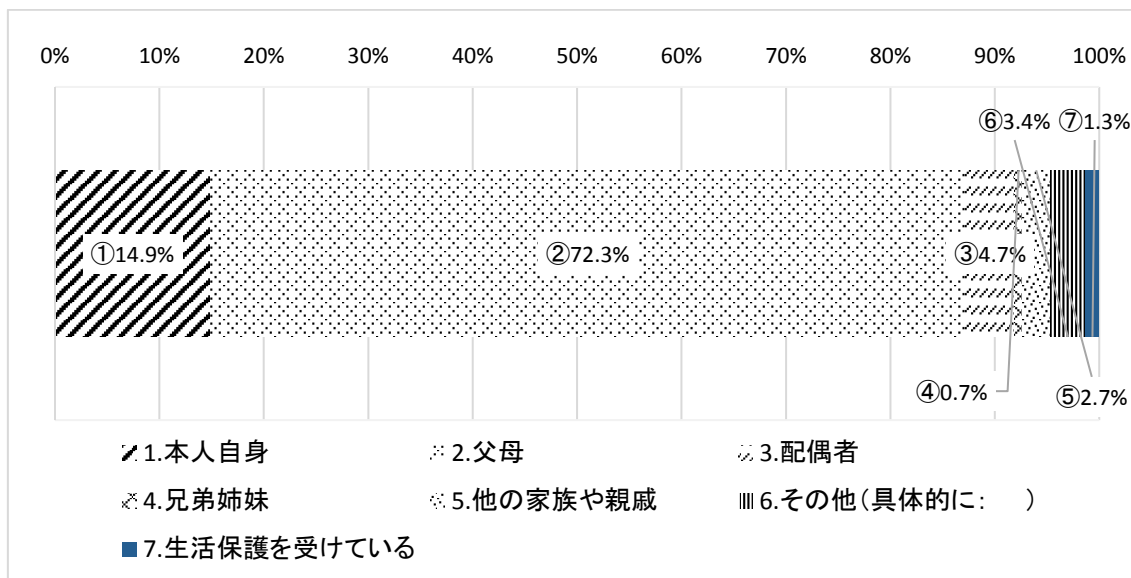


「11. その他」の内容

- ・ Web トラブルの解決法

問6で「高校（全日制）中退」「高校（定時制）中退」を選んだ方に、本人が中退するにあたって、また中退後、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったか聞いたところ、「今後の進路について悩んだ時に相談する方法」33.3%で最も多く、次いで「無回答」22.2%、「他の高校に転入学する方法」16.6%、「高等学校卒業程度認定試験」が11.1%、となっている。

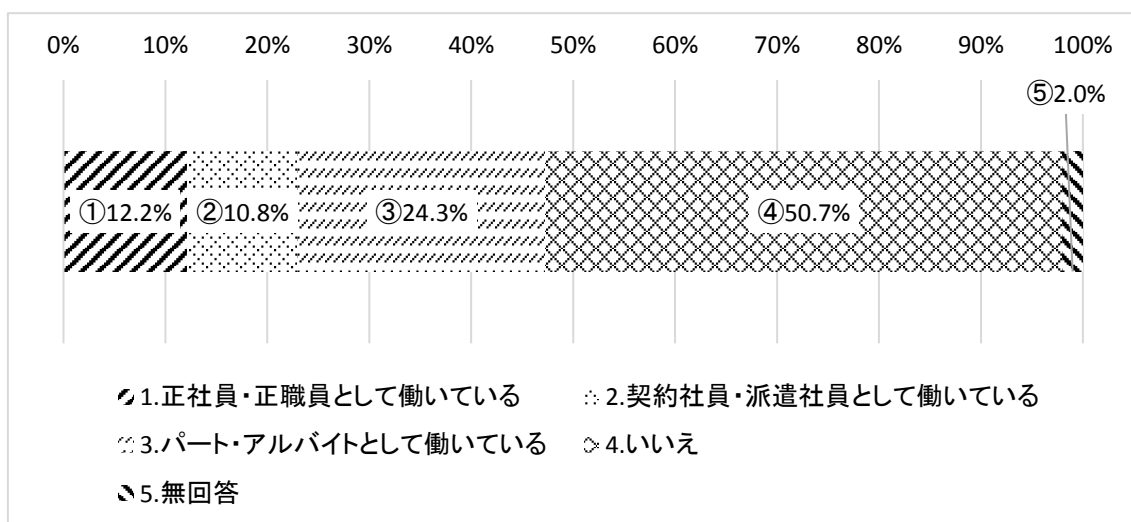
問7 現在、「ご本人」の生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。(〇はひとつだけ)  
(集計総人数=148人)



本人の生計を支えているのは誰かと聞いたところ、「父母」が72.3%と最も多く、次いで「本人自身」14.9%、「配偶者」が4.7%となっている。

問8 「ご本人」はいま、仕事に就いていますか。

(集計総人数=148人)



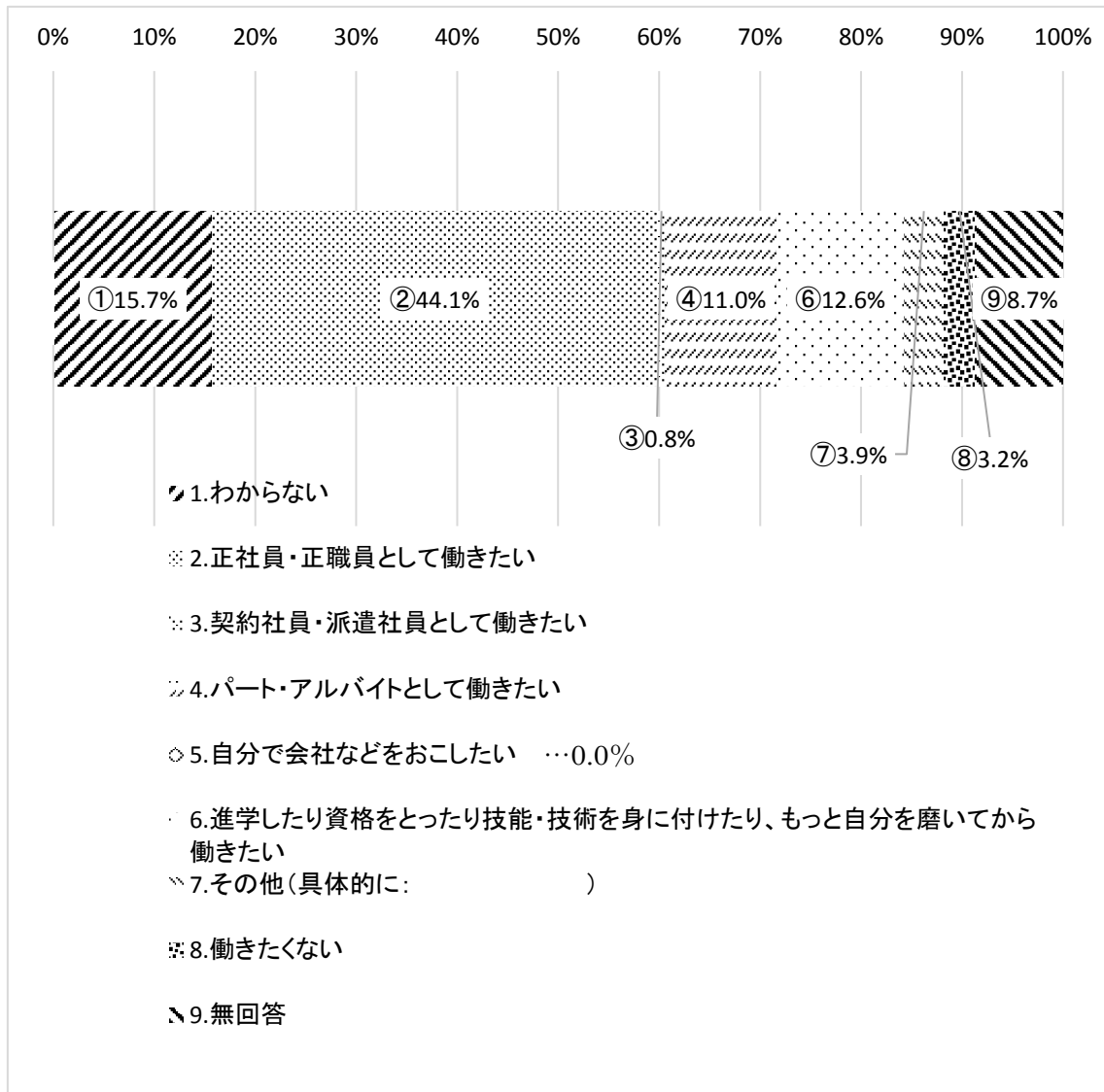
本人が仕事に就いているか聞いたところ、「いいえ」が50.7%で半数以上を占めており、次いで「パート・アルバイトとして働いている」が24.3%、「正社員・正職員として働いている」12.2%「契約社員・派遣社員として働いている」が10.8%となっている。

問9 問8で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または、「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」は、今後の自分の進路についてどのように考えていると思われますか。

(○はひとつだけ)

(集計総人数=127人)



「7. その他」の内容

- ・ 歌手になりたい
- ・ 転職したいと思っている
- ・ 職場復帰する
- ・ 障害者施設で働く
- ・ 春から東京近郊に働きに出る予定

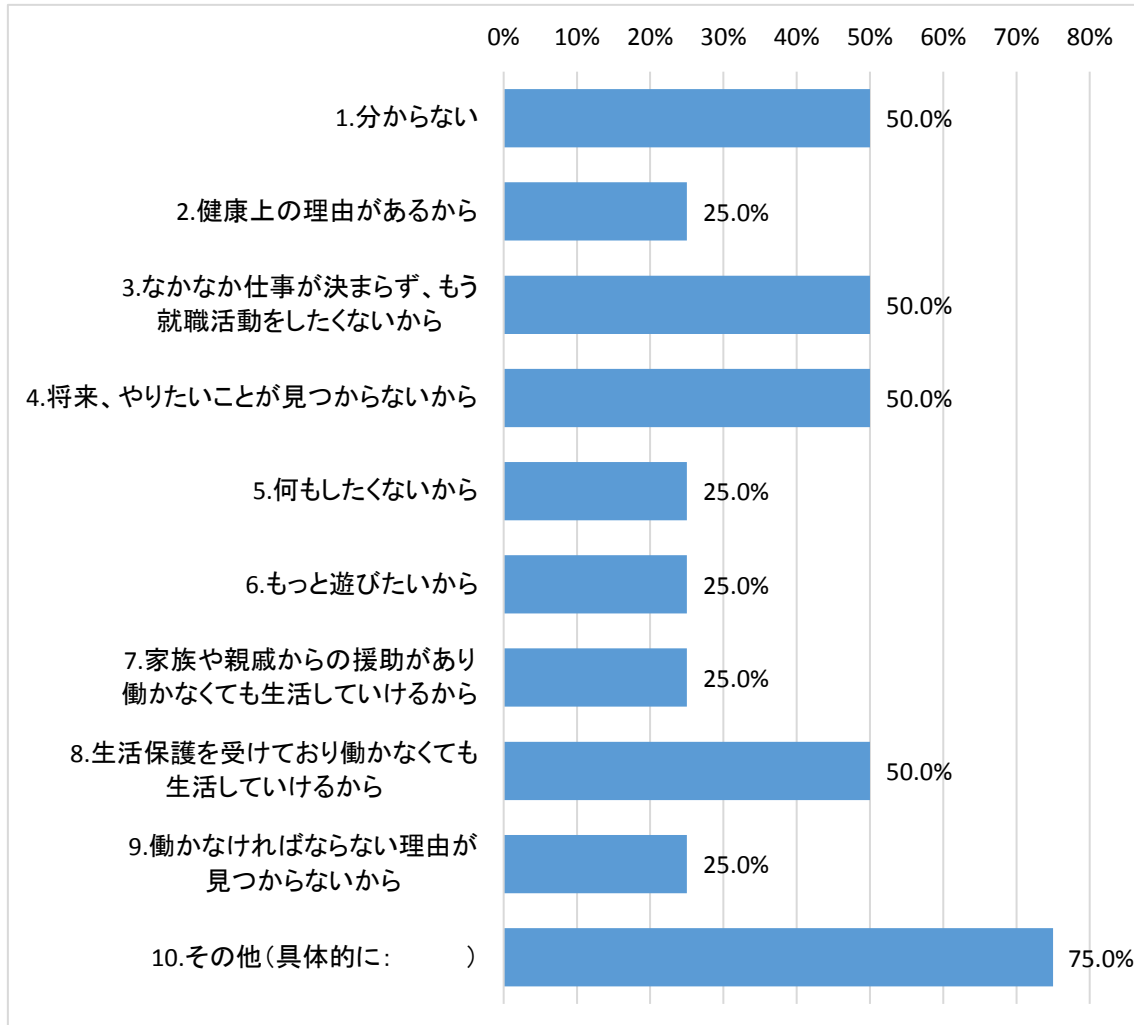
現在、本人が「正社員・正職員として働いている」以外の方に聞いたところ、「正社員・正職員として働きたい」が44.1%と最も多く、次いで「わからない」が15.7%、「進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたり、もっと自分を磨いてから働きたい」が12.6%、

「パート・アルバイトとして働きたい」が 11.0%となっている。

問10 問9で「8 働きたくない」と回答した方にお聞きします。

その理由はなぜだと思われますか。（〇はいくつでも）

（集計総人数=4人）



「10. その他」の内容

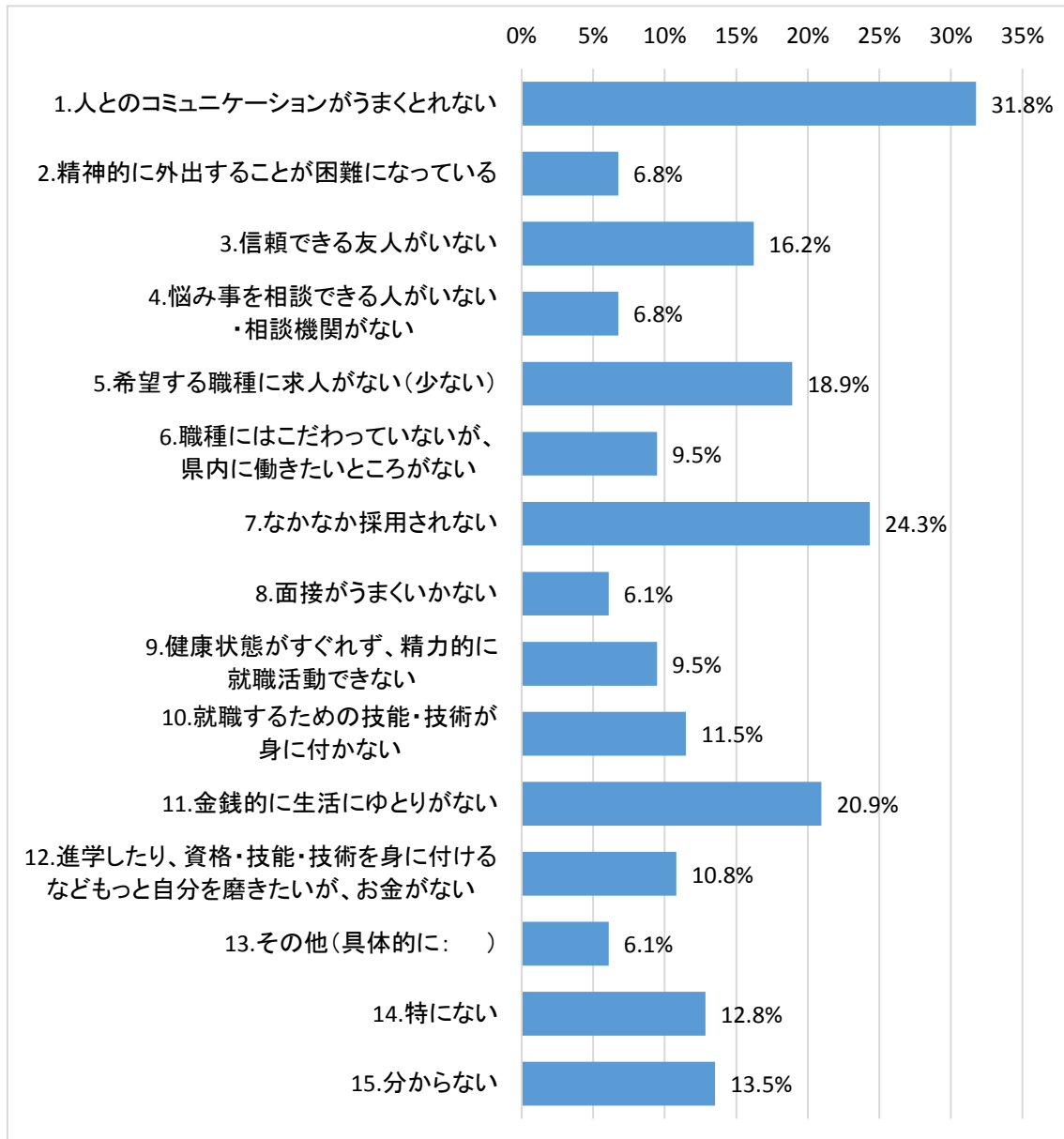
- ・社会への不安。
- ・人と接する事に自信がない。学生時代にいじめを受けているので恐怖感があると思います。
- ・対人関係に不安を持っている。

問9で「8 働きたくない」と答えた方に理由を聞いたところ、その他が 75.0%と最も多かったが、次いで「分からない」「なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから」「将来、やりたいことが見つからないから」「生活保護を受けており働かなくても生活していけるから」が 50.0%となっている。



問11 いま、「ご本人」が日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。また、それはどんなことですか。（〇はいくつでも）

（集計総人数＝148人）



「13. その他」の内容

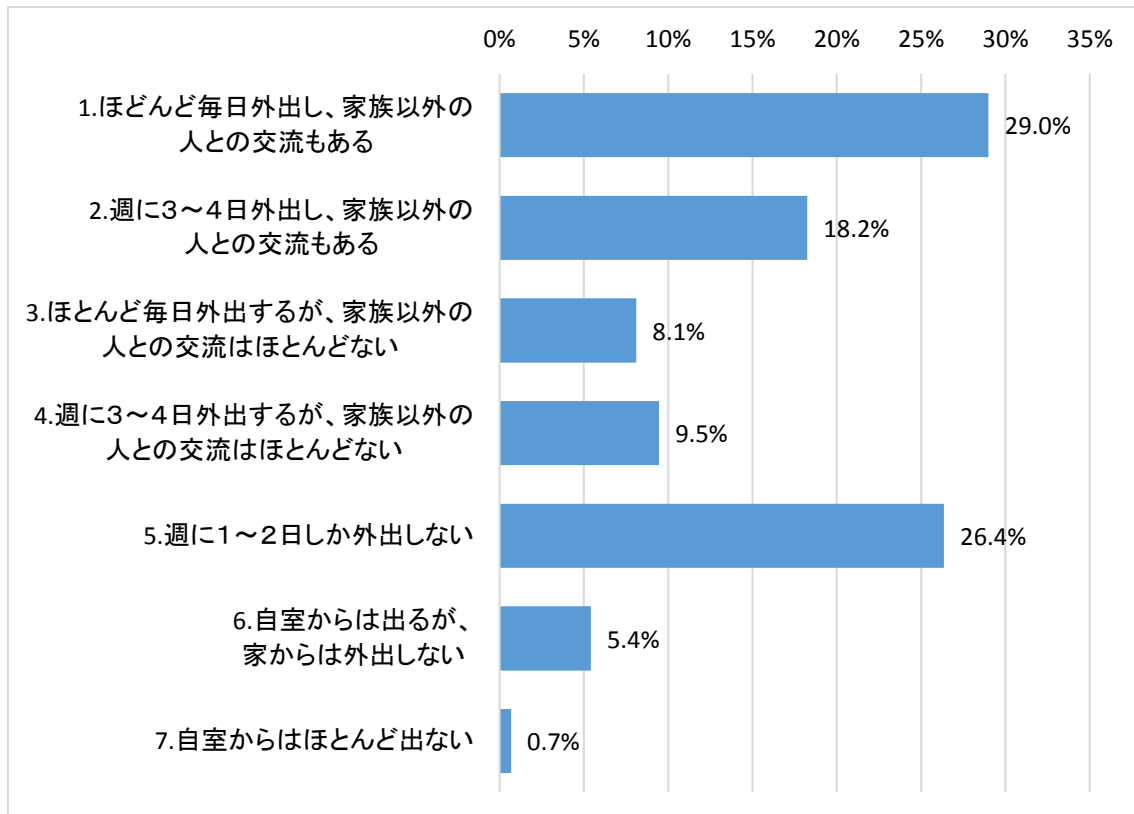
- ・何事にも自信が持てないため、一歩が踏み出せない状態です。
- ・本人の特性によるものだと思うが、仕事先で契約が切られてしまう。
- ・就職することがあまり長つづきしない（3ヶ月ぐらい）。
- ・車が無いため
- ・精神的障害のため、少しずつやっていく。
- ・話の合う人とはうまくいくが、話の合わない人とはうまくいかない

- ・スマホばかりやっていて何がしたいのか分からない
- ・子どもを預けるところが無い

本人が日常生活や就職活動に関して悩んだり困っていることはあるか、また、それはどんなことか聞いたところ、「人とのコミュニケーションがうまくとれない」が31.8%で最も多く、次いで「なかなか採用されない」24.3%、「金銭的に生活にゆとりがない」が20.9%、「希望する職種に求人がない（少ない）」が18.9%「信頼できる友人がいない」16.2%となっている。

**問12 「ご本人」は普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。（○はひとつだけ）**

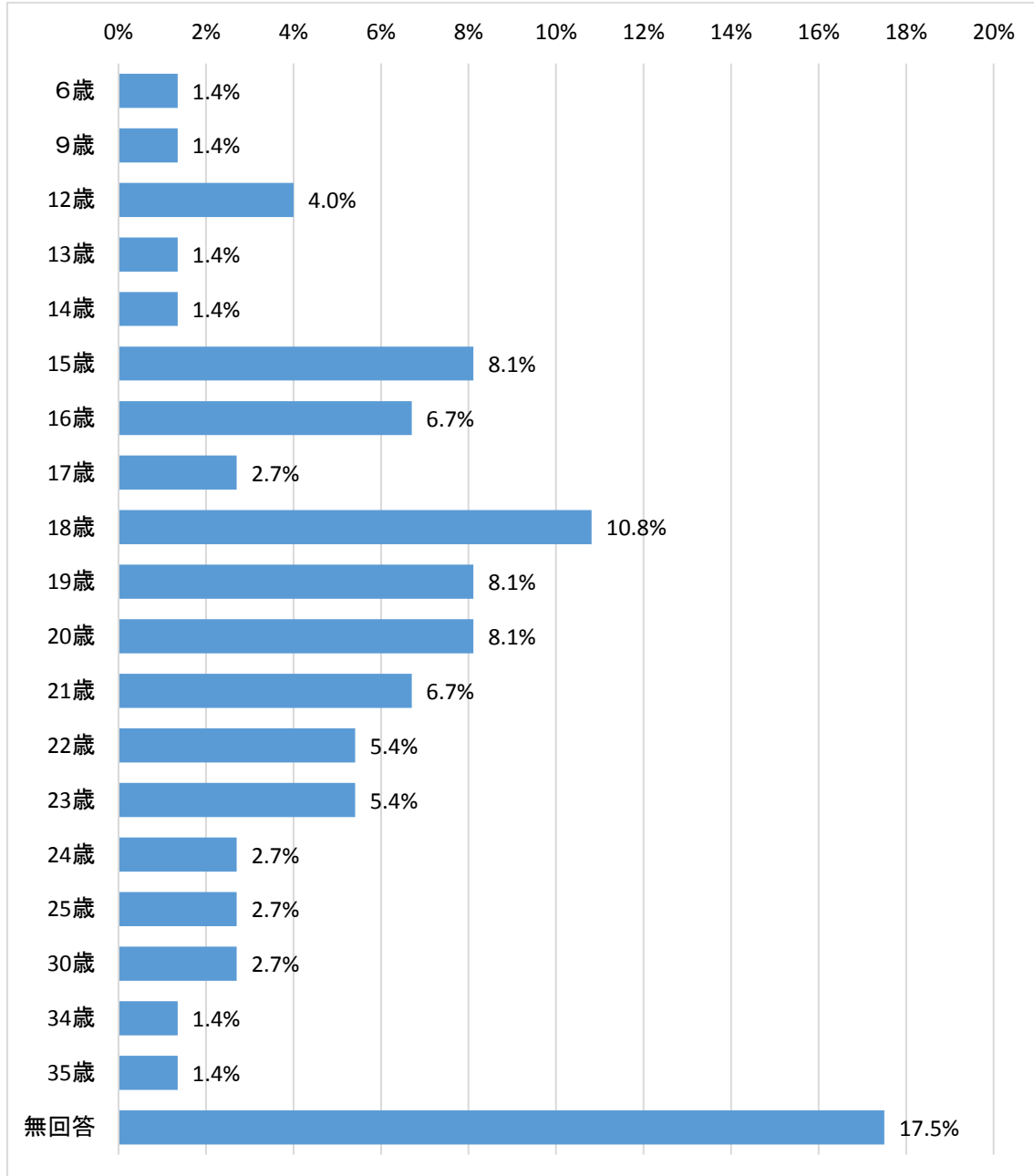
（集計総人数=148人）



本人が普段どのくらい外出するか、また家族以外の人との交流はあるか聞いたところ、「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」が29.0%、「週に1～2日しか外出しない」26.4%「週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」が18.2%となっている。

問13 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。現在の状態になったのは、「ご本人」が何歳の頃ですか。（数字で具体的に）

（集計総人数=74人）

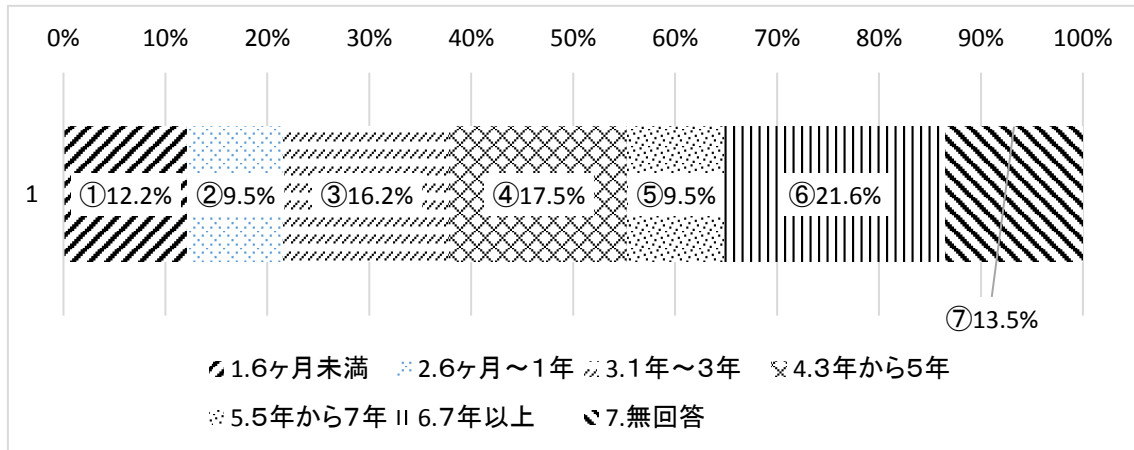


問12で「1 ほとんど毎日出し、家族以外の人との交流もある」「2 週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方に、本人が現在の状態になったのは何歳の頃か聞いたところ、「無回答」の方が17.5%と最も多く、年齢別では「18歳」が10.8%、「15歳」「19歳」「20歳」8.1%と最も多く、次いで「16歳」「21歳」が6.7%となっている。

問14 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が現在の状態となってどのくらい経ちますか。（〇はひとつだけ）

（集計総人数=74人）

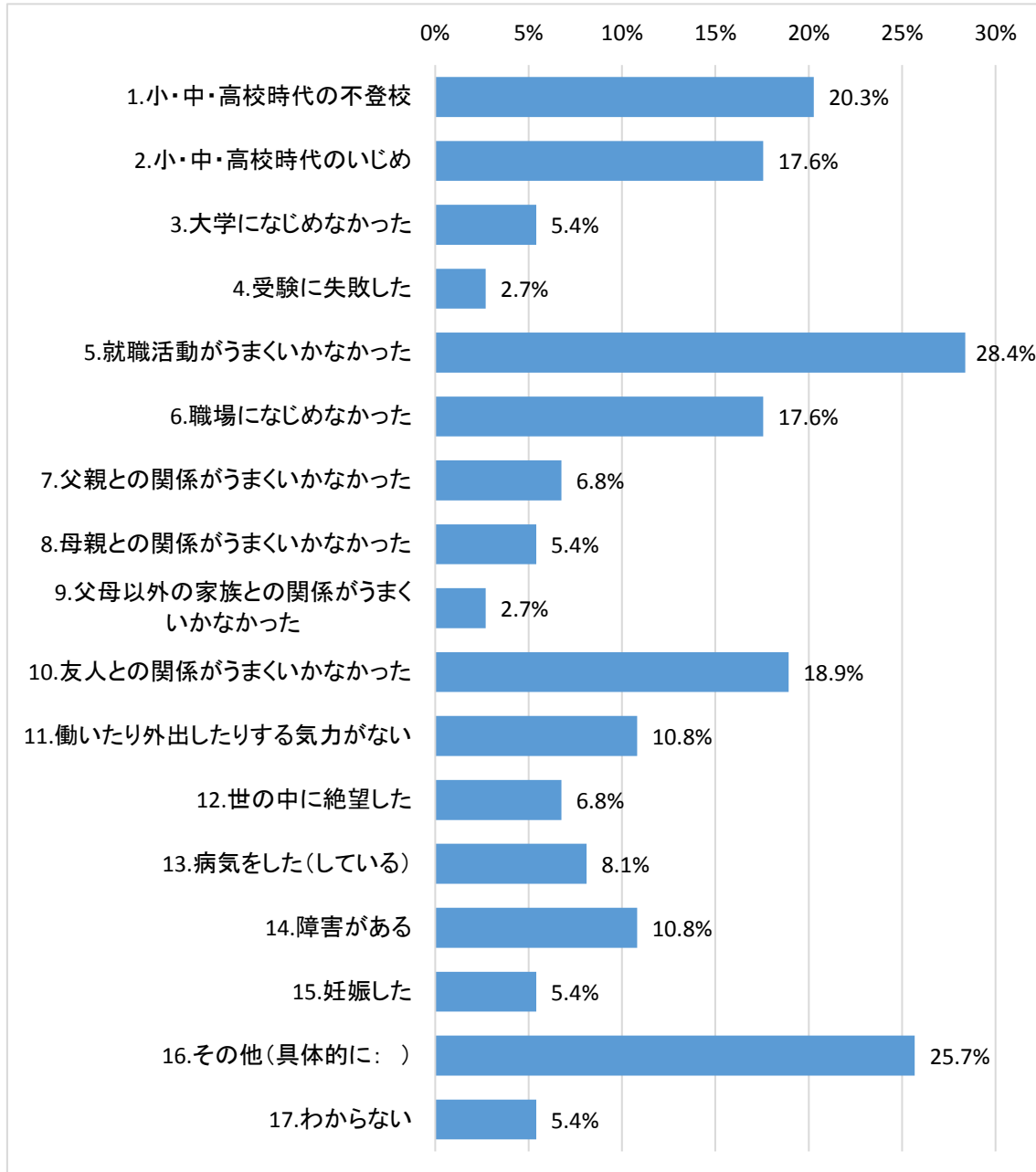


問12で「1 ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「2 週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方に、本人が現在の状態となってどのくらい経つか聞いたところ、「7年以上」が最も多く21.6%、次いで「3年から5年」17.5%、「1年～3年」が16.2%、となっている。

問15 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が現在の状態になったきっかけは何ですか。（〇はいくつでも）

（集計総人数=74人）



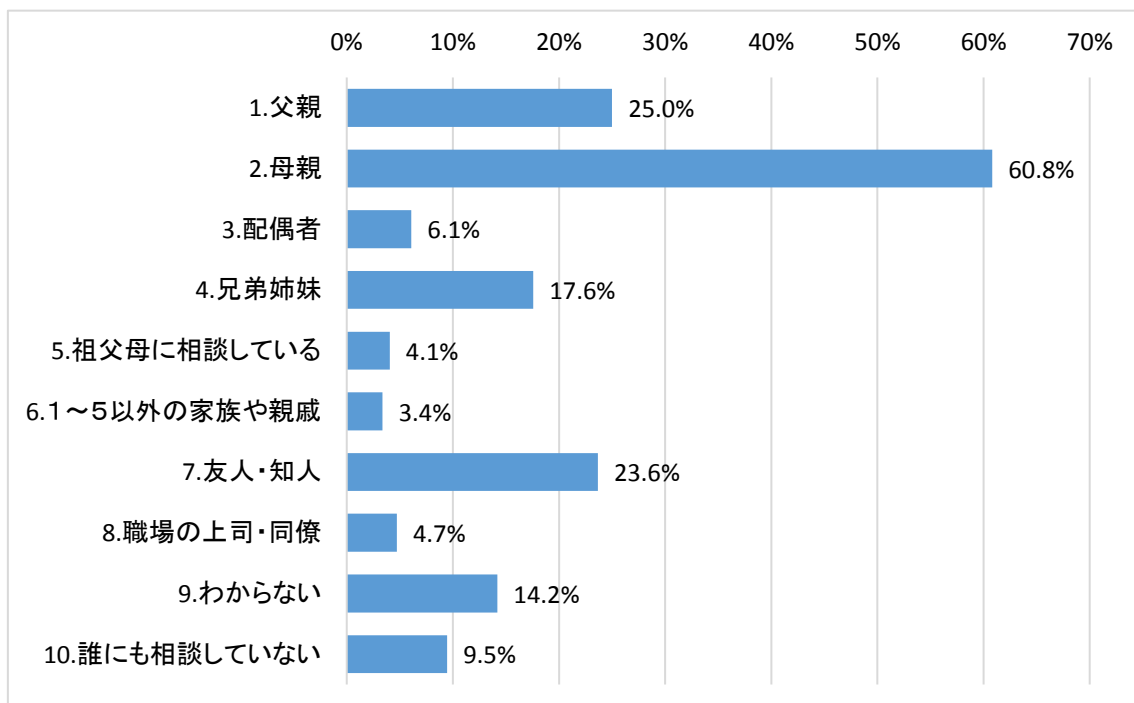
「16. その他」の内容

- ・スマホを手にしてから
- ・外出しなくても不便を感じなくなった
- ・勉強と部活の両立が出来なくなった
- ・上京して専門学校に通っている時
- ・小学校の先生方や友人を含め、学校生活に幻滅した。

- ・いろいろチャレンジしましたが面接がだめです！
- ・小さい頃から人と関わることが苦手だった。（発達障害の疑いとスクールカウンセラーから言われた）自分を理解してくれていた友だちが転校してから友達を作ろうとしなくなった。
- ・職をやめて自宅で暮らしている時に親戚の男性にいたずらをされた
- ・勉強がついていけなかった
- ・就職待機中
- ・交通事故を起こした
- ・金銭的な関係
- ・不眠症になり休養した

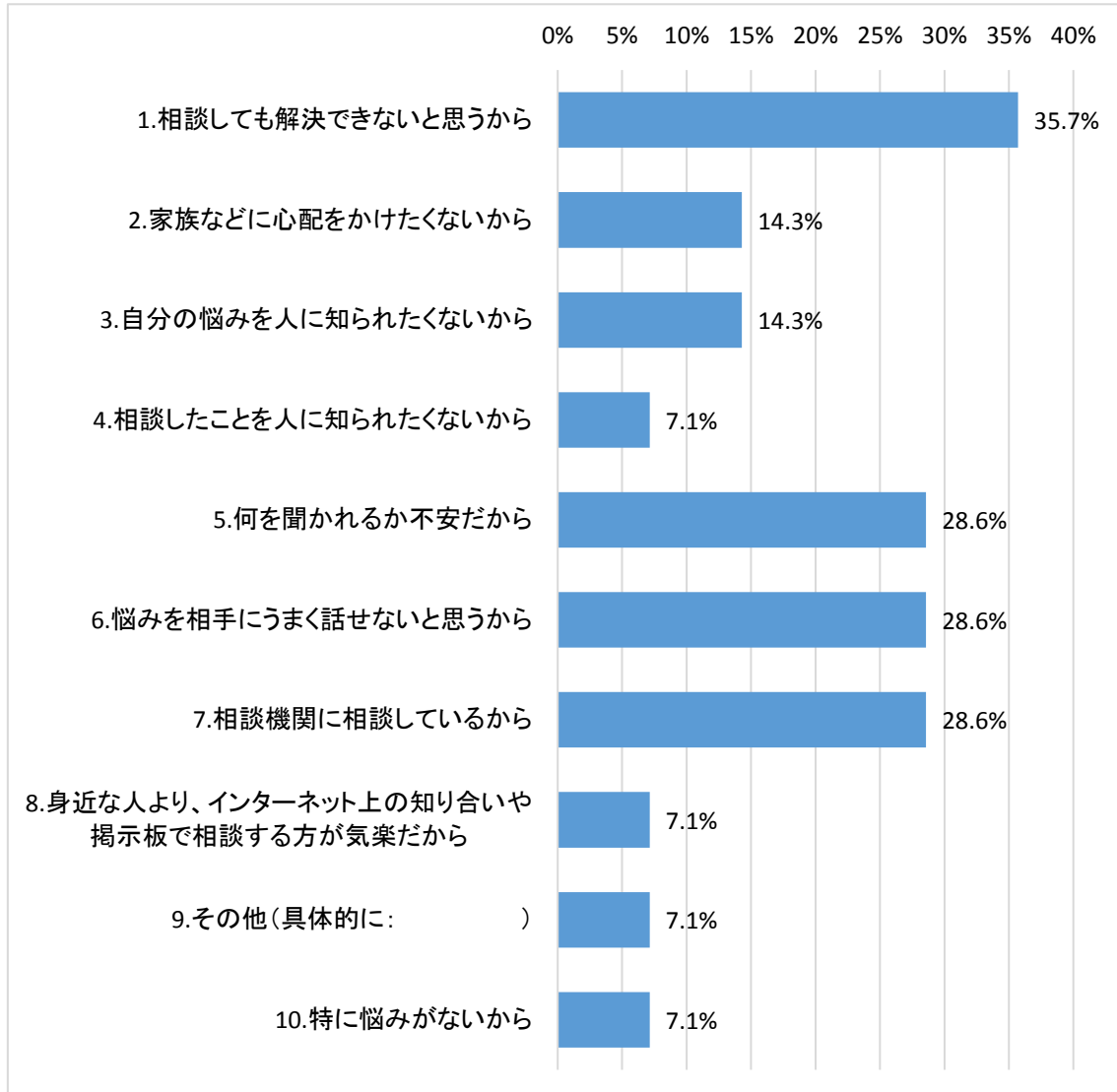
問12で「1 ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「2 週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方に、本人が現在の状態になったきっかけを聞いたところ、「就職活動がうまくいかなかった」が最も多く28.4%、次いで「その他」の25.7%、「小・中・高校時代の不登校」20.3%、「友人との関係がうまくいかなかった」18.9%、「小・中・高校時代のいじめ」「職場になじめなかった」が17.6%となっている。

**問16 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。（〇はいくつでも）**  
**（集計総人数=148人）**



本人が日常生活や就職活動に関する悩みなどを誰かに相談しているか聞いたところ、「母親」が最も多く60.8%、次に「父親」が25.0%、「友人・知人」が23.6%、「兄弟姉妹」が17.6%となっている。

問17 問16で「10 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜだと思われますか。(〇はいくつでも) (集計総人数=14人)

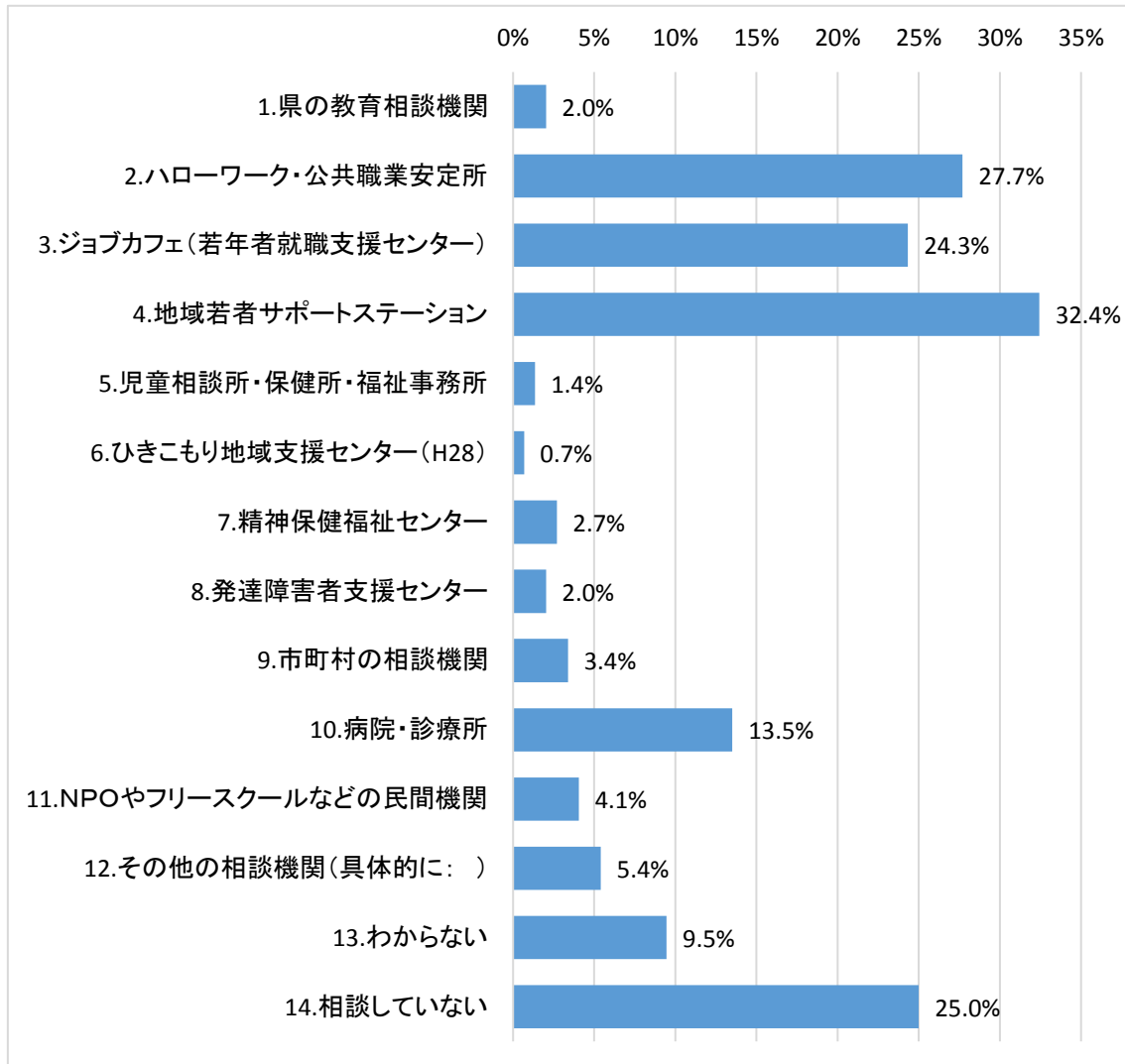


「9. その他」の内容

- ・自分自身で解決

問16で「10. 誰にも相談していない」と回答した方にその理由を聞いたところ、「相談しても解決できないと思うから」が35.7%で最も多く、次に「何を聞かれるか不安だから」「悩みを相手にうまく話せないと思うから」「相談機関に相談しているから」が28.6%となっている。

問18 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。（〇はいくつでも）  
（集計総人数=148人）



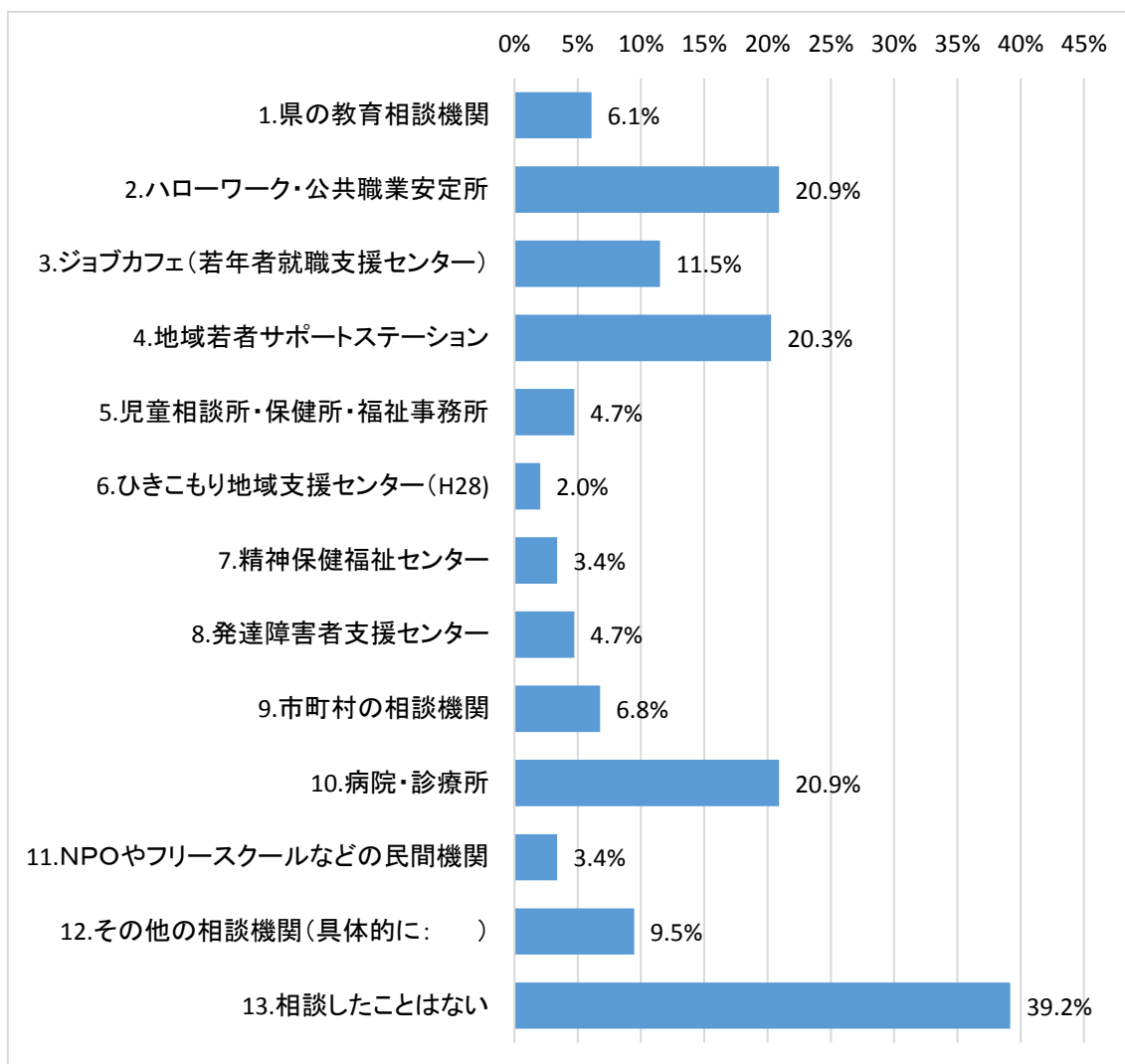
「12. その他の相談機関」の内容

- ・ 社会福祉法人
- ・ カウンセリングルーム
- ・ 就労支援移行施設
- ・ 名称はかわらないのですが仕事の契約期間が終了し、次をさがす際に行くところがあって面接指導等受けているようです。
- ・ 個人で若者の相談にのっている人

本人が日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談しているか聞いたところ、「地域若者サポートステーション」32.4%が最も多く、次いで「ハローワーク・公共職業安定所」27.7%「相談していない」25.0%となっている。



問19 参考までに、「あなた」はこれまで、どのような相談機関に相談したことがありますか。(〇はいくつでも) (集計総人数=148人)



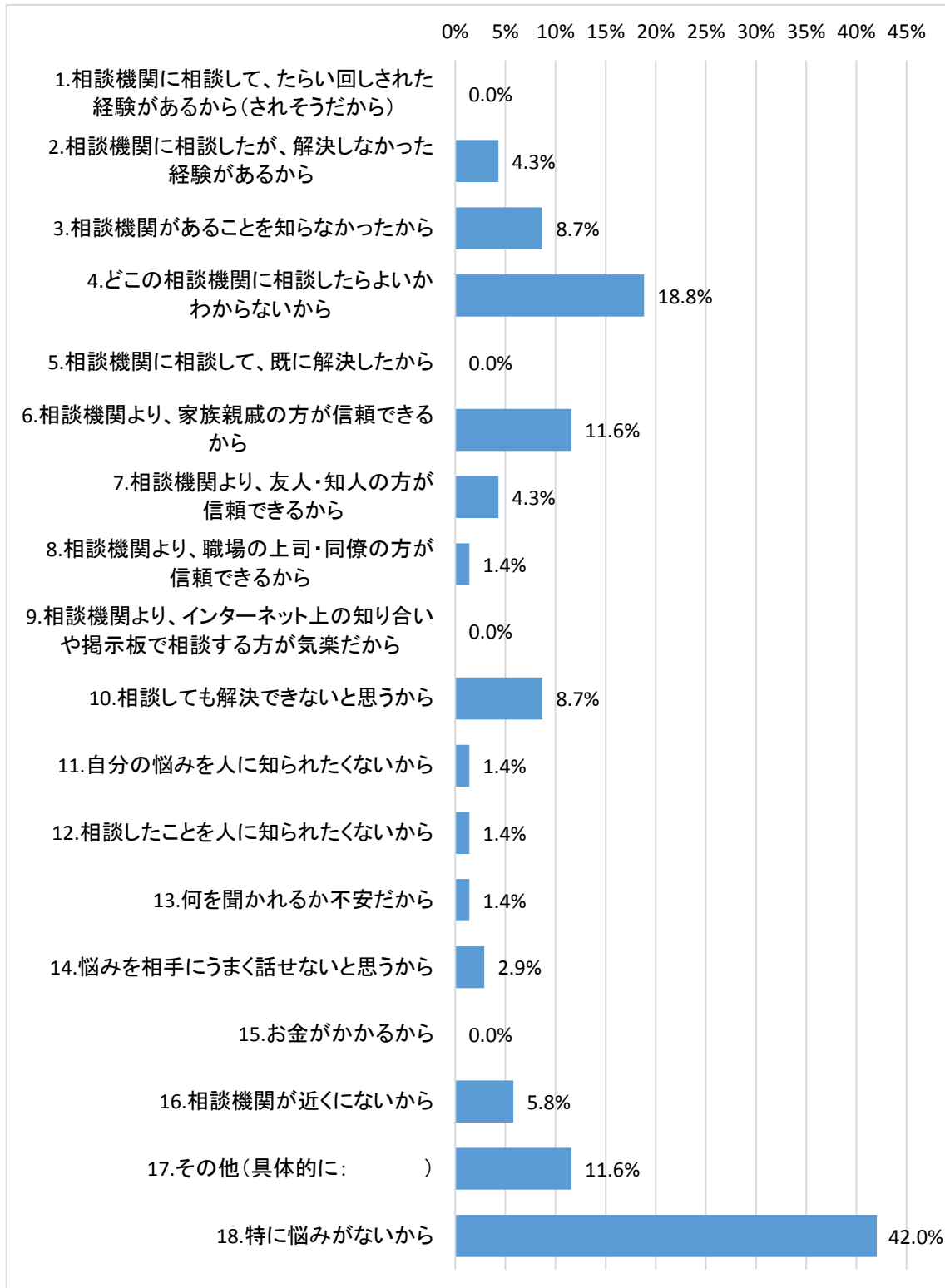
「12. その他の相談機関」の内容

- ・ 社会福祉法人
- ・ 大学の健康サポートセンター、学生相談室
- ・ 保健所
- ・ 個人で若者の相談にのっている人
- ・ 親の会
- ・ 障害福祉サービス事業所
- ・ 生活保護担当の人
- ・ 民間支援団体
- ・ 在学時のスクールカウンセラー
- ・ 高校教員及び中学担任
- ・ 知人の先生

保護者等自身が、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、どのような相談機関に相談したことがあるか聞いたところ、「相談したことはない」が39.2%で最も多く、次いで「ハローワーク・公共職業安定所」「病院・診療所」が20.9%となり、「地域若者サポートステーション」が20.3%となっている。

問20 問18で「14 相談していない」、または問19で「13 相談したことはない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。（〇はいくつでも）

（集計総人数=69人）

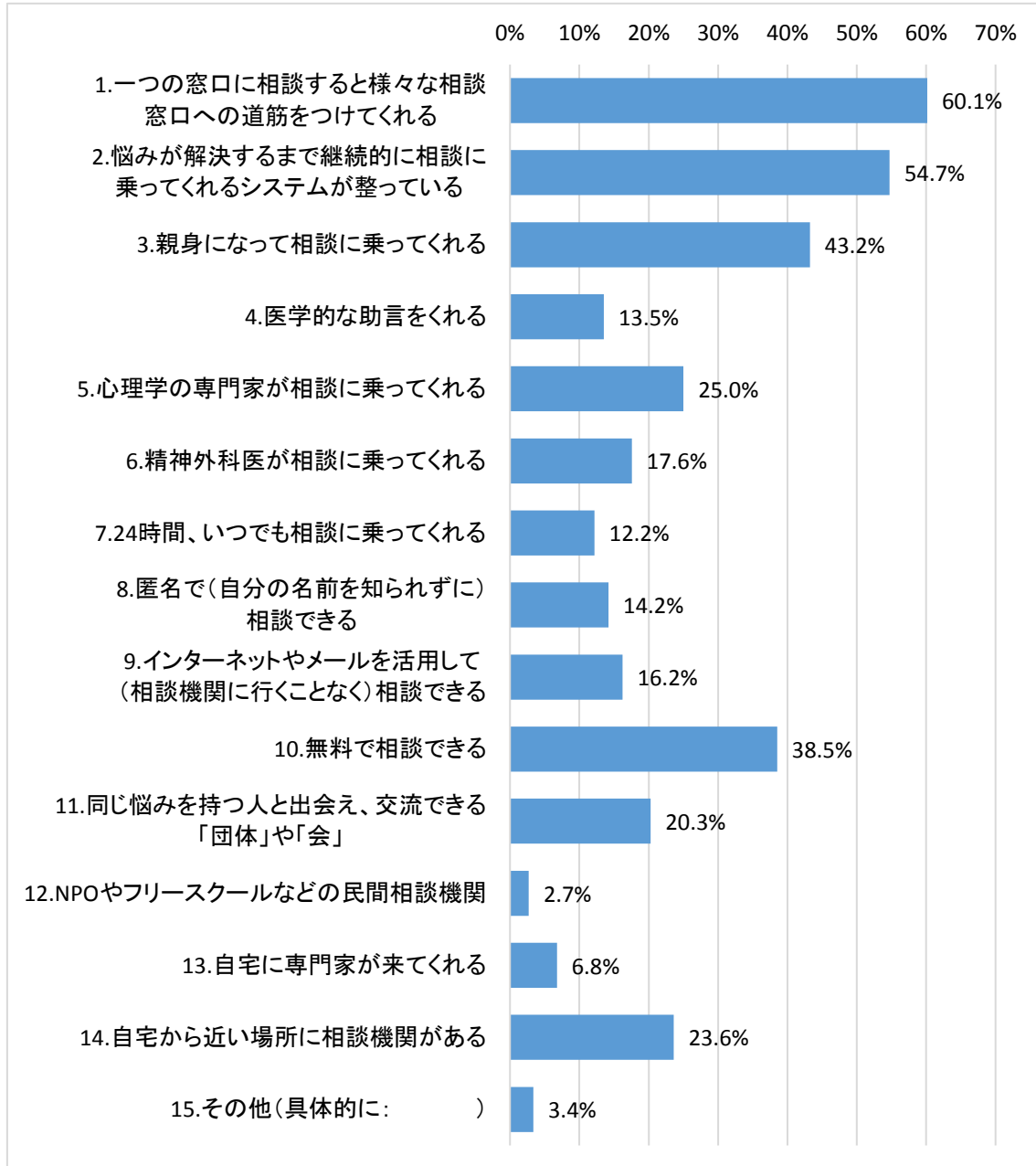


「17. その他の相談機関」の内容

- ・続けて相談に行くのが面倒くさいから。
- ・地域若者サポートステーションに本人が相談しているから
- ・就職活動中だから
- ・本人の悩みだから
- ・友人に相談
- ・本人が目標に向かって勉強中のため
- ・今は悩んでいた状態から抜け出せたので
- ・お金がかかりそう。どこにあるか分からない。

問18で（本人が）「14 相談していない」、または問19で（保護者等が）「13 相談したことはない」と回答した方にその理由を聞いたところ、「特に悩みがないから」が42.0%で最も多く、次いで「どこの相談機関に相談したらよいかわからないから」18.8%、「相談機関より、家族親戚の方が信頼できるから」「その他」11.6%となっている。

問21 「ご本人」もしくは「あなた」が、「ご本人」の日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があつたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）（集計総人数=148人）



「15. その他の相談機関」の内容

- ・就職の斡旋をしてくれて、就職した後も就職した場所についての相談できるところ。
- ・自分のことは自分で解決してきたので、知らない人に悩み事や自分の事を話す事に抵抗があります。解決はできないと思う、言葉1つでも傷つくこともあるので。

日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があつたらよいか聞いたところ、「一つの窓口相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる」が60.1%と最も多く、次いで「悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている」が54.7%、「親身になって相談に乗ってくれる」が43.2%となっている。

**問22 最後に、「あなた」が「ご本人」の日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。**

### ■ 相談受付体制について

◇ 人それぞれとは思いますが、現行身体障害による就職活動に支障があります。企業とのコンタクトは個別で可能ですし、したのですが、行政各専門機関と企業および、私ども個人とのフェーズが合わない感じ又、行政機関のスピード感も無い様に思います。『来月、また来月』等と先延ばしせず、行政・企業・個人との日程合わせは必要ではないでしょうか。ちなみに例ですが、12月1Wにて企業へ直接問い合わせをし、企業への資料提供含め個別面談を実施する手はずでしたが行政側よりストップの回答となり、1か月半以降での行政活動・対応からと成りました。(いついつは弘前、いつからは青森・・・とタライマワシ状態です。) 企業側へは行政機関の所見を伝え、私どもと企業側は行政対応の状況を待っている状態です。企業側も障害者雇用率の達成を目指した、私ども個人としても早期の就職を希望しています。企業と私ども個人との接触活動や、行政サイドからの企業側・私ども個人へのメリット・デメリット含め概要的な説明など三者のコミュニケーション・ミーティングがあつてよいのではないかと思います。本人の性格、仕事の能力をじっくりと見極めていただき、時間がかかっても段階を踏んで次のステップへと進めるよう支援してくれる人がいてくれたらと思っています。人とのコミュニケーションが苦手なので相談機関の方が入れ替わり交代されるとそれだけで本人がプレッシャーがかかり、ますます会話ができず、ふりだしから始めなければならなくなってしまうので、最後の目標である自分で就職できるまで同じ人が担当になっていただけることを希望します。本人は他の人に比べると返答するまで時間がかかりますが、きちんと相手の言っていることを理解し、どう返答したら良いか考えているのです。そのことを理解してくれる事業所があり、紹介していただき本人の働き具合を確認していただけると親としては喜ばしく思います。どこに相談すれば良いのか、どうしたら良いか、手探りで一步一步前進している最中です。本人は家族にも迷惑かけていると思っていますので、早く一人前になりたいようですが、なかなかうまくいかず葛藤している様子です。助言してくれる機

関はどこなのか？どこに相談したら良いのか？もっとわかりやすくはならないのですか？

- ◇ 子ども（娘）が統合失調症なので、病院や家族会と相談や悩みを話しているが、本人が回復して働けるようになるのか、心配だ。子どもが将来、自立して生活していけるよう支援機関の充実と、もっと受入体制をわかりやすくしてほしい。
- ◇ 職安は適当で就職するためのサポートをしてきてない気がする。本人がますます仕事に対し自信を喪失していつている。もっと言動に気を配ってほしい。利用時間をもっと少し遅くまですることが、公休日も利用できるようにしたら、もっと利用しやすくなると思います。
- ◇ 地域若者サポートステーションに相談してきて、就職することができました。もっと早く相談できたらもっと早く就職できていたと思い、早くこんな機関があることを知りたかった。本当にありがとうございます。
- ◇ もっと多くのヒトが働きやすい環境作りをしてもらいたい。最低賃金をいくら上げたところで、働けないヒトにとって何もならない。ハローワークがアスパムにあると遠のいてしまうので、駅近や市民センターに設置してあったり、日・祝も使えるようになればよいと思う。
- ◇ どんな相談機関であっても不安で、相談に行った人をつきはなす言い方はやめて下さい。本人は深く傷つきました。
- ◇ 今までいろいろな機関に相談させて頂きとても親切に対応して下さい、ありがたく思っております。継続して相談できると新しいことが苦手な子どもにとっては相談しやすく、積極的に活用していけそうな気がします。
- ◇ 子ども若者総合案内のパンフはとても役立ちました。「不登校」と検索すると、そのサイトにアクセスできるようにキーワードを入れてほしいです。アクセスしにくいので。

## ■ 必要な支援・サポートについて

- ◇ 中学校も高校もほとんど行っていないので、友人を持つ、仲間と遊ぶという経験をしていない。サポートステーションにそれを求めたが、自立(就職)に重さを置く相談員の方にたしなめられたと言う。気軽に会話が出来、仲間を持つことで社会へ出ていけるのではないかなと思うので、そういう場があればいいと思う。
- ◇ 本人はいろいろ考えていると思いますが、思いをなかなか言葉にできないところがあります。これまであまり自信を持って活動することができず、就職はしたいけれど、社会に出る勇気が出ないような気がします。いつも根気よく面接して下さるサポートセンターの方に感謝しております。

- ◇ 地域若者サポステができてから、ずっとお世話になっています。いつでも行くことができ、受け入れてもらえる場があると安心で感謝しています。会報のプログラムも決まったものでなく、興味をもてそうなものを考えてくれていますが、相談者の割に参加者が少ない(?)のかなと。(一歩が踏み出せない人生だから・・・だろうかと思いますが。) サポステに行けた日は表情も明るく帰宅するので、親としては今頼りにしている場です。街中で行きやすいところもいいと思っています。相談支援に望むこと一他の支援の場の情報がほしい。横のつながりがあまりないのではと感じています。市の窓口でも所在先はわかっても、内容は把握していないようでした。相談員(医療機関)の方も自分たちの所属する他は分からない。NPO法人があるのかないのかも・・・。1つの窓口から他の窓口へつながるのは個人情報の保護もあり難しいとは思いますが、情報は知りたいのです。子どもにとって一歩が難しいように、親にとってもオープンにして情報を得るのは難しいところがあります。社会とのつながりをもって、本人がこれから先、生きていけるのだろうか不安になることがあります。親をサポートする場も一緒に取り組んでいただきたいと願っています。
- ◇ 今年の夏からサポートセンターのお世話になっています。色々な業種の会社へ訪問させてもらって見学しているようで貴重な体験をしているようです。大変ありがたい事です。ハローワークで仕事を見たり、求人誌を見つけては、行けそうな所は無いのかもと思案して本人に伝えてみるのですが、返事が今ひとつで・・・行き詰っている感じです。出口がいつ見つけることができるのか、いつ一人前になってくれるものか、心配でなりません。
- ◇ 現在、地域若者サポートステーションを利用していますが、精神科、心療内科等、メンタルな相談・治療を受けたい時に、自分で探さなくてはならないのがとても困りました。「ここに行ってみてはどうでしょう」とか「こちらと連携している病院は〇と〇です」等、紹介してもらえるととても助かります。親だから子どものために率先して道を切り開いてやらなくては!と思う反面、精神科医はハードルも高く、二の足を踏んでいる状態です。「発達障害かもしれない」と感じることも多く、そういった判定を出してくれる機関の紹介等もしてもらえると有り難いです。
- ◇ 本人にできそうな仕事を定期的に体験させてほしい。できれば就職できるまでそれを続けてほしい。
- ◇ 今現在の日常生活は昼は活動せず(寝ている)夜に活動(ゲーム又はプラモデル作成)の1日です。平成28年7~11頃までりんご畑の農作業しながら就職活動をしていました(相談機関、ハローワーク)。相談機関、ハローワークの就職支援もありがたいですが、面接までに行く時間が長く(1ヶ月ぐらい)もう少し短くしてほしい。本人の健康がとても心配です。よろしくお祈りします。

- ◇ 会社に入社したとして、募集内容と違っていたり、働いてわかる職場の仕事しづらいこととかがあり、すぐやめることも出来るかもしれないけれど、はっきりとした仕事の内容を伝えることが必要だと思う。
- ◇ 自分の特性を知るためにさまざまな作業の体験をしてサポーターの人に実際に作業している様子を見てもらって、何が自分に足りないのか具体的に助言してもらいたい。
- ◇ 相談するだけでなく、就職できそうな所を紹介してくれる所があると助かります。もしあるのなら教えて下さい。就職したとしても、人間関係がうまくいかずに悩んだりしながら仕事をしていますが、我慢して仕事をしてても体に不調がでます。お金もないので体に不調が出てても本人は仕事を辞めることができず、病院に通いながら仕事をしています。
- ◇ 就職活動、ボランティア活動の支援する機会を設けられればと思います。
- ◇ 悩みや相談ごとをうまく言えない子の心によりそってほしい。子どもの障害を理解し、ペースにあった就職先を見つけてほしい。少しでも自信を持って楽しく生きられるようにしてほしい。
- ◇ 発達障害がありいじめに遭い、社会生活がうまくいかないとき、どこに相談すればいいのか途方に暮れた時がありました。親がネットでいろいろ調べていくうち、健生病院さんのHPでデイケアというのを知り、うちの子どももあてはまるのではと思い、通院を始めたところから、いろいろなサポートや制度があることが、ソーシャルワーカーさんや看護師さんを通じて知りました。それ以前にも、病院に通ったことがありましたが、そこまでのサポートがあることを教えてくれませんでした。身体の異状はすぐに受診したりできますが、心の問題や発達障害でも軽度の方は中にサポートを得られないように思いますが、どうなのでしょう？もっと広い広報をしてほしいと思っています。
- ◇ 高校生くらいに、見つけられる発達障害の方への就業サポートをしっかり充実してほしいです。若者が元気な青森県になれるように切れ目の無い支援をお願いします。
- ◇ 机上的には理解しても、社会で働く経験で理屈でないものを積み重ねます。難しい事ですが、若い人達が健康を維持しつつ、適度な苦勞で山をこえる経験が出来るよう見守れる職場の上司や体制を探し、かつ作れば、給料の額ではない働き続けた自信や社会生活に参加しているという社会人としての意識も持てるのではと思いました。  
(実際は難しいですが)
- ◇ 高校は義務教育でないため中学校と違い学校継続することについて支援が少ない(浅い)ように感じます。悩みが生じた早い段階でサポートできる支援体制が出来てほしいと願います。社会にでるためには、高卒の資格を最低限とりたいと親は願うものなので、高校生活を継続できるサポートがほしい。



- ◇ 進路についての学校の情報を得ることなど、必要な情報を得るのにかなりの労力でしたので、トータル的にサポートしてくれる方がいるととてもうれしいです。(八戸まで出かけてサポートしてもらいましたが身近にほしい。)
- ◇ 不登校になることで、社会との交流がとだえ子ども、親の心理的ダメージは大きいので、それをサポートするシステムや交流できる団体があればいいと思います。また、困難を乗り越えた方の声を聞くと励みになると思います。
- ◇ 子ども（不登校の）が参加できる場はほとんど無く、社会参加できる場所があればいいと感じます。(特に昼夜逆転の生活になるのは、ごく普通にみられ、それが、次の社会参加を困難にする要因になるので。)

### ■ その他

- ◇ 本人としましては、働く（仕事）をしようとしていますが、なかなかその所まで進まず、面接でつまずき、仕事をするという所までいきません。県外だと働く場所も多いと思いますが、お金の面を考えれば地元、市内又は、家から通勤出来る範囲の所で仕事をさがすとなればなかなかうまくいきません。ちょっとしたアルバイト、パートから始めて少しずつなれていけたらいいと思うのですが、そこまでいかになくて悩んでいます。年々仕事についていけない状態が続いて本人も焦ってはいますが、うまくいかない次第です。普段はなるべく外へ出かけるような工夫と、家の人以外の人間と話をすることをなるべくさせるようにしています。運動もさせ、リフレッシュさせた状態にして、次もチャレンジさせようと思っいろいろさせてはいます。でも、私だけの力ではどうにもいかないことばかりなのでぜひ、お力をいただけたらと思っております。よろしくお願い致します。
- ◇ 普段家の中でばかり過ごしている娘を見ていると、どうしてこのようになってしまったのか今改めて思っています。小学生の高学年から担任やカウンセラーの方々に相談する日々が続いていました。中学は夏休み明けから完全に不登校になり、高校はそれでも通信制を卒業することができましたが、一度面接を落ちてから、うまくいきません。2回ほど短期間でアルバイトをしましたが、それからもう2年一度も働かなくなって、サポートステーションに誘いをうければ出かけている状態で、職安などに数年行っておりません。週一回か二回の買い物以外ほとんど自宅で過ごす日が多く、親戚、近所の人とは会いたがらないです。でも炊事、洗濯はよくしてくれます。夕食の支度などは、良く手伝ってくれています。が、それはとてもこれから将来役立つ事でいいですが、やはり収入を得て生活できる様になっていかないとこの先何年後がとても心配しています。他人とのコミュニケーションが苦手とはいえ、仕事はがんばれば自分の物になると思うのですが、精神的なことで若いのにがんばれないのはもったいないし、とてもかわいそうだと思っても強く言えず、娘を見えています。
- ◇ 3年間程スーパーにてパート勤務を続け、2ヶ月程前より社会保険をかけていただけ

るようになりましたが、サービス残業（1日3～4時間）、パワーハラスメントがある様で、職場の環境を心配しております。本人は正社員昇格のため頑張ると言っておりますので、応援する予定です。3年間八戸市のサポートステーションに通い、就職活動を支援していただきましたが、結局成果は得られませんでした。同年代の相談員の方に話を聞いていただける事は、楽しみにしておりました。中途退職後の再就職の難しさを痛感しております。

- ✧ 若者が一生働けるよう夢と希望の持てる社会になって欲しいです。少子高齢化、年金問題、ブラック企業など暗い話題ばかりですので、若者が働く意欲と喜びと楽しさを感じられるような環境になって欲しいです。
- ✧ 就職したいと思っておりますが、仕事の間人間関係が嫌になって（元介護の仕事をしていましたが）仕事は好きなのですが、いじめがすごく大変でした。大人でもいじめがあるのに子ども達の中にもいじめはたくさんあると思います。色んなボランティア。
- ✧ 自分が若い頃と違い、就職するのが本当に難しい時代になっていると思います。働き方が様々あるのはいい事でしょうが反面、会社等で「人を育てる」という事をしなくなってきているため、高校や大学を卒業してすぐ、派遣の身分で働いたりすると、「その仕事」だけで世の中の常識というか、社会人としての心構えといったものを誰も教えてくれる人はいません。まして、職場というか、会社も別だと派遣の先の人が仕事以外教えることはないでしょう。スキルの高い人が派遣で働く事はいいかもしれませんが、そうではない人にとっては、自分でよほど意識して頑張らなくては、育っていかないと思います。最初の「働く」事が派遣とか、パートのような形だと本当に気の毒だと思ってしまいます。（それでもないよりましといったところでしょうか）正社員との格差も身にしみて感じる事だろうし、モチベーションもあげていくのが大変になってきたり、ヤケクソになる時だってあるかもしれません。そんな時、頼れる先輩や上司がいればよいでしょうが、派遣先の間は身内ではないし、同僚や仲間意識は薄く（たぶん機関とかがくれば、別々になるからでしょうか）。上司に至っては一緒の場所で働いてはいないので、いつも自分を見ているわけではないから、話したところで分かりづらいというところでしょうか。忙しい時だけ「募集」という所が増えてきている気がします。忙しくない時に人を育てるという事をすればと思ったりするのですが、企業の体力もないのでしょうか。結局その時に募集しておく、できるようなら仕事だけやっていて、終わって次をさがしていても、その人のスキルアップとかは、どうなるのだろうと思います。「やったものにムダはない」とはいいますが、短期間でたいして教えなくてもできる仕事って、と思ってしまうのですが、子どもも長く働ける場所をと就活のための外出はせさせとしていますが、なかなかそういったところのご縁はなくて、ひとつの契約が終わった後は、次までなかなか決まりません。仕事より、就活で疲れているようです。年齢も増すごとに条件が不利になってきているようですし、もうすぐまた辛い日々がやってきます。

- ☆ 資格や経験がないとなかなか採用してもらえず、仕事から離れれば離れるほど（失業期間が長いと）ますます面接の際不利になり、なかなか仕事に就く事が出来ません。どうすればいいでしょうか……。今本当に困っている状態です。
- ☆ 若い人たちに県、町内に就職する場所が無いため、県外にやむなく出ることになりがち。金銭面に対しても時給が安い面もある事です。
- ☆ 私も身体が悪いので、本人に頼っている所がありますが、出来れば安定した仕事についてほしい。
- ☆ 今は親が生活をさせているが、今後どうしてよいかわからない。小学生の時に多動といわれて、指導して下さった先生が移動されてから放置され、人と違う、こだわりが強く小中高といじめにあい、その間まともに相談相手がほぼ無く、今でいうADHDだったのかと思うこともある。もう29歳になる彼に対して何もしてあげられず、後悔しかない。地方にはなかなか情報や機関も後回しであったと思う。一緒に死のうかとも思ったこともある。まだ出口がない。
- ☆ 高校卒業後、初めての就職先では、本人がなじみず上司から、いじめのような仕打ちを受け、退職勧奨という形で辞めました。その直後に、ある相談機関に行ってそれまでの経緯を話したところ、遠回しにですが、息子に発達障害が見受けられると言われショックを受けました。途方に暮れていた所、現在の会社に就職が決まり本人なりに一生懸命努力して仕事を覚え、1年過ぎました。仕事には休む事なく行っていますが、21歳の若者としては、弾けるような活気がなく、友人との交流も途絶えてしまって親としては心配です。ジョブカフェから、交流の場のお知らせ等送られてきましたが、ほとんど平日で息子は土日祝が休みなので行けませんでした。親があまりでしゃばるべきではないと思うので、本人に任せていますが、不安はつきません。今どきの草食男子でも、ついていけるような交流の場を増やしていただきたい。少し人間不信になっている息子をなんとか克服させたいと思っています。
- ☆ 会社をやめて2ヶ月ほどだが、今もって就職については腰をあげない……。自分から職を求めない……。青森に住んでいるが、街から離れた所に住んでいるので、1度しかジョブカフェに行ったことがない。（相談はしましたが、何も解決していない）仕事を求める人は、ハローワークやジョブカフェでもよいが、やりたいことが見つからない、やりたいことがあってもお金がない、結局家に居るしか仕方がない。何か月、何年？先が見えない。パート、アルバイトでも就職口の条件が厳しすぎる。会社によっては、車の免許が必要、簡単な生命保険に入ってくれ、残業があるなど。（お金がないため、車を持つことができない人もいる事をわかって欲しい）
- ☆ 本人は多くの家族や親せきの中で育ったため、たくさんの手の中で育てられました。本人も今になってその事を感じている様です。そのせいか、落ち込むことはあるけれど、物事を前向きに考えることができると思います。（誰かがあなたのことを見たり聞いたりして、いつも手をさしのべてくれているよ、と話してきたので。）あと本人から教え

られたことがあります。それは、「私のやり方、考え方がある。みんなと同じ、一緒にしてほしくない。」本人の出来ない部分が多い中で、出来る部分を認め共感しようと思っています。子供食堂の事を新聞で読みました。もっと八戸市民が参加できる方法はないのかと考えました。募金箱より、自分だったら外食した時のメニューが1000円（お店）+100円、200円とか（協力分）=1100、1200円の支払いを違和感なく支払えると思います。多くの食堂、多くの市民が参加できるのでは？

- ◇ 高校卒業後、一旦就職しましたが、つまづいた事もあり、その後数年前に氷河期があり本人も苦労があったかと思っています。それでもめげず自身で就職活動をし、最近ではハローワークで何処かしらメンタル窓口を見つけたのか、月1回は利用しているようです。こちらとしては一刻も早く何処かいい所があれば決めてもらいたのですが、このご時世ですので多少難しい所もあるかと思っています。ともかく後は本人を信じ任せ、助けられる所があれば支援していければなあと思います。
- ◇ 相談機関に相談するほどこじれていないので良くわかりません。やはり、せっかく入学した子どもが退学になることは親の精神状態にも良くないと思います。それをサポートする周りの人たちは必要と思います。子どもを信じて見守る（口うるさくなく）と自分で考えて行動すると思います。

## **【B調査】**

**県内の相談支援機関を対象とした調査**



県内の相談支援機関（公的機関・民間機関）に対し、下記についてアンケート調査を行った。

## 問 相談を受け付けていて感じる、相談者の状況について

### ① 子ども・若者について

#### 【子ども・若者自身の意識や行動について】

子ども・若者自身の意識や行動については、人との関わりが苦手で、自分の思いを発信できないこと、また社会的自立に対する意識が乏しいなどの意見が寄せられた。

- 気持ちや考え、自分の状況を相手に伝える事が出来ず困っている。又は困っていることにすら気づかずに生活している人が多い。
- 保護者または学校等に自分の悩みを打ち明けられない子どもが増えている。
- 自分の将来をイメージできていない。今後の見通しをもっていない。
- 全般的な生活意欲の低下。生活スタイルの乱れ。自立しようという意欲がない。
- 自己効力感が低く、全てにおいてモチベーションが低い。
- イジメを経験した若者が多く、人間不信且つ自己肯定感が低い。
- 失敗する事を怖がりチャレンジする事を避ける傾向がある。
- 挫折や失敗に対する向き合い方が分からないため、それらを避けがちである。
- 深く考えたり悩んだりすることが苦手。
- 支援者に依存しやすく、自身で最終決定する事が難しい。
- 他人から嫌われているのではないかとの恐怖感がある。
- 周囲になじめないとの思いが強い。
- 親の過度な期待に対して対応できず悩んでしまう子どもが多い。
- 現状の問題を悩んではいるが受け入れてはいる。
- 子ども自身（当事者自身）はなぜこうなっているのかわからない。何に悩んでいるのかすら分からない状態ではないのか？

#### 【心身の健康状態等について】

心身の健康状態等については、発達障害をもつ、またはその疑いがある子ども・若者、また心療内科等に通院している子ども・若者が顕在化していることなどがうかがえる。

- 発達障害及び発達障害が疑われる子どもが増えていると感じる。
- 身体的悩みを抱え込んでいる。
- 医療依存度が高く、寝たきりとなっている児について、学校卒業後、社会とのつながりが希薄となる。
- 母子分離不安。
- 現実逃避からゲーム等への依存、精神的病に発展していく。
- 発達障害。

**【コミュニケーション・対人関係の状況について】**

コミュニケーション・対人関係の状況については、親子のコミュニケーション、友人とのコミュニケーションがとれず、悩みなどを一人で抱えている子ども・若者が顕在化していることなどがうかがえる。

- 全般的なコミュニケーション不足。
- 教師とのコミュニケーションが不足。
- 家族間でのコミュニケーションが不足している。
- 対人関係、親子間でのコミュニケーションの不足。
- 親子関係が友達のようになっている。
- 親子関係が上手くいっていない（親と子の思いや考え方に差がある、又はお互いに伝え合う事が出来ず生活の中でぶつかることが多い）。
- 当事者たちの出口作りの問題。

**【社会的自立に必要な能力等について】**

社会的自立に必要な能力等については、自己肯定感が低く、自己理解の低い子ども・若者、就労に必要とされる社会的スキルが乏しい子ども・若者が顕在化していることなどがうかがえる。

- ・ 自己肯定感が低い（叱責、失敗の連続等により）。
- ・ 社会とのつながりが希薄で悩みを相談する相手（機関）がなく、自身で抱え込んでいる。
- ・ 家族への依存が長期化し、社会参加への意欲や自立心が弱くなっている。
- ・ 自立の意欲はあるが、金銭感覚や生活力が未熟で具体的にイメージできない。
- ・ 学力不振。
- ・ 自分を客観的に評価できず、一般的に自分ほどのポジションにあるのかを把握できていない。
- ・ 自己理解の低さ（診断名は知っていても障害特性や工夫方法等を把握していない）。
- ・ 就労や福祉の制度等について情報が不足して不安を抱えている。
- ・ 学校ではなんとかやっていけても、社会での適応は困難。
- ・ 社会的スキルの不足。
- ・ 社会への関わりが無い。

**【相談内容について】**

相談内容については、不登校、ひきこもりに関する相談が増加傾向にあり、SNS上のトラブルの相談が多くなっている。また、子ども・若者の障害に対する理解が不足していることなどがうかがえる。

- ・ 不登校の相談者数の増加。
- ・ 不登校に関する相談が多いが、直接面談をすると落ち着いて話をする事が出来る生徒が多いです。大人とのやり取りは出来るが、同年代の集団に適応することに課題があるのではないかと考えています。
- ・ ひきこもりを主訴とした相談が中心ですが、子どもの時からのひきこもりの長期化、家族だけで必死に対処しながらも、問題が深刻化しているケースが、少なくないと感じています。また、背景に発達障害等の精神病理が存在するケースもあり、早期の相談、専門機関の早期介入の手立てが課題であると思います。



- ・ 発達障害や知的障害が疑われるが、それらを確認できていないため、福祉サービス等を受けられずに社会に居場所がなくひきこもりになっている方も多いと思われる。
- ・ 子どもの発達障害などによる育てにくさ、養育問題が顕在化している。
- ・ 相談対象者の家庭の金銭面がひっ迫しているが問題解決まで時間がかかる。
- ・ 就労の不安（いい仕事がない、仕事が決まらない）。
- ・ SNSの問題。

### 【その他】

- ・ 病院や保健機関等の転移が頻繁で相談者自体が経緯から不安が強い
- ・ 親子関係が希薄または過干渉などバランスが悪い環境で育った人が多い。
- ・ インターネットで簡単に調べることが出来るようになり、試行錯誤しなくても解答が得られる環境にある。体験（痛みや達成感）が伴わない学習は、経験として積み重ならないため、総じて自信が醸成されないまま歳を重ねているように思われる。
- ・ 支援者たちの情報発信力。
- ・ 親だけでなく社会、学校、まわりの大人が物事への適応能力の弱い子供を作っている（幼いころからの些細な問題にもまわりの大人がきちんと向き合って対応すべき）。
- ・ 中学卒業（義務教育修了）し、進路が決まらなかった人や中退した人、不登校になった人への支援の手が急に少なくなり、子どもたちの駆け込む相談できるところがなくなってしまう。
- ・ 高校は義務教育ではないため、先生方は本人任せである。
- ・ 子どもたちによりそう機関が少ない（ない）。
- ・ アドバイザー、チューターになる大人が周りにいない。
- ・ 適正な機関が見つからずさまよい続けている。

## ② 子ども・若者をもつ家族について

### 【家族の意識や行動について】

家族の意識や行動については、過保護、過干渉又は放任の親が増えていること、また家庭内の不和や子どもとの接し方に戸惑っている親がいることなどがうかがえる。

- ・ 世間体を気にし、または放任しているため、子どもを的確な支援サービス機関に繋げる事が出来ず、就職の準備が整わないで就職のレベルにないまま、とりあえずハローワークに行かせるパターンが多く見受けられる。総じて就職に対する考えが甘いと感じる。
- ・ 過保護、過干渉、放任など適切な家族関係を築けない。
- ・ 子ども現在の状態について自らに責任を感じている保護者が多いです。
- ・ 夫婦不和を子どものせいにしたたり、逆に引き付けようとしたり、子どもを長期に巻き込む
- ・ 子どもとの接し方が分からない。
- ・ こどもからの要求に応じてしまう親が多く、親子の立場、関係の上下が逆になっている親子が多い。接し方に自信がなく、なんでも本人のいう事を聞いてしまう。
- ・ 子どもに遠慮しているのか、自主性を重んじすぎるためなのか、親としての本心を子どもに話せていないでおおり、他人の力を借りようとしている。

- ・叱責等で行動改善、行動統制を図ろうとする。
- ・親の考えを押し付け、子どもの話を聞こうとしない。
- ・多くの機関に相談、病院を受診しているがその事で必死になり、実は目の前の子どもと正面から向き合っていない。
- ・暴力があっても「大事にはしたくない」と警察への相談をためらうことが多い。
- ・世間体を気にして支援機関の介入を拒み孤立する。
- ・支援機関に相談することはできても、相談後に現状を変えるための行動がないか、とれない。
- ・家庭の力が弱くなっている（家族で解決が出来ない）。
- ・ひきこもり年数が長すぎて子どもの自立よりもいかに保護できるかを優先してしまっている。子どもの障害理解が難しく、苦手部分に目が向かいがち（直そう、克服など）。
- ・支援者任せ、支援者依存に陥ることがある。
- ・子どもへの期待度が高すぎて、本人の能力以上の事を求めてしまっている。
- ・子どものリアルな姿を受け入れられない。過剰な期待。「大人になれば何とかかなるかも」。
- ・自分の仕事について、マイナス面だけ見せる。（楽しそうに仕事に取り組んでいる親が少ない）。

### 【心身の健康状態等について】

子ども・若者の心身の健康状態等については、保護者自身問題を抱えていることから家族が子どもの健康状態を理解していない状況などがうかがえる。

- ・県外出身の乳幼児を持つ母親の相談が多く、話す相手もいなく、悩みを抱え込んでいるケースが多い。
- ・親自身の発達障害や不適切な養育を受けてきたこと等による養育上の問題が顕在化している。
- ・保護者自身が精神疾患を抱えている場合の対応の難しさ。
- ・親の精神性障害、愛着障害等。
- ・子どもを思うあまり過度な期待を子どもに押し付ける、子どもの障害を認めようとしらない。
- ・親の精神的な不安定さ（精神疾患等を含む）。
- ・様々相談しても前進せず疲れて、親自身が精神的に病に陥る。

### 【コミュニケーション・対人関係の状況について】

子ども・若者とのコミュニケーション・対人関係の状況については、子どもとのコミュニケーションが取れずに悩んでいる状況、また、世間体を過度に気にしてしまい、問題を家庭の中だけで抱え込んでしまい孤立化している状況などがうかがえる。

- ・本人とのコミュニケーションがとれない。
- ・親子の意思の疎通が図られておらず、子供が委縮している様子が見られる。
- ・過保護または放任で、子どもとのコミュニケーションが取れない。
- ・地域とのつながりがなく、相談する人がいない。
- ・周囲に相談できる人がおらず、孤立してしまっている。

### 【相談内容について】

相談内容については、多種多様化していること、また相談機関を探せず、問題が長期化している状況などがうかがえる。

- ・ 学校に所属していない子ども（高校中退者、中卒者）の保護者からの相談が多い。
- ・ DVや虐待ケースなど警察や児相に相談するも「ここだけの話に」「問題を大きくしないで」など加害者への関わりを拒むケースが多い。
- ・ 相談窓口がわからないという親が多い。
- ・ 親は不安を抱えつつ、どこに、どう相談したらいいのか分からず、相談が遅れたという方もいました。
- ・ 家族間で話し合う事ができず、相談者である家族が1人で抱え込んでいる場合がある。
- ・ 子どもに関する課題を家庭内で抱え込み、家族だけで必死に対処している状況が伺われます。親が高齢となり、対処が非常に困難になって相談にこられる方が少なくないです。
- ・ ひきこもりの相談を例に挙げると、本人は来談せず、家族のみという事も多い。相談にいらっしゃる家族は抱えている問題に疲弊し、早期に解決したいと思っているが、ひきこもり等の相談の場合は問題が早急に解決していく事は難しく、長期に向き合っていく事が必要となる。来談することで早く解決できるかもしれない、といった家族の期待と、実際の状況（なかなか状況が改善しない）とに大きなギャップがある事で、相談が中断してしまう事も多い。
- ・ 相談内容や子どもや家族の状況等により問題は多種多様であり、一概には言えない。

### 【その他】

- ・ 社会の中でサポートされていない。
- ・ 地域との関係の希薄化。
- ・ 責任転嫁し、自身の問題と捉えない家庭の場合、問題を扱うことを回避的となり、結果的にかわりに拒否的となりがち。
- ・ 相談機関を全く知らない保護者と様々な窓口を知っている保護者の両極端であると感じられる
- ・ 親に経済力がない。
- ・ 規模が小さい町村では、町村の人に知られたくないと町村からの支援を拒否する事があり、身近な存在である町村保健師からの支援が難しい。
- ・ 親の高齢化に伴い、子どもへの支援が難しい。
- ・ 経済観念（お金の教養）を育むような教育がなされていない。
- ・ 親の世代と子の世代の価値観のギャップ。
- ・ 体験の機会や経験が少ない。

## 問 相談への対応にあたり、課題となっていることについて

### 【電話対応について】

電話対応については、何度も同じ方からの相談の電話を受けているが、解決に至らない場合の対処法等に苦慮している。

- ・ 毎日のように、何度も同じ相談者が電話をかけてくる

### 【リファーマについて】

リファーマ（他の適切な相談支援機関につなぐこと）については、リファーマ先との連携や他機関との連帯がうまくとれていないと感じていることなどがうかがえる。

- ・ 児童相談所が関与すると、後は児童相談所任せとなり、子どもの所属機関や地域が支援する必要性があるという意識が低下する
- ・ 児童相談所は行政権限を持つ相談機関であることから、児童相談所につなげればなんとかしてくれるという関係機関の過剰な期待を感じる事がしばしばある。問題解決するのはあくまでも子ども本人や家族であり、相談につなげる場合は、相談に対する十分な動機づけを行ってほしい。児童相談所の役割や権限等については、機会あるごとに情報提供を行っているが、十分に理解されていないと感じる事もある。
- ・ 虐待相談対応の件数及び難度が高止まりしており、市町村と児童相談所の役割分担及び連携協力の効率化等をさらに進展させる必要がある
- ・ 関係機関連携は重要であるが、それぞれの機関が問題に気づきながらその場で助言せずしばらく経過してから、何かのついでに情報提供として持ち出してくることが多くある。介入や指導はタイミングも重要であることや、通告先は明らかにしないものの内容的に当事者でなければ分からないこともあるため、子どものために必要な支援であれば毅然と対応していただきたい。また、児童相談所に通告したから後は児相の仕事ではなく、共働する意識を持っていただきたい
- ・ 様々な問題を抱えている家庭が増えており、関係機関との連携協力が重要である。また、お互いに関係機関の業務内容を理解した上で、関係機関の役割分担等が必要と思われる。
- ・ 他機関との連携については必要に応じて行っている。電話等でやり取りし、相談ケースを引き継ぐという形よりも、一緒に対応していくということが最も重要と考える。
- ・ 相談者における関係機関との関わりの拒否。関係機関毎の緊急性の相違。関係機関がひきこもり専門機関として誤認しているため、頻繁な連携が必要。
- ・ 複数の機関と連携する際のコーディネート
- ・ 他支援機関と連携して支援を進める際、機関毎の役割分担と、ハブ機能をどこが担うかが曖昧になりがちである。

### 【支援策・支援機関の不足】

子ども・若者の自立支援に関する支援機関が、県内そして各地域に不足していると感じていることがうかがえる。

- ・ 相談者の居住地が遠い。
- ・ 就職準備の訓練やインターンシップ等の拡充も必要と思われる。

- ・ 引きこもり、発達障害の支援センターまでの距離が遠く、相談者が出向けない場合がある。
- ・ 若者のサポートに関する事業所等が少ない、青森市など遠方にある相談先を紹介するため、タイムリーな相談に結びつかない事がある。
- ・ 直接、本人に関わっていく支援機関・団体の不足。
- ・ 専門的支援を行う社会資源の不足。

### 【支援のあり方について】

悩みを抱える子ども・若者や家族との向き合い方に難しさがあり、担当者が苦慮していることがうかがえる。

- ・ 学校関係においては担当者間の情報共有があまり図られていない様子であり、当所からの連携協力要請に対しても積極性が見られない。また、関係機関である「ジョブカフェ青森」において実施している支援事業内容の情報提供が見られない。
- ・ 継続的な相談が必要であると考えていても、途中でつながりが途切れてしまうこと
- ・ 多種多様な課題を抱えていることが多く、対応する職員のスキルの向上が必要である。また、相談内容に応じて関係機関と協働して対応できるよう関係機関について情報を把握し、連携できる体制づくりが必要である
- ・ メールでの相談は匿名性が高く、相談内容の信憑性が判然としないものが多い。また、具体的内容に乏しい相談も多く、対応が困難である。
- ・ すぐに解決できない現在の問題や家族の困難さを、家族自身が理解しながら解決を一緒に考えるという支援が必要と思う。支援者はそこを丁寧に説明し、一緒に向き合う努力をしていかなければならず、支援者側の技量も求められる。
- ・ 現状やそれに至る要因が多様化、複雑化している為、相談に多くの時間を必要としたり、複数対応が必要となってきているため、時間と人材確保が大切だと感じている。
- ・ 地域性もあるのか、特別支援に対する家族（特に祖父母の年代）からの反対があり、支援が難しいことがある。
- ・ 最初の相談窓口が明確でない。
- ・ 担当者の専門的知識及び経験不足。
- ・ 人事異動等により、情報がスムーズに引き継がれていない事がある。
- ・ 担当者によって考え方、対応等に異なりが生じてる事がある。
- ・ 訪問することが出来ないので、対応に限界がある。
- ・ サポステ事業は単年度事業であり、中長期的な視点に立った支援が行いづらい。（特に人材育成については課題がある）

### 【一般への啓発の必要性】

困難を抱える子ども・若者や家族に対して支援を行っていく上で、長期の引きこもり等を未然に防ぐ上で、相談窓口周知が必要であると感じていることがうかがえる。

- ・ 引きこもりの期間が長くなったり、年齢が高くなると当然就職も難しくなるので、早い段階で自立支援機関に繋げる必要があるが、家族がその役割を果たしていない場合が見受けられるため、ニートや引きこもりを早期に見つけ、然るべき機関に家族以外が繋げられるシステムが必要と考える。

- ・ 相談窓口の周知。
- ・ 「少年鑑別所」といったことで、相談や連携の敷居が高くなってしまっている。地域への広報と共に、関係機関に当所の事を知ってもらう事が課題となっている。

### 【発達障害について】

発達障害に対する理解が社会的に不足していることがうかがえる。

- ・ 成人期になってから発達障害に気づくケースも多いが、未診断の方に必要な居場所や支援機関が少ない（借金問題など早急な対応が必要な場合でも、医療機関を受診し診断がつくまで福祉サービスや支援機関を利用することが出来ない）。
- ・ 診断や支援機関が必要と考えられるケースでも、家族が抵抗感を示したり、本人が現状を受け入れられず、繋ぐまでに時間がかかることも多い。
- ・ 発達障害に関わる「合理的配慮」についての合意形成に関する相談の扱いについて。

### 【その他】

- ・ 保護者にパーソナリティの偏りがある。
- ・ 突然来所する相談者がいる。
- ・ 保護者自身が精神疾患を抱えている場合の対応の難しさ。
- ・ 相談員の確保（予算面、資質面）に関する事。
- ・ 相談したいといいつつ、こちらの助言に耳を傾けようとしない者が少なからずいること。
- ・ 事業としては単年度で成果を上げることは困難を伴うと感じている。
- ・ 就労に対して、強く不安を抱えている利用者を通常の8時間就労へ導くのは現実的に無理である。したがって、短時間アルバイト等を経験してもらい次のステップとして一般就労と段階を踏んだ支援も必要であることも理解してもらいたい。
- ・ 精神疾患や障害を抱えた相談者が増加傾向にあり、支援するにあたり特別の配慮が必要なケースが出てきている。それに伴い、支援者のメンタルケアも必要とされる。
- ・ 青森県内の有効求人倍率が高まり、失業者数も減少傾向にある中で、目に見える支援対象者数も減少傾向にある。一方で、引きこもり等の潜在的な支援対象者は未だ多く居ることが想定される。それら潜在的なニーズをすくい上げる仕組みが必要と思われる。

## 【C調査】

高等学校を対象とした調査





県内の高等学校に対し、下記についてアンケート調査を行った。

### 問 不登校・中途退学の生徒・家族の状況について

不登校の状態にある生徒または中途退学した生徒は、様々な要因があり、そのような状況に至ったと考えられますが、扱った事例としてどのような要因のものがありましたか。

自由記述にてお知らせください。（記入できる範囲でご回答ください）

不登校、中途退学の要因については、下記の要因が複合的に関係していること等がある。また、対人関係構築に躓きがある傾向がうかがえる。

#### 【学業不振】

##### <学習についていけない（69校中9校）>

- ・ 学業不振によるものが多い。
- ・ 家庭教育力の低下。
- ・ 授業についていけない等の学習不適應。
- ・ 中学生から高校生への移行が上手く出来ない「高一ギャップ」のケース。高校の課題や小テストの多さ、授業のスピードについていけない。
- ・ 低学力及び学習意欲不足（低学力で授業がわからない、集団行動ができない）。

##### <学習意欲の減退（69校中5校）>

- ・ 学校生活以外に興味や関心があり学校に来る意味を感じていない。
- ・ 学習に対する意欲の欠如（能力が低く学習の継続が困難になった生徒も含む）。
- ・ 生徒は大学進学を希望し、2年次には進学コースを選択して頑張ろうと考えていたが、父子家庭で、父は就職してほしいと考えていた。生徒は努力しても意味がないと学習意欲を失い欠席するようになった。担任との面談後一度は復帰したが、体調不良が重なるようになり、そのまま学校から気持ちが離れた。父の意見に耳をかすこともなくなりネットで相談するという状況が続いた後、退学した。

##### <進路に対する不安（69校中4校）>

- ・ 学校生活や進路への悩み。
- ・ 将来に対する目標や希望が持てない。
- ・ 学習や進路の不安から欠席が多くなり転学。

#### 【学校生活・学業不適應】

##### <学校生活不適應（69校中19校）>

- ・ 本人の学校はこうあるべきであるイメージと現実のギャップで学校が嫌いになる場合。
- ・ 中学時から不登校で市の適應指導教室に通っていた生徒。登校し保健室へ何度か来たものの続かず、担任等が電話で登校を促した。その後も保健室へは来ても教室へ行くことを促すとフリ

ーズする。祖母は学校へ行くのは当たり前という考えを持ち、その旨強く言うので、生徒は疲弊していた。クラスの友人に強く誘われ教室へ入ったこともあったが、その後欠席が続き退学した。人がたくさんいるところが苦手なスクールバスも好きではないとのことであった。

- ・ 生活の乱れから怠惰（学習意欲の低下）となり、学校に気持ちが向かなくなり退学。
- ・ 昼夜逆転で、朝起きることができずに不登校となり、退学に至った。
- ・ 授業の一斉指導になじめず、欠席が多くなり転学。

#### <対人関係不適應、友人関係のもつれ（69校中34校）>

- ・ 他人からどう思われているのかが気になり、不安が大きくなってしまった。
- ・ 中学校時代から人間関係を構築できないことによる不安感。
- ・ 中学のいじめ被害による不安感。
- ・ 校内外における人間関係、あるいはその悩み。
- ・ 友人との人間関係の悪化。
- ・ 対人恐怖（いじめではない）。教師の指導への恐怖（体罰等ではない）で年度後半から休学。
- ・ 部活動における人間関係から欠席が多くなり転学。
- ・ 同級生とのトラブル（SNS への書き込み等から友人関係が悪化し、教室に入ることが困難になり進路変更に至った）。
- ・ 有職少年との付き合い。
- ・ 友人関係のトラブルが事案解決後もわだかまりが残り学校生活が嫌になり退学に至った。
- ・ 良好な対人関係が構築できない。
- ・ 自己中心的な考えによる生徒同士の人間関係の悪化。
- ・ 友人関係のもつれからくるストレス。
- ・ 友人関係や自己のバランスが保てず、学校生活不適應となった。
- ・ 人間関係を構築できず、居場所が無いと感じる。
- ・ 友人とのトラブル、悩みが原因で腹痛や嘔吐の症状が現れた生徒。早退が続き、休みがちになった。心配なことがあると体調に表れると本人も感じていることから、メンタルヘルス系の医療機関を複数受診している。処方薬の副作用で精神状態に波がある時期もあった。学校へ行くことを考えると足取りが重くなるとの事。離れて暮らす母の健康や、父の運転する車の安全についてなど心配なことがたくさんあるとのこと。現在別室登校中で校内での友人とのトラブルはなくなり、嫌なこともないとのことだが、自宅で祖母から教室への復帰について話されると表情がこわばるとのこと。
- ・ 2年次になりクラス替えをしたら、新しいクラスに馴染めず退学に至った。
- ・ 通学の関係で部活動を転部したが、それをきっかけに登校できなくなり退学。

#### <不本意入学（69校中5校）>

- ・ 本人が志望していた学校ではなく、保護者が勧めた学校に入学したため学校がもともと合わない決め付けていて学校が嫌になる場合。
- ・ 第一志望校が不合格となり本校に入学。両親とも教育熱心で、本人もそれに応えて翌春の再挑戦を考えていた。秋頃から精神的に不安定になり、医師の勧めで自宅療養となったが、年度末に通信制へ転学した。

### 【進路変更等】

#### ＜進路変更希望（69校中9校）＞

- ・ 別の高校への入学希望。
- ・ 高卒程度認定試験受験を希望。

### 【病気・けが】

#### ＜心身症（69校中19校）＞

精神的不安定、気分障害、情緒障害、自律神経失調症、うつ病、睡眠障害、統合失調症、ひきこもり、自閉症スペクトラム 保護者の虐待による精神疾患 等。

#### ＜発達障害（69校中10校）＞

- ・ 発達障害等に起因する不適応
- ・ 障害（自閉症、発達障害、ADHD等）を持っている生徒が多く、人とのコミュニケーションが課題となり、対人トラブルのもとになっている。

#### ＜その他病気・けが（69校中4校）＞

起立性調節障害、ストレス性腹痛、急に意識を失う等。

### 【経済的理由】

#### ＜経済的困難（69校中4校）＞

- ・ 家計の逼迫
- ・ 父子家庭で、父は病床にあり保護者としての役割を充分果たせない状況にあった。経済的に困窮していた生徒は金銭目的の窃盗で補導された。家庭状況を考慮し、特別指導を経ての立ち直りに期待したが、結局は生活のためにアルバイトに専念したいと退学するに至った。
- ・ 母親が病弱で経済的に苦しい状況になり、学校を辞めざるを得なかった生徒。
- ・ 家計が厳しく、授業料が払えなくなり、本人が働こうと考えたため

### 【家庭の事情】

#### ＜家庭の事情（69校中20校）＞

- ・ 家庭の問題（両親・祖父母・兄弟姉妹等の間で起こる様々な問題）。
- ・ 本人と保護者の不和。
- ・ 親の生活破綻など。
- ・ 病気を持った母親との確執。
- ・ 離婚後の親権を持つ親の男女関係。
- ・ 一人親世帯や放任家庭など、保護能力のない家庭も見られ、基本的なルールが身につけていなかったり、家庭の協力が得られないケースもある。
- ・ 学力向上についての保護者の過度の干渉。
- ・ 母子家庭、父子家庭、両親は揃っているものの都合により片方が不在の場合が多い。
- ・ 本校に入学前（小・中学時）より学校そのものに不信感を持っている親が多い感じがある。

**【問題行動】**

＜問題行動（69校中8校）＞

- ・ 事故・非行により懲戒処分を受け、その後の学校の指導を拒否して退学。
- ・ 問題行動の積み重ね。
- ・ 触法行為が累積。
- ・ 万引きで補導され、停学処分後から登校できなくなった。
- ・ 学力不振でカンニング、自転車窃盗など。

**【その他】**

＜妊娠・出産（69校中2校）＞

＜その他（69校中3校）＞

- ・ 退学者は学業と就業を両立することの困難さが要因となっている。
- ・ 学校の生徒に対する指導力及び理解不足。

**問 不登校・中途退学への対応にあたり、課題となっていることについて**

不登校・中途退学への対応にあたって、課題となっていることはありますか。自由記述にてお知らせください。

（本人・家族に対応する上での課題や、関係機関との連携協力に係る課題 など）

① ある 69校中49校      ② ない 69校中20校

**【生徒本人の状況改善・関係づくりについて】**

- ✧ 過去のいじめ被害による不安感や恐怖心のフラッシュバック現象が発生した場合に、その生徒は周囲の生徒の言動の全てが自分に対する攻撃に感じられてしまい、教室に入れなくなってしまふ。このような疑心暗鬼が生じた状態に対する支援はどうすべきか。
- ✧ 転学・退学の決断が意外とあっさりしていて、相談の余地がない。
- ✧ 生徒が心を開いてくれない。
- ✧ 本人との意思の疎通。
- ✧ 学習面への対応…学業不適應を原因とするケースが多いため、不登校状態が続くことにより、更に状態を深刻化させ、復帰が難しいものになっている。
- ✧ 対人関係で過敏な生徒が様々なストレスを抱え、特定の誰かにいじめられてはいないが、集団生活や対人関係を拒絶し、不登校となるケースがある。
- ✧ 家庭訪問で生徒本人と話をしたいが、拒否されたり、顔を見せてくれず、生徒の状況を直接把握できない。
- ✧ 地理的な隔たり（寮生や郡部からの通学生）。

### 【保護者との関係づくりについて】

- ・ 本人、家族を支援したり話し合ったりするための十分な時間が確保できないことがある。
- ・ 保護者の協力が得られない。
- ・ 幼少時からの愛情不足等は家庭に根本的問題があるといえるが、家庭への働きかけには限界がある。
- ・ 発達障害を知らない、また認めたくない保護者が多い。
- ・ 保護者との信頼関係の構築。
- ・ 広域の通学圏のため、家庭訪問が大変である。しかも、勤務時間内の家庭訪問は困難。
- ・ 学校で生徒に対応する場面で、医療機関（生徒が通っている病院）との連携を取りたいが、保護者が拒否をする。
- ・ 保護者が本人の問題行動を容認。
- ・ 精神的な病気や発達障害が疑われる生徒の保護者に対して、医療機関への受診を促すタイミングやその必要性を理解してもらうことが難しい。特に精神科医療に対する拒否反応もあり、保護者の考え方が大きく反映される。早い段階での通院が可能であれば、医療機関からのアドバイスを受けながら学校として対応し、退学に至らずに済むケースもある。
- ・ 本人と家族の意見の相違…本校へのこだわりの強い親の想いで退学まで時間がかかる。(進路変更の遅れ)
- ・ メンタルな原因の場合、当事者にカウンセリングが必要だが、親がその時間と手間を惜んでいることがある。
- ・ 保護者及び兄弟姉妹が高等教育を受けていないことから、高校教育の意義、出席の必要性や学習状況で単位習得が認められ、進級、卒業につながるという高校生活への理解不足により支援が進まないケースがある。
- ・ 母子家庭・父子家庭の生徒が不登校になった場合、保護者と面談連絡のタイミングをとるのが難しく対応が遅れ気味になる。また、医療機関の受診を勧めても、必要性を感じない、通院に付き添うことができない、費用がかかるなどの理由で応じてくれないことがある。
- ・ 保護者が子どもの教育を放棄したり、関心を示さないこと。
- ・ 保護者にスムーズに連絡がつかない。諸費の滞納の件もあり、学校からの電話を受け付けないケースもあった。
- ・ 本人のことを家族が理解していない場合が多い。

### 【教職員のスキルアップ・学校全体の環境づくり等について】

- ・ 人間関係形成能力が未熟な生徒に対して、未然防止のために、教師が全体としてどのように関わっていくか。
- ・ 家庭環境に起因する学校不適應の場合、家庭の事情に教職員がどこまで介入してよいのか。
- ・ 特に課題と思ってることはないが、学校として十分に対応できたのかを常に自問自答している。
- ・ 発達障害や心因性の病気のある生徒に対応するスキルをもっている教員が少ない。
- ・ 適応障害や心因性の疾患による学業・学校生活の不適應に対する対応・指導
- ・ 発達障害、精神障害に対する知識、及びそれらを抱える生徒の指導経験を有する教職員が少なく、支援体制を整えることが難しい。
- ・ 教員の資質の向上

- ・ 校内体制の構築
- ・ 「適応障害の疑い」と診断され、本人にどのように接し（登校を促す声かけなど）、どれくらいの頻度で連絡取るべきか。
- ・ 進級・卒業のための単位認定の関係で、生徒が学校へ出てこられるようになるタイミングを持つことに限界がある。障害・疾病の状態の改善や緩和を待ったり、生徒を取り巻く環境が変わり、生徒自身の気持ちの整理がつくまでの十分な時間を待ったりすることが困難な場合が多い。登校刺激せざるをえない状況から、そうしてしまうと、生徒はさらに学校と距離を置いてしまう。その結果、中途退学となってしまうケースが多いと感じる。
- ・ 病的要因からくる不登校、退学に対して、学校がどの程度介入していいものか、その対応が難しい。

### 【関係機関との連携について】

- ・ 家庭、中学校との連携した指導が充分にとれない。
- ・ 学校と問題を抱える生徒、家庭の間に入る機関がない。
- ・ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーをどのように活用すれば効果的か。
- ・ 個々の生徒のケース会議（情報交換）を頻繁にやりたいが、時間確保と場所の確保が厳しい
- ・ 過年度入学生の場合、中学校からの詳細な情報が得られにくい。
- ・ 親子の関係を回復させるには時間がかかり、特に遺伝的な要素が関係する場合は専門機関の支援・援助が不可欠である。
- ・ 生徒に対する中学校からの情報が不十分である。
- ・ 外部機関との連携の方法やタイミングは課題が残る。
- ・ 精神疾患の生徒に対して、病院でどのように対応しているかわからない。
- ・ 関係機関が動く（活用する）までの手続きの煩雑さなど、すぐに対応してもらえない時があった。地域性でしょうか。

### 【適切な相談支援機関等の不足】

- ・ 一度不登校になってしまった生徒を、通常の学校生活に戻すことは非常に難しい。解決のために生徒の心情をきちんと把握するという事は、全教員が理解はしていてもなかなかできない。本校の場合、専門的なスキルを持った人材、または、こういった問題を解決へ導く、コーディネートできる人材がいなかった。
- ・ スクールカウンセラーが常駐していないため、十分なカウンセリングの機会が得られない。
- ・ 情緒に問題がある際、即、医療機関へ繋げたいが、ほとんどが予約制で、緊急時の対応がおくれがちになる。加えて思春期外来に対応してくれる医療機関も少ない。
- ・ 不登校によって中途退学すると引きこもりになる可能性が高い。休学中の生徒については、学校でも様々な対応をするが、退学してしまうと支援の糸が切れてしまう。これらの若者に対しての訪問支援をする機関が必要だと思う。

### 【再チャンスの困難さ】

- ・ 退学後も手助けできることがあればしたいと考えるが、その退学者がその後どのような生活を送っているのか、知りたくても聞けないのが実情である。

【その他】

- ・ 本人、家族への受診のすすめ方

**問 連携協力している公的・民間支援機関について**

貴校において、不登校生徒や中途退学生徒への対応にあたり、日頃から連携協力している（これまで連携協力したことのある）公的・民間支援機関はありますか。

ある場合は、機関の名称と連携の内容についてお知らせください。

(1) 連携協力している公的・民間支援機関が

- ① ある 69校中32校    ② ない 69校中35校    無回答69校中2校

(2) 連携協力している公的・民間支援機関がある場合は、その機関の名称と連携の内容についてお知らせください。

＜県教育庁（69校中9校）＞

- ・ スクールカウンセラーの派遣
- ・ スクールソーシャルワーカーの派遣

＜県総合学校教育センター（69校中6校）＞

- ・ 不登校生徒のカウンセリング
- ・ 不登校の生徒・保護者に対する対応方法
- ・ 不登校事例についての相談・面談
- ・ 不登校生徒の悩み相談と登校支援
- ・ 発達障害傾向の生徒について

＜スクールカウンセラー（69校中8校）＞

- ・ 生徒・保護者へのカウンセリング、養護教員による問題生徒への対応に関する相談
- ・ 不登校事例についての相談、面談
- ・ 退学を希望している生徒のカウンセリング

＜スクールソーシャルワーカー（69校中4校）＞

- ・ 相談、本人・家族との面談
- ・ 指導のアドバイス
- ・ 家庭支援
- ・ 保護者のメンタルの問題

＜特別支援学校（聾・盲・養護学校、69校中3校）＞

- ・ 精神疾患や発達障害生徒への対応の支援・保護者の相談先
- ・ 生徒指導のアドバイス
- ・ 生徒への対応の助言

＜児童相談所（69校中7校）＞

- ・ 保護者が子どもの発達、障がいについて相談していた。
- ・ 家庭状況により生徒への直接対応が困難な場合に協力をえる。
- ・ 法的な部分の確認
- ・ 小・中時の指導状況、支援状況の共有
- ・ 不登校や問題行動の生徒についての対応方法

＜警察署（69校中3校）＞

- ・ 非行防止についての情報収集・相談
- ・ 触法行為や精神疾患を抱える生徒の保護者等の支援

＜医療機関（69校中4校）＞

- ・ 生徒の情報の共有・対応について
- ・ 治療・支援方法についての助言・指導
- ・ カウンセリング

＜サポステ（69校中2校）＞

- ・ コミュニケーションのスキル
- ・ 不登校生徒・保護者の相談

＜市町村役場・教委（69校中5校）＞

- ・ 経済的な理由からの退学を避けるため可能な支援についての助言
- ・ 経済的に困窮している家庭の支援についての相談
- ・ 小・中学校の指導状況、支援情報の共有
- ・ 入学した生徒についての情報共有

＜その他（69校中4校）＞

- ・ ひきこもり地域支援センター → 不登校生徒のカウンセリング
- ・ 児童養護施設 → ネグレクト等の対応の相談
- ・ 中学校 → 出身中学校と進路変更に伴う入試試験に対応
- ・ 社会福祉協議会 → 経済的理由からの退学を避けるため
- ・ 精神保健福祉センター → 相談機関の照会



**問 今後、連携協力が必要であると感じる公的・民間支援機関について**

貴校において今後、不登校生徒や中途退学生徒への対応にあたり、連携協力が必要であると感じている公的・民間支援機関はありますか。

ある場合は、その機関の名称と、連携により期待する効果をお知らせください。

(1) 連携協力が必要であると感じる公的・民間支援機関が

① ある 69校中25校 ② ない 69校中42校 無回答69校中2校

(2) 連携協力が必要であると感じる公的・民間支援機関がある場合は、その機関の名称と連携の内容についてお知らせください。

<県教育庁（69校中4校）>

- ・ カウンセラーの派遣 → 相談等により本人の胸のうちを引き出してほしい。
- ・ スクールソーシャルワーカー派遣 → 進路に向けてのキャリア形成  
→ 困難を抱えた生徒が不登校になった場合の協力・助言  
→ 支援機関へのつなぎ

<県総合学校教育センター（69校中3校）>

- ・ 不登校者の生徒についての対処方法
- ・ 問題をかかえる生徒・保護者への支援の行い方の教授とカウンセリング
- ・ 特別支援相談・教育相談

<児童相談所（69校中4校）>

- ・ 保護者によるネグレスト等があった場合の対応
- ・ 不登校や問題行動の生徒についての対応方法
- ・ 親の暴力等

<警察署（69校中1校）>

- ・ 専門的なアドバイス

<医療機関（69校中9校）>

- ・ 生徒を指導する上でのアドバイス
- ・ 問題を抱える生徒・保護者への支援の行い方の教授とカウンセリング
- ・ 治療・支援方法についての助言、指導
- ・ 情報を共有することにより、適切な指導をすることが出来る。
- ・ 診察の内容と生徒への対応のやり取り

<特別支援学校（69校中2校）>

- ・ 発達障害のある生徒への支援と支援計画について生徒を指導する上でのアドバイス

＜スクールソーシャルワーカー（69校中5校）＞

- ・ 進路へ向けてのキャリア形成
- ・ 支援機関へのつなぎ
- ・ 必要に応じて専門家からの助言・指導を受けたい
- ・ 困難を抱えた家庭の生徒が不登校になった場合に、協力・助言を得たい

＜スクールカウンセラー（69校中2校）＞

- ・ 生徒の心境、状況確認

＜県発達障害者支援センター（69校中2校）＞

- ・ ソーシャルスキルトレーニング
- ・ 学習障害を抱えている生徒及び保護者への支援

＜サポステ（69校中4校）＞

- ・ 退学生徒の就労支援
- ・ 中途退学者（進路未決定）の進路支援
- ・ ソーシャルスキルトレーニング

＜地域の相談支援センター（69校中2校）＞

- ・ 教員に対する助言・サポートをしていただき指導にいかす
- ・ 経済的に困窮している家庭に対する積極的支援

＜その他＞

- ・ カウンセリングを行う機関 → 気軽にカウンセラーを派遣してくれる機関
- ・ 青森県子ども家庭支援センター → 保護者からの相談対応
- ・ 該当機関名はわかりませんが、心理カウンセラーを自宅に派遣する機関  
→ 不登校生徒には、自宅から全く出ることができない生徒もいる。スクールカウンセラーは自宅に派遣（訪問）出来ないので、自宅にカウンセラーを派遣する支援機関があるとその効果は大きい。
- ・ 保健所 → 精神保健健康相談、精神科医による面談・相談
- ・ 中学校 → 中学時代の状況を把握
- ・ 地方教育相談所 → 中学時代の状況を把握し対応の参考とする

**問 不登校・中途退学の生徒を発生させないための対応策について**

不登校・中途退学の生徒を発生させないために、貴校が独自に実施していることはありますか。  
自由記述にてお知らせください。

① ある 69校中53校 ② ない 69校中16校

＜学校内・教員間の情報共有（69校中19校）＞

- ✧ 教育相談委員会を毎月1回開催し、気にかかる生徒の様子について情報共有するとともに、対応策を協議し、教員が連携して対応している。
- ✧ 教育相談委員会による綿密な情報交換。
- ✧ 特別支援委員会を構内で設置しており、スクールカウンセラーも交えて毎月情報交換等を行い、問題を抱える生徒の支援協力体制を整えている。
- ✧ 校内に教育相談委員会を設置し、早期解消に努めている。
- ✧ 毎週金曜日の職員朝会にて、各年次、保健室より気になる生徒がいれば意見交換を行い全職員で情報を共有し対応にあたる。
- ✧ 授業中少しでも気になる生徒がいれば授業担当者から担任、全職員と情報を共有し対応にあたる。
- ✧ 学校カウンセラーへの依頼（本校後援会が経費を出費）。
- ✧ 心理検査（アセス）、学校生活アンケートの各年2回の導入データーをもとにした、全教員での生徒理解研修の実施（年4回。）
- ✧ 教育相談委員会の実施（毎月）。
- ✧ 特別支援教育（教育相談）委員会を定期的で開催し、生徒情報の共通理解と対応について協議している。
- ✧ 共有フォルダを活用して面談結果を可視化。
- ✧ 校内いじめ防止対策委員会の定期開催。
- ✧ スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーとの面接指導。
- ✧ カウンセリング室を設けている（臨床心理士の資格をもったものが、週3日入室）。

＜生徒からの相談受付体制の充実・面談の定期的な実施等による状況把握（69校中17校）＞

- ・ スクールカウンセラーによる早期対応。
- ・ 発達障害の生徒へ SST と面談を実施（特別支援教育に係る支援指導員を学校独自で依頼）。
- ・ 面談週間の設定。

＜生徒に対するアンケートの実施（69校中4校）＞

- ・ 学校生活調査の実施（3回）。
- ・ 心理検査（アセス）、学校生活アンケートの各年2回の導入。

＜面談等による保護者との情報共有（69校中9校）＞

- ・ 特に1年次、欠席や登校を渋るような状況が続いた場合、保護者と連絡を密に取り、早めに対応することにしていく。
- ・ 保護者との連携を密にして、学校や家庭の状況など情報を共有し、年次や学校全体で対応につ

いて協議している。

- ・ 担任（学校）と保護者とのコミュニケーションを良好にするため、地区懇談会を実施している。

#### <中学校に対する学校説明会の実施・中学校との情報交換（69校中2校）>

- ・ 中高連携事業（授業公開、中学校訪問）の開催。
- ・ 専門の内容が合わない場合もあるので、体験入学や中学校訪問の際に、各科の学習内容等を説明し、自分が学習したい科を選択するように呼びかけている。

#### <グループエンカウターの実施（69校中1校）>

#### <QUテストの活用とアセスの実施（69校中5校）>

#### <その他（69校中27校）>

- ・ 生徒間の人間関係の構築支援。
- ・ 基礎学力をつけるために、中学校の学び直しが出来る科目を教育課程に組み込んだ。
- ・ 学校行事、生徒会行事を多く設定し、様々な役割を与えてそれをやり遂げることによって、成就感、自尊感情、社会性を身につけさせようとしている。
- ・ ソーシャルスキルトレーニングの時間を総合的な学習の時間に多く設定し、生徒同士、生徒と教員が仲良くなれるよう工夫している。
- ・ 全校での行事を多く設定し、年次を越えて生徒が仲良くなれるようにしている。
- ・ 農業高校として、座学のみならず、様々な実習や体験活動が教育効果を生み出している。
- ・ 生徒対象のストレス講習会の実施。
- ・ リポート指導日を設定・実施（一人でも多く単位習得するように）。
- ・ 平日勉強会の実施（進学対策や学びなおしの機会）。
- ・ Word・Excel講習会（コンピュータスキルを身につける機会）。
- ・ 朝の挨拶運動による声かけ及び変化の観察。
- ・ 小さな問題行動を見逃さない「割れ窓理論」の実践。
- ・ 自分の専科にのみこだわることなく、他科の内容を学習することができる「総合選択」を取り入れることにより、生徒の可能性や将来性を伸ばしたり、新しい価値を見出すことで、不登校・中途退学の抑止につなげている。
- ・ 生徒の興味や関心があること得意なものや長所を見つけ、自信を持たせる指導を早くから行う。
- ・ クラス編成に配慮する。不登校だけでなく、発達障害、ADHD、自閉症など、中学校からの申し送りも参考にしている。また、2学年に進級する際のクラス替えでは、1年間の観察や友人関係も考慮して、クラスの受入態勢を整えている。
- ・ 学校外との人的交流や協働的な作業体験などからの実践活動を通して、社会性、公共心、自立心、自己肯定感を育むことにつながるのと観点から、他校種交流（特別支援学校や小学校）、社会体験、地域貢献、福祉施設の実習、ボランティアなどを積極的に実施している。
- ・ アクティブラーニング型授業の導入等、授業改善の取り組みを継続することで、学習意欲の低

さからくる、学校不適應を防止する。

- ・ 専門医師との連携・協力
- ・ 生徒の自己肯定感を持たせるような指導を心掛けている。
- ・ SNS 上への書き込みについての注意
- ・ 単位認定に必要な、欠席時数に関する校内規定について、対象生徒の申請により緩和することがある。
- ・ キャリア教育の充実。
- ・ 全寮制生活を通して学年団を越えたアプローチの実施。

**問 その他、生徒の自立支援を行う上での課題、行政への意見・要望等について**

その他、不登校、または志半ばで中途退学した生徒の自立支援を行うにあたり、行政への意見・要望等がありますか。自由記述にてお知らせください。

① ある 69校中38校 ② ない 69校中31校

＜常駐の支援員の設置等（69校中10校）＞

- ・ 相談者の悩みを早期に対応できるように、相談窓と相談員の拡充を希望いたします。
- ・ 定期的に教育カウンセラー、支援員を活用できるようになれば良い。
- ・ 年々、人間関係を構築できない生徒、発達障害だと思われる生徒が増加してきているため、人間関係を築くスキル等を教えてくれる特別支援教育コーディネーターや学校カウンセラー、ソーシャルワーカーなど、その道の専門性の高い方を学校に常駐させて頂きたい。
- ・ 教員以外の人材の派遣。
- ・ スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置および教員の増員等の人的措置の充実。
- ・ スクールカウンセラー派遣事業等の私立学校に対する支援拡充。

＜専門家による支援マニュアルの作成・配布（69校中3校）＞

- ・ 不登校等に対する、指導等のフローチャートや指導計画の事例を行政が学校の実情を把握しながら作成して欲しい。
- ・ 不登校、別室登校、学習・発達障害などの対応が学校に任されており、あまりそういう生徒がいない学校は対応に困惑しているのが現状である。このように対応しているなどの事例を示して欲しい。もちろん、進学校や職業高校では対応も違うので、上手く自立支援できた例を知りたい。
- ・ 自立支援の成功事例の収集と対応のポイントについての共有。

＜支援機関の「見える化」・相談者と支援機関を「つなぐ」ことについて（69校中11校）＞

- ・ 子どもの問題を一ヶ所の行政センターのようなところで専門性を持った方々に相談できる。  
例えば、子どもを見た時に病気のこと、発達障害、虐待、非行の問題、障害がある子のこと、子どもの経済のこと、学習やしつけの問題など様々あるが、どれも単独では対応できず、特に精神科医師や教師、警察（少年係等）、福祉、行政など様々な機関をまたがって対応する必要がある。

あります。そのために、それらの機能を合わせ持った施設がほしい。

- ・ 今後発達障害による学校不適應で、不登校になったり、中途退学したりする生徒が出ないとも限りません。従って、発達障害を抱えた生徒が実社会に適應するための自立支援システムの構築が期待されます。専門機関等で発達障害の診断を受けている生徒についてはさほど問題は無いのですが、診断を受けておらず、保護者の発達障害に対する理解が不十分な場合、生徒の円滑な自立が妨げられてしまうという懸念があります。
- ・ 行政機関の支援がどのようなものがあるか学校側に伝わっていれば、不登校・中途退学の生徒へ情報を伝えることができる。
- ・ 義務教育（小・中学校）からの情報をもとに、小・中・高の連携した情報共有システムが欲しい。
- ・ 中途退学した生徒、特に転入していない生徒の動向確認ができる方法があればよいと思う。
- ・ 生徒が不登校になった時、教員と一緒に家庭訪問をして、カウンセリングをしてくれる専門家を派遣する制度を作ってほしい。
- ・ 発達障害等に関わる相談窓口などの周知と拡大をお願いしたい。

#### <相談支援機関の体制強化（69校中7校）>

- ・ 不登校・中途退学に至る要因は様々であるが、学校が対処できるのは表面に出てきた問題（行動）であり、対症療法的になってしまう。家庭や保護者が大きな問題を抱えているケースが多くあり、学校単体だけでは根本的解決までは至らないことがある。
- ・ 家庭訪問を学校関係（主に担任）が行っているが、本人が拒否して会えない時に、第三者として間に入ってくれる機関があれば良いと思うが、その役目をスクールソーシャルワーカーにお願いしてみて、やはり難しいと感じている。
- ・ 保護者を支援することも大切だと思う。
- ・ 高校を退学となった若者の生活全般を支援する機関は必要であると思う。退学後のライフプランを退学前から助言するが、その場面では受け止めることが出来ないのが実態である。そのためにも退学時点で、その後の生活を支援する行政機関や支援内容の情報をまとめた資料を提供できれば良いのではないかと。
- ・ まず、経済的な理由での退学を防止するように、学校から直接情報を収集し、困窮している生徒の授業料や経費の全額を援助する制度があれば良い。

#### <学校間の連携強化（69校中0校）>

#### <再チャレンジできる環境づくり・居場所づくり（69校中9校）>

- ・ 自宅と学校以外で、不登校や中途退学した生徒の居場所があれば、引きこもらなくて済む。他に同じような境遇で苦しむ生徒と会話することが出来れば、少しは前向きになれると思う。
- ・ 中途退学者の多くは、長期間引きこもりになり社会生活を上手く送られないという傾向がある。公共施設としてのフリースクールのような機関があってほしいと考える。自分なりのペースで学ぶことが出来、ある程度の条件クリアで高校卒業の資格が得られると彼らも前向きな気持ちになり、立ち直りが早くなる。また、本人以上に親が精神的に追い詰められていることが多いので、親のサポートが出来る専門家がその施設に配置されていることが望ましい。
- ・ 中途退学した生徒が再チャレンジする場として、公立の定通制高校の充実が必要だと考える。

- ・ 学生の年齢の子供たちが、学校以外に社会とつながりを持てる機関があるとよいと思う。
- ・ 中卒での就職は難しいと考える。職人という道はあるが、本校を中途退学する生徒の殆どは職人が向いていないと考えられる。また、女子生徒についても同じと考えられるため、まずは高校卒業の資格を与える手段（大検の斡旋とその対策講習等など）を考えることが、一人でも多くの中途退学した生徒の自立支援に繋がるのではないかと考える。
- ・ 中途退学した生徒を支援していく機関を作っていただきたい。すでにそのような機関は存在しているが、これまでより、積極的に保護し、生活の立て直しや社会における自立意欲の育成、自立のための職業観、勤労観の育成、職業訓練、就職支援、就職後のアフターフォロー等が実現できるような更生プログラムを作成、実施する支援をお願いしたい。
- ・ スリースクールで学び直しをする生徒の場合、最大の難点は学費である。本校は、一人親家庭の生徒がほとんどであり、生徒本人がアルバイトで食いつないでいるような過酷な状況の中で、仮に中退した場合、フリースクールでの学び直しはほとんど不可能である。公立高校授業料免除制度の拡大適用を望む。また、発達障害を抱えて、一斉授業が不向きである生徒に対して、常勤の教員数が圧倒的に少ない定時制の教育体制の中で、完璧な個別指導は不可能である。また、保護者の説得など、現場教員の手に余ることもある。したがって、定期的にとどのような生徒の把握に努め、フリースクールなどで専門家の指導の下、個別学習指導を受けられる体制と当該保護者に周知、助言できる立場の人材がほしい。

#### <就労支援・キャリア形成のための環境づくり（64校中4校）>

- ・ 高校在籍者に対しても地元の若者サポートステーションの支援が受けられるようにして欲しい。
- ・ 妊娠による退学者は、出産後結婚はせず経済的に厳しい状況にあることが多く、家庭の貧困とともに、その子どもも同じような状況を繰り返すこともある。若年で出産した女性への資格取得や職業支援は今後も幅広く続けることが必要と考える。
- ・ 受け入れ先の確保及び学費等の配慮。特に地理的な部分（大間からだと通える所がない）
- ・ テレビCMを通じて若年者に対する就職支援が整っていることを知ってもらってはどうか。
- ・ 就職支援を一層して欲しい。

#### <その他（64校中1校）>

- ・ 青森県は私立学校を滑り止めと考えている家庭が多いので、入学してくる生徒に発達障害の生徒が多い。以前、県の説明を聞いた時に私立のことを考えていない統計で説明しても底辺の生徒は私立学校に集中していることを理解していただきたい。





### Ⅲ 講評・考察



子ども・若者の自立支援へ向けて  
-コミュニケーションの視点から-

松本 敏治（教育心理支援教室・研究所ガジュマルつがる代表）

はじめに

現在、子ども・若者も含めわれわれをとりまく環境は、大きく変化している。インターネット、SNS、IT 技術の進歩、ネット社会などについて言及することは今更な感がある。ネット環境を含めて、このような IT 技術の変化が我々の地域社会やコミュニケーションの方法、職業や働き方に対しても大きな影響を及ぼしてきたし、これからも影響を与え続けるであろうことは容易に予測ができる。しかし、このような中、子どもや若者たちが抱える問題を取り扱ってきた者（私の場合は発達障害がその中心であるが）にとっては、10年後20年後の将来像を描くことが難しくなっていると感じる。キャリア教育の重要性が叫ばれている一方で、社会構造の変化や IT 技術の発展によって、職種そのものの構造の変化が起きることが予測されている。現在ある職業の幾つかは近い将来なくなったり機械などに取って代わられているであろうし、逆に新たな職業も生まれているだろう。小学生のなりたい職業として“ユーチューバー”が挙げられるような時代、眼前にいる子どもや若者に、10年後20年後を見据えてどのような助言や支援が可能なのか。すべての人が、自らの適性や能力・興味・関心に応じて職につき、“社会人”としての充実した生活を具体的に描くことは簡単ではないように思える。特に青森県の場合、失業率は沖縄県に次いで高い値を示しており、今回の調査の自由記述からも、希望する職種の求人がすくないとする指摘がある。このような状況の中、子どもや若者に対して希望や夢へ向かう長期的展望を提示することは簡単ではないにしても、少なくとも彼らと関わる身として子ども・若者と彼らを取り巻く状況を把握しなければならないだろう。

上述したようにネットや SNS 等の普及で我々のコミュニケーションは大きく変わってきているが、一方で“コミュ障”“KY”など他者との対人的コミュニケーションの問題が一般の人々の間でも注目されるようになり、ソーシャルスキルという言葉も職場や学校で重視されてきている。そこで、本稿の後半で調査結果にもとづきコミュニケーションに焦点を当てて分析を行うこととする。

前回（平成 24 年）および今回（平成 28 年）、就労に困難を抱える本人・保護者・高校中退者（A 調査）、県内のニート・引きこもり等の相談機関の担当者（B 調査）、県内の高等学校（C 調査）に対して調査を行っている。本稿では、主に A 調査（本人）の結果にもとづいて分析および考察を行う。

A 調査

**配布と回収：**今回調査は、平成 24 年と同じ質問紙を用いて同じく 400 人を対象に行ったものであるが、次の点で異なっている。平成 24 年調査においては、青森県若者サポートステーション（所在地：青森市）およびジョブカフェ（所在地：青森市）に調査票を置き（280 部）、来所者に持ち帰ってもらい郵送で回収している。120 部は、公的相談機関および民間

団体に配布し、保護者および本人から郵送された。一方、平成 28 年の調査においては、若者サポートステーションが青森市に加え弘前市および八戸市に開所したことからこの 3 箇所およびジョブカフェ（所在地：青森市）への来所（相談）者のうち条件に合致する（15 歳から 39 歳までの若者で職についていない者）本人又は保護者に電話で調査協力を依頼し、承諾が得られた場合等に郵送で送付・回収したものである。また、高等学校中途退学者については、県内高等学校を通じて対象者に配布し回収したものである。ここでは、A 調査のうち本人分（高校中退者を除く）について述べていくこととする。そのため、前述の調査結果とは若干値が異なる場合がある。

**回収率：**平成 24 年調査は、配布数 400 に対して 72（18%）の回答率であったが、今回の調査では配布数 400 に対して 168（42%）と大幅に上昇している。これは、上記のように事前に電話で調査依頼し承諾をうけていることで回収率が上昇したと考えられた。今回の結果は、居住地域などを除けば、全体として平成 24 年と 28 年の調査には大きな変動はなく、前回の調査結果の妥当性を示すものとなった。また、保護者の回答とも大きな乖離はみられなかったことから、本人からの回答について分析することとした。

**男女比：**男女比については、前回調査では男性が 6 割であったが、今回の調査では、男性女性の割合はほぼ同程度になっている。年齢の分布は、ほぼ前回と今回で差はなく、回答者のうち成人は 9 割を超えた。

**地域：**居住地域については、前回と今回で大きな差がみられた。前回の調査では、東青地域居住者が半数以上を締めていたが、今回の調査においては、東青・中南・三八居住者がほぼ同程度の数を示した。前回調査と比較すると、東青の数はほとんど変化がないものの、中南および三八では大幅な伸びを示しており、弘前市および八戸市に若者サポートステーションが開設されたことで、この地域に居住する方々の回答が増加したことによると思われる。このことは、今回の調査結果が青森県全体の動向を把握する上で有効なデータであることをうかがわせるとともに、居住地近くにサポートステーション等の相談機関があることの重要性を示している。

**同居家族：**同居家族については、前回今回とも同じ傾向を示し、父親との同居が 6 割、母親とは 8 割であった

**教育歴：**教育歴については、前回調査では短大・専修学校卒 26%、大学・大学院卒 25%、高校（全日制）卒 21%、今回調査では、高校（全日制）卒 32%、大学・大学院卒 21%、短大・専修学校卒 18%であった。

青森県の高校（全日制・定時制）の卒業者の進学率は、最近 10 年ほぼ 4 割である。今回の回答者の場合、短大・専修学校・大学・大学院卒および中退者つまり進学者に相当する割合は全体の中で 51%であった。一方、高等学校（全日制・定時制）卒の割合は 36%であった。比率でいえば、今回の調査の進学者と高卒者の割合は 6 対 4 であり、上述した高校（全日制・定時制）の卒業生の進学者と非進学者の割合と逆転している。このデータを見る限り、高校卒業後の進学が必ずしも就職と結びついていないように思える。現在のように就職が厳しい時代においては、高校卒業時に就職活動がうまくいかず、進学を選択したものもいるのかもしれない。あるいは高学歴であることが、採用側が給与および待遇の面を考え躊躇する要因となっているかもしれない。

**家計**：職を得られていないことから当然とも言えるが、回答者の家計は主に父母によって支えられている。先程のべたように回答者の 9 割が成人でありながら、父母の収入に依存せざるを得ない状況にある。一方、生活保護を受給するものは、ほとんどいなかった。

**仕事**：本調査は、上述したようにサポートステーションおよびジョブカフェに相談に来談しその時点で職についていない方を対象に行なったものであった。調査時点で、正社員として働いているのは 1 割弱に過ぎず、契約・派遣社員、パート・アルバイトを含めても 3 割強であった。6 割は仕事についていなかった。正社員として働いていない回答者（契約社員・派遣社員、パート・アルバイトも含む）に、今後の進路を尋ねたところ、4 割が正社員・正職員を希望していた。契約社員・派遣社員、パート・アルバイト、起業、資格取得を含めると 8 割が就労を希望していた。

**悩み**：日常生活や就職活動に関して、どのようなことに悩んだり困っているかについて聞いたところ、5 割の回答者が「人とのコミュニケーションがうまくとれない」ことを問題としている。今回の回答者の多くが、対人関係に困難を抱えている様子が伺えた。コミュニケーションの問題を自覚していない回答者がいる可能性も考えれば、就職に困難を抱える人の中にコミュニケーションの問題を有している割合はより高いとも思われる。

**他者との交流**：家族以外の人々との交流がほとんどないと思われる回答（問 11 で 3, 4, 5, 6, 7 を選択）が 5 割程度みられる。しかし、これらの回答者は家から出ないわけではなく、外出はするものの家族以外との交流が無いものがほとんどであった。保護者の調査からも家あるいは自室から出ないとするものは 5% であり、多くが一定程度の外出はするものの家族以外との交流がない状態にあることが確認された。家族以外との交流がほとんどない回答者がそのような状態になった時期を見てみると 18 歳から 23 歳の時期とするものが半数を占めている。高等学校から就職あるいは高等教育機関への進学のと時期に重なる。元データに基づき、高校（全日制）卒と大学・大学院生卒に分けて時期を比較してみた。高校（全日制）卒では上述したとおり 18 歳から 23 歳までに集中しており、大学・大学院生卒の場合には回答 10 名中 9 名が 22 歳以降と回答していた。高校卒、大学・大学院生卒とも、卒業後に就職が出来ず家族以外との交流が途絶える傾向にあると思われた。

さらに、このような状態が継続している期間を見てみると、6 割が 3 年以上を経過しており、7 年以上とするものも 3 割を超える。25 歳以上の回答者の場合ではほぼ 9 割が 3 年以上この状態にあり、7 年以上とするものも 5 割であった。年齢が高い回答者の場合、長期化している状況がみられた。

このような状態になったきっかけとしては「就職がうまくいかなかった」「職場に馴染めなかった」など就労に関わる失敗体験がきっかけになっており、この状態になった年齢が 18 歳から 23 歳までに集中していることとも一致している。また、学校時代のいじめや不登校などもきっかけと認識されており、さらに友人関係や働くことに対する意欲の欠如、世の中に対する絶望感があげられる。一方、家族（父母）との関係や受験の失敗、障害などをきっかけとするものは少なかった。就労支援が重要な課題であることが浮き彫りになった。

**相談**：日常生活や就職活動について誰にも相談していないとした回答者が 3 割いる。その理由を尋ねると、「相談しても解決できないとおもうから」という回答とともに「悩みをうまく話せないと思うから」という回答が多かった。

### コミュニケーションの困り感

ここからは、A 調査のうち、県内の相談支援期間を通じて調査票が配布され回答したものの168名のデータ（本人）をもとに、筆者が独自に分析した結果をもとに考察する。

上述したように回答者のうち、5割が「人とのコミュニケーションがうまくとれない」（コミュニケーションの困り感）を悩みとしていた。他者とのコミュニケーションに困り感を抱えるとする回答者とそれを選択しなかった回答者について、他の質問に対する回答とクロス集計することで、コミュニケーションが日常生活や就労上の問題とどのように関わるかを見ていくこととする。

**コミュニケーションの困り感と相談：**本人が抱えるコミュニケーションの困り感が、身近な人々へ自身の問題を相談することと関わっているかを確認するため、問15「あなたは、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか」に対して“誰にも相談していない”とした回答との関係について分析を行った。結果は、コミュニケーションに困り感をもつ回答者の場合「誰にも相談していない」とする割合は4割で、そうでない回答者の2倍であった。また、コミュニケーションに困り感をもつ回答者の3割が「相談しても解決しないと思うから」、2割強が「悩みをうまく話せないと思うから」を選択していた。「相談していない」と回答した回答者を、コミュニケーションに困り感があるとした回答者とそうでない回答者に分けたところ、7割がコミュニケーションに困り感をもつ回答者であった。さらに、「悩みをうまく話せないと思うから」および「相談しても解決できないと思うから」を選んだ回答者の8割が、コミュニケーションに困り感を抱えていた。このことは、相談をしていない人の多くが、コミュニケーションに困り感を抱えどのように相談したらよいかかわからない状態にあることを示している。

**コミュニケーションの困り感と相談機関：**前述したように、本調査の回答者が過去に悩みを相談した機関として主にハローワーク（51%）、ジョブカフェ（36%）、若者サポートステーション（63%）を挙げていた。相談機関ごとに相談したとした回答者のうち、コミュニケーションに困り感をもつ人の割合を見てみると、ハローワーク48%、ジョブカフェ37%であるのに対して、若者サポートステーション76%となっていた。若者サポートステーションがコミュニケーションに困り感をもつ人にとっての相談機関として主たる受け皿となっている様子が伺える。

若者サポートステーションへの相談内容を見ても（B 調査）と「自分のやりたいことが分からない（興味分野の診断）」「自分に何が向いているか分からない（適職・適性診断）」などが挙がっており、若者サポートステーションが相談者自身の自己理解等を支援している様子が伺える。

これら相談機関としては、相談者の中にコミュニケーションに困り感を抱え自身の悩みを適切に表現し、必要な支援を明確に述べるのが難しい方がいることを前提に、本人の持つ問題を引き出し解決へ向けてコンサルトするスキルがもためられるであろう。

**コミュニケーションの困り感と他者との交流：**コミュニケーションに困り感をもつ回答者と家族以外との交流の関係について分析をおこなった。家族以外との交流がほとんどない（問11で3, 4, 5, 6, 7を選択）とした回答者のうち6割がコミュニケーションに困り感を抱えていた。しかし、家族以外の人々と交流がある回答者でも4割はコミュニケーションの困り感を抱えていた。その差は大きなものではなかった。コミュニケーションの

困り感を持つものが半数（5割）であることを考えると、コミュニケーションの困り感が家族以外との交流を阻害する主要因とは考えられない。

**コミュニケーションの困り感と学歴：**教育歴とコミュニケーションの困り感について分析をおこなったところ、教育歴に関係なく、回答者の半数がコミュニケーションの困り感を挙げていた。大学・大学院卒においても半数がコミュニケーションの困り感を抱えていた。言い換えれば、コミュニケーションの困り感自体は、教育歴に大きな影響をおよぼす要因にはなっていない。

**コミュニケーションの困り感と仕事：**問7でなんらかの形で働いている回答者と働いていない回答者に分け、コミュニケーションの困り感との関係をみたところ、大きな差はみられず、人とのコミュニケーションがうまくいかないとする回答者は、両群ともほぼ5割をしめた。本回答者の半数がコミュニケーションに困り感をもっているが、仕事をしていないこととは結びついていない。

### 家族以外の交流

**家族以外との交流と仕事：**仕事についていない人の7割弱が家族以外との交流がなかった。仕事についている場合は、8割弱が家族以外との交流もあった。仕事をもつことで、家族以外の人との交流が保たれていると考えられる。

### まとめ

- 1) 家族以外との交流がないとするものが回答者の半数を占める。
- 2) 家族以外の人との交流が途絶えた時期は、18～23歳をピークとしておりその原因としては「就職活動がうまくいかない」「職場になじめなかった」などがあげられた。
- 3) 家族以外との交流があるかどうかは、仕事についているかが影響していた。何らかの形で仕事をしている回答者の8割が家族以外との交流があるが、仕事についていない場合には7割が家族以外との交流がなかった。
- 4) コミュニケーションに困り感をもつものが回答者の半数を占めた。
- 5) 日常生活や就職活動に関する悩みを“誰にも相談していない”とした回答者のほとんどが、コミュニケーションに困り感を抱えており、その理由として「悩みをうまく話せない」など、自分の状態について話すこと自体に困難を示している。
- 6) 回答全体では、ハローワーク・ジョブカフェ・若者サポートステーションが主たる相談機関であったが、コミュニケーションに困り感をもつ方の場合、若者サポートステーションを相談機関として訪れる傾向にあった。
- 7) コミュニケーションの困り感と教育歴の間には関係はみられず、いずれにおいてもほぼ半数が困り感を抱えている。
- 8) コミュニケーションの困り感と仕事をしているかどうかについては、今回の調査では関係が認められなかった。

これらのことから、卒業後に就労がいかにかうまくいくかが、その後の人間関係の広がり大きな影響を及ぼしている様子が伺われた。また、人間関係の広がり、

コミュニケーションの困り感」など個人の資質の問題ではなく外的要因（仕事をしているか否か）が重要であった。家族以外との交流がないとした回答者でもほとんどが週 1 回以上は外出をしていることから、交流できる場を確保する必要があるであろう。半数にものぼる回答者がコミュニケーションの困り感を抱えており、場合によっては相談することにも困難を示している。コミュニケーションの困り感を理解した上で、本人の自己理解を促すサポートが必要と考えられる。





## 「若者自立支援のための実態把握調査」 調 査 票

(選択肢の左側に、単純集計の結果を記載している。特に記載のない限り、n=168人、単位=%となっている。)

このたびは、調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この調査は、今後の若者支援のあり方を検討するため、皆様が日頃、どのようなことを考え、どのように過ごしているかをお伺いするもので、県内の15歳から39歳までの方をお願いしています。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう集計いたします。また、回答内容や個人情報が上記目的以外に使用されたり、外部に漏れることはありません。

以下の〈回答の方法〉をご確認のうえ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

### 〈回答の方法〉

1. 質問は21問あります。現在の記入時点での状況をお答えください。
2. 回答は、調査票の当てはまる番号を○で囲んでください。また、設問によっては、数字をご記入いただいたり、具体的な内容を文章でご記入いただくところもあります。
3. 回答後は、添付の返信用封筒に入れ、封をしてポストに投函してください。  
(本調査は、「NPO法人ワーカーズコープ」への委託により実施しています。)
4. この調査でご不明の点がございましたら、下記にお問い合わせください。

… 担 当 …

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課青少年グループ

「若者自立支援のための実態把握調査」担当

TEL 017-734-9226

E-mail seishonen@pref.aomori.lg.jp



問6 現在、あなたの生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。(〇はひとつだけ)

11.3	1	あなた自身	71.4	2	父母
10.1	3	配偶者	1.2	4	兄弟姉妹
2.4	5	他の家族や親戚	2.4	6	その他(具体的に: )
1.2	7	生活保護を受けている			

問7 あなたはいま、仕事に就いていますか。

8.3	1	正社員・正職員として働いている
11.3	2	契約社員・派遣社員として働いている
22.6	3	パート・アルバイトとして働いている
57.8	4	いいえ

問10にお進みください

問8 問7で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。(n=154人)  
あなたは、今後の自分の進路についてどのように考えていますか。(〇はひとつだけ)

41.6	1	正社員・正職員として働きたい
4.5	2	契約社員・派遣社員として働きたい
18.2	3	パート・アルバイトとして働きたい
2.6	4	自分で会社などをおこしたい
14.9	5	進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたりもっと自分を磨いてから働きたい
7.8	6	その他(具体的に: )
3.9	7	働きたくない
6.5		無回答

問10にお進みください

問9 問8で「7 働きたくない」と回答した方にお聞きします。  
その理由を教えてください。(〇はいくつでも) (n=6人)

0.0	1	健康上の理由があるから			
50.0	2	なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから			
50.0	3	将来、やりたいことが見つからないから			
33.3	4	何もしたくないから	0.0	5	もっと遊びたいから
0.0	6	家族や親族からの援助があり働かなくても生活していけるから			
0.0	7	生活保護を受けており働かなくても生活していけるから			
16.7	8	働かなければならない理由が見つからないから			
16.7	9	その他(具体的に: )			

問10 いま、あなたが日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。また、それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

53.0	1	人とのコミュニケーションがうまくとれない			
10.1	2	精神的に外出することが困難になっている			
28.6	3	信頼できる友人がいない			
17.9	4	悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない			
36.3	5	希望する職種に求人がない(少ない)			
15.5	6	職種にはこだわっていないが、県内に働きたいところがない			
27.4	7	なかなか採用されない	12.5	8	面接がうまくいかない
14.9	9	健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができない			
20.2	10	就職するための技能・技術が身に付かない			
35.1	11	金銭的に生活にゆとりがない			
29.8	12	進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたいが、お金がない			
15.5	13	その他(具体的に: _____)			
7.7	14	特になし			

問11 あなたは普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。(〇はひとつだけ)

32.2	1	ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある			
19.6	2	週に3~4日外出し、家族以外の人との交流もある			
10.1	3	ほとんど毎日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない			
13.1	4	週に3~4日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない			
22.0	5	週に1~2日しか外出しない			
3.0	6	自室からは出るが、家からは外出しない	0.0	7	自室からほとんど出ない

問15にお進みください

問12 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に) (n=81人)

1.2	3歳	1.2	7歳	1.2	9歳	1.2	10歳	1.2	11歳
7.5	12歳	1.2	13歳	2.5	14歳	3.8	15歳	3.7	16歳
8.6	18歳	7.5	19歳	11.1	20歳	8.6	21歳	6.2	22歳
7.5	23歳	3.7	24歳	3.7	25歳	3.7	26歳	1.2	27歳
2.5	28歳	3.7	30歳	1.2	32歳	1.2	34歳	1.2	35歳
3.7	無回答								

問13 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。現在の状態となってどのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ) (n=81人)

12.4	1	6ヶ月未満	4.9	2	6ヶ月~1年		
14.8	3	1年~3年	17.3	4	3年~5年		
9.9	5	5年~7年	37.0	6	7年以上	3.7	無回答

問14 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

(n=81人)

- |      |    |                       |      |    |                  |
|------|----|-----------------------|------|----|------------------|
| 22.2 | 1  | 小・中・高校時代の不登校          | 16.0 | 2  | 小・中・高校時代のいじめ     |
| 11.1 | 3  | 大学になじめなかった            | 2.5  | 4  | 受験に失敗した          |
| 34.6 | 5  | 就職活動がうまくいかなかった        | 17.3 | 6  | 職場になじめなかった       |
| 11.1 | 7  | 父親との関係がうまくいかなかった      | 7.4  | 8  | 母親との関係がうまくいかなかった |
| 4.9  | 9  | 父母以外の家族との関係がうまくいかなかった |      |    |                  |
| 22.2 | 10 | 友人との関係がうまくいかなかった      | 23.5 | 11 | 働いたり外出したりする気力がない |
| 21.0 | 12 | 世の中に絶望した              | 12.3 | 13 | 病気をした(している)      |
| 7.4  | 14 | 障害がある                 | 2.5  | 15 | 妊娠した             |
| 28.4 | 16 | その他(具体的に:             |      |    | )                |

問15 あなたは、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。

(〇はいくつでも)

- |      |   |            |      |   |             |
|------|---|------------|------|---|-------------|
| 19.6 | 1 | 父親         | 45.8 | 2 | 母親          |
| 8.9  | 3 | 配偶者        | 8.9  | 4 | 兄弟姉妹        |
| 4.2  | 5 | 祖父母に相談している | 4.8  | 6 | 1～5以外の家族や親戚 |
| 36.9 | 7 | 友人・知人      | 10.1 | 8 | 職場の上司・同僚    |
| 32.1 | 9 | 誰にも相談していない |      |   |             |

問16 問15で「9 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。

その理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

(n=54人)

- |      |    |                                      |      |   |                  |
|------|----|--------------------------------------|------|---|------------------|
| 63.0 | 1  | 相談しても解決できないと思うから                     | 22.2 | 2 | 家族などに心配をかけたくないから |
| 25.9 | 3  | 自分の悩みを人に知られたくないから                    |      |   |                  |
| 18.5 | 4  | 相談したことを人に知られたくないから                   |      |   |                  |
| 24.1 | 5  | 何を聞かれるか不安だから                         |      |   |                  |
| 48.1 | 6  | 悩みを相手にうまく話せないと思うから                   |      |   |                  |
| 24.1 | 7  | 相談機関に相談しているから                        |      |   |                  |
| 7.4  | 8  | 身近な人より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから |      |   |                  |
| 20.4 | 9  | その他(具体的に:                            |      |   | )                |
| 7.4  | 10 | 特に悩みがないから                            |      |   |                  |

問17 あなたはこれまで、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、どのような相談機関に相談したことがありますか。(〇はいくつでも)

2.4	1	県の教育相談機関	51.2	2	ハローワーク・公共職業安定所
35.7	3	ジョブカフェ(若年者就職支援センター)	62.5	4	地域若者サポートステーション
2.4	5	児童相談所・保健所・福祉事務所	1.2	6	ひきこもり地域支援センター
3.6	7	精神保健福祉センター	4.2	8	発達障害者支援センター
10.1	9	市町村の相談機関			
20.2	10	病院・診療所			
4.2	11	NPOやフリースクールなどの民間機関			
6.5	12	その他の相談機関(具体的に: _____)			
9.5	13	相談したことはない			

問19にお進みください

問18 あなたは現在、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。(〇はいくつでも)

3.0	1	県の教育相談機関	24.4	2	ハローワーク・公共職業安定所
14.3	3	ジョブカフェ(若年者就職支援センター)	46.4	4	地域若者サポートステーション
0.0	5	児童相談所・保健所・福祉事務所	0.0	6	ひきこもり地域支援センター
1.8	7	精神保健福祉センター	3.0	8	発達障害者支援センター
3.0	9	市町村の相談機関			
12.5	10	病院・診療所			
1.2	11	NPOやフリースクールなどの民間機関			
5.4	12	その他の相談機関(具体的に: _____)			
19.6	13	相談していない			

問19 問17で「12 相談したことはない」、または問18で「12 相談していない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。(〇はいくつでも) (n=109人)

0.9	1	相談機関に相談して、たらい回しされた経験があるから(されそうだから)
8.3	2	相談機関に相談したが、解決しなかった経験があるから
5.5	3	相談機関があることを知らなかったから
7.3	4	どこの相談機関に相談したらよいかわからないから
1.8	5	相談機関に相談して、既に解決したから
5.5	6	相談機関より、家族や親戚の方が信頼できるから
3.7	7	相談機関より、友人・知人の方が信頼できるから
0.0	8	相談機関より、職場の上司・同僚の方が信頼できるから
0.9	9	相談機関より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから
10.1	10	相談しても解決できないと思うから
3.7	11	自分の悩みを人に知られたくないから
4.6	12	相談したことを人に知られたくないから
7.3	13	何を聞かれるか不安だから
17.5	14	悩みを相手にうまく話せないと思うから
1.8	15	お金がかかるから
0.9	16	相談機関が近くにないから
11.0	17	その他(具体的に: _____)
9.2	18	特に悩みがないから

問20 皆様が日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 42.9 1 一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる
- 54.2 2 悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている
- 48.2 3 親身になって相談に乗ってくれる
- 14.3 4 医学的な助言をくれる
- 33.9 5 心理学の専門家が相談に乗ってくれる
- 26.2 6 精神科医が相談に乗ってくれる
- 14.9 7 24時間、いつでも相談に乗ってくれる
- 26.2 8 匿名で(自分の名前を知られずに)相談できる
- 22.0 9 インターネットやメールを活用して(相談機関に行くことなく)相談できる
- 49.4 10 無料で相談できる
- 28.6 11 同じ悩みを持つ人と出会え、交流できる「団体」や「会」
- 8.3 12 NPOやフリースクールなどの民間相談機関
- 6.0 13 自宅に専門家が来てくれる
- 29.8 14 自宅から近い場所に相談機関がある
- 2.4 15 その他(具体的に: )

問21 最後に、あなたが日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

… ご協力ありがとうございました …



## 「若者自立支援のための実態把握調査」 調 査 票

(選択肢の左側に、単純集計の結果を記載している。特に記載のない限り、n=130人、単位=%となっている。)

このたびは、調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この調査は、今後の子ども・若者支援のあり方を検討するため、県内の**15歳から39歳までの子ども・若者**(以下、「ご本人」とします。)の**保護者・親族等の皆様**(以下、「あなた」とします。)に、ご本人が日頃、どのようなことを考え、どのように過ごしているかをお伺いするものです。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう集計いたします。また、回答内容や個人情報が上記目的以外に使用されたり、外部に漏れることはありません。

以下の〈回答の方法〉をご確認のうえ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

### 〈回答の方法〉

- 質問は22問あります。現在の記入時点での状況をお答えください。
- 回答は、調査票の当てはまる番号を○で囲んでください。また、設問によっては、数字をご記入いただいたり、具体的な内容を文章でご記入いただくところもあります。
- 回答後は、添付の返信用封筒に入れ、封をしてポストに投函してください。  
(本調査は、「NPO法人ワーカーズコープ」への委託により実施しています。)
- この調査でご不明の点がございましたら、下記にお問い合わせください。

… 担 当 …

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課青少年グループ

「若者自立支援のための実態把握調査」担当

TEL 017-734-9226

E-mail seishonen@pref.aomori.lg.jp



- ・「ご本人」 … あなたの子ども・孫 等  
 ・「あなた」 … 保護者・親族 等 （この調査に回答される方）

**問1 「ご本人」との関係をお答えください。**

19.2	1	父親	73.1	2	母親	1.5	3	兄弟姉妹
0.8	4	祖父	1.5	5	祖母	3.1	6	配偶者
0.0	7	伯父・叔父	0.0	8	伯母・叔母			
0.8	9	その他（具体的に：			）			

**問2 「ご本人」の性別をお答えください。**

46.9	1	男	53.1	2	女
------	---	---	------	---	---

**問3 「ご本人」の年齢をお答えください。**

8.5	1	15歳～19歳	40.0	2	20歳～24歳	23.1	3	25歳～29歳
14.6	4	30歳～34歳	13.8	5	35歳～39歳			

**問4 「ご本人」が住んでいる市町村名を（ ）内に記述してください。**

26.2	1	東青地域	18.5	2	中弘南黒地域	22.3	3	三八地域
17.7	4	西北五地域	6.9	5	上十三地域	4.6	6	むつ下北地域
2.3	7	県外（ ）	1.5		無回答			

**問5 「ご本人」が同居しているご家族に○をつけてください。（○はいくつでも）**

69.2	1	父親	80.0	2	母親	41.5	3	兄弟姉妹
7.7	4	祖父	19.2	5	祖母	9.2	6	配偶者
9.2	7	ご自身のお子さん	2.3	8	その他（具体的に：			）
1.5	9	同居家族はいない（単身世帯）						

問6 「ご本人」が最後に卒業（中退）した学校はどこですか。

4.6	1	中学卒	39.2	2	高校（全日制）卒
4.6	3	高校（全日制）中退	6.2	4	高校（定時制）卒
1.5	5	高校（定時制）中退	16.2	6	短大・専修学校卒
3.1	7	短大・専修学校中退	16.9	8	大学・大学院卒
6.9	9	大学・大学院中退	0.8		高校（通信制）中退

問7 現在、「ご本人」の生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。（〇はひとつだけ）

16.2	1	本人自身	71.5	2	父母
5.4	3	配偶者	0.0	4	兄弟姉妹
2.3	5	他の家族や親戚	3.1	6	その他（具体的に： )
1.5	7	生活保護を受けている			

問8 「ご本人」はいま、仕事に就いていますか。

13.8	1	正社員・正職員として働いている
12.3	2	契約社員・派遣社員として働いている
20.8	3	パート・アルバイトとして働いている
50.8	4	いいえ
2.3		無回答

問11にお進みください

問9 問8で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」は、今後の自分の進路についてどのように考えていると思われますか。

（〇はひとつだけ）

（n=109人）

16.5	1	わからない
47.7	2	正社員・正職員として働きたい
0.9	3	契約社員・派遣社員として働きたい
11.0	4	パート・アルバイトとして働きたい
0.0	5	自分で会社などをおこしたい
8.3	6	進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたりもっと自分を磨いてから働きたい
3.7	7	その他（具体的に： )
2.7	8	働きたくない
9.2		無回答

問11にお進みください

問10 問9で「8 働きたくない」と回答した方にお聞きします。  
その理由はなぜだと思われますか。(〇はいくつでも)

(n=3人)

- |       |    |                              |                  |
|-------|----|------------------------------|------------------|
| 66.7  | 1  | わからない                        |                  |
| 33.3  | 2  | 健康上の理由があるから                  |                  |
| 66.7  | 3  | なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから   |                  |
| 33.3  | 4  | 将来、やりたいことが見つからないから           |                  |
| 0.0   | 5  | 何もしたくないから                    | 33.3 6 もっと遊びたいから |
| 33.3  | 7  | 家族や親族からの援助があり働かなくても生活していけるから |                  |
| 66.7  | 8  | 生活保護を受けており働かなくても生活していけるから    |                  |
| 0.0   | 9  | 働かなければならない理由が見つからないから        |                  |
| 100.0 | 10 | その他(具体的に: )                  |                  |

問11 いま、「ご本人」が日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。  
また、それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

- |      |    |   |                  |
|------|----|---|------------------|
| 34.6 | 1  | 人とのコミュニケーションがうまくとれない                    |                  |
| 7.7  | 2  | 精神的に外出することが困難になっている                     |                  |
| 16.9 | 3  | 信頼できる友人がいない                             |                  |
| 6.9  | 4  | 悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない                  |                  |
| 20.8 | 5  | 希望する職種に求人がない(少ない)                       |                  |
| 10.0 | 6  | 職種にはこだわっていないが、県内に働きたいところがない             |                  |
| 26.9 | 7  | なかなか採用されない                              | 6.9 8 面接がうまくいかない |
| 10.0 | 9  | 健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができない                 |                  |
| 11.5 | 10 | 就職するための技能・技術が身に付かない                     |                  |
| 23.1 | 11 | 金銭的に生活にゆとりがない                           |                  |
| 10.8 | 12 | 進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたいが、お金がない |                  |
| 5.4  | 13 | その他(具体的に: )                             |                  |
| 12.3 | 14 | 特にない                                    |                  |
| 10.8 | 15 | わからない                                   |                  |

問12 「ご本人」は普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。(〇はひとつだけ)

- |      |   |                               |                   |
|------|---|-------------------------------|-------------------|
| 27.7 | 1 | ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある       |                   |
| 18.4 | 2 | 週に3~4日外出し、家族以外の人との交流もある       |                   |
| 9.2  | 3 | ほとんど毎日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない |                   |
| 10.0 | 4 | 週に3~4日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない |                   |
| 26.2 | 5 | 週に1~2日しか外出しない                 |                   |
| 4.6  | 6 | 自室からは出るが、家からは外出しない            | 0.8 7 自室からほとんど出ない |
| 3.1  |   | 無回答                           |                   |

問16  
にお進  
みくだ  
さい

問13 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

現在の状態になったのは、「ご本人」が何歳の頃ですか。(数字で具体的に) (n=66人)

1.5	6歳	1.5	9歳	4.6	12歳	1.5	13歳
1.5	14歳	3.0	15歳	4.6	16歳	1.5	17歳
10.6	18歳	9.1	19歳	9.1	20歳	7.6	21歳
6.1	22歳	6.1	23歳	3.0	24歳	3.0	25歳
3.0	30歳	1.5	34歳	1.5	35歳	19.7	無回答

問14 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が現在の状態となってどのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ) (n=66人)

9.1	1	6ヶ月未満	9.1	2	6ヶ月～1年		
12.1	3	1年～3年	19.7	4	3年～5年		
10.6	5	5年～7年	24.2	6	7年以上	15.2	無回答

問15 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも) (n=66人)

19.7	1	小・中・高校時代の不登校	18.2	2	小・中・高校時代のいじめ
6.1	3	大学になじめなかった	3.0	4	受験に失敗した
31.8	5	就職活動がうまくいかなかった	19.7	6	職場になじめなかった
7.6	7	父親との関係がうまくいかなかった	6.1	8	母親との関係がうまくいかなかった
3.0	9	父母以外の家族との関係がうまくいかなかった			
19.7	10	友人との関係がうまくいかなかった	12.1	11	働いたり外出したりする気力がない
7.6	12	世の中に絶望した	7.6	13	病気をした(している)
12.1	14	障害がある	3.0	15	妊娠した
24.2	16	その他(具体的に: )			
4.5	17	わからない			

問16 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。

(〇はいくつでも)

25.4	1	父親	61.5	2	母親
6.9	3	配偶者	16.2	4	兄弟姉妹
3.8	5	祖父母に相談している	3.8	6	1～5以外の家族や親戚
22.3	7	友人・知人	5.4	8	職場の上司・同僚
14.6	9	わからない			
8.5	10	誰にも相談していない			

問18  
にお進  
みくだ  
さい

問17 問16で「10 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。

その理由はなぜだと思われますか。(〇はいくつでも)

(n=11人)

- |      |    |                                      |      |   |                    |
|------|----|--------------------------------------|------|---|--------------------|
| 36.4 | 1  | 相談しても解決しないと思っているから                   |      |   |                    |
| 18.2 | 2  | 家族などに心配をかけたくないから                     |      |   |                    |
| 18.2 | 3  | 自分の悩みを人に知られたくないから                    |      |   |                    |
| 9.1  | 4  | 相談したことを人に知られたくないから                   |      |   |                    |
| 27.3 | 5  | 何を聞かれるか不安だから                         | 36.4 | 6 | 悩みを相手にうまく話せないと思うから |
| 36.4 | 7  | 相談機関に相談しているから                        |      |   |                    |
| 0.0  | 8  | 身近な人より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから |      |   |                    |
| 9.1  | 9  | その他(具体的に:                            |      | ) |                    |
| 0.0  | 10 | 特に悩みがないから                            |      |   |                    |
| 9.1  | 11 | わからない                                |      |   |                    |

問18 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。

(〇はいくつでも)

- |      |    |                     |      |    |                |
|------|----|---------------------|------|----|----------------|
| 2.3  | 1  | 県の教育相談機関            | 29.2 | 2  | ハローワーク・公共職業安定所 |
| 27.7 | 3  | ジョブカフェ(若年者就職支援センター) | 36.9 | 4  | 地域若者サポートステーション |
| 1.5  | 5  | 児童相談所・保健所・福祉事務所     | 0.8  | 6  | ひきこもり地域センター    |
| 3.1  | 7  | 精神保健福祉センター          | 2.3  | 8  | 発達障害者支援センター    |
| 3.8  | 9  | 市町村の相談機関            | 13.8 | 10 | 病院・診療所         |
| 4.6  | 11 | NPOやフリースクールなどの民間機関  |      |    |                |
| 5.4  | 12 | その他の相談機関(具体的に:      |      | )  |                |
| 9.2  | 13 | わからない               |      |    |                |
| 20.8 | 14 | 相談していない             |      |    |                |

問19 参考までに、「あなた」はこれまで、どのような相談機関に相談したことがありますか。

(〇はいくつでも)

- |      |    |                     |      |    |                |
|------|----|---------------------|------|----|----------------|
| 5.4  | 1  | 県の教育相談機関            | 20.8 | 2  | ハローワーク・公共職業安定所 |
| 13.1 | 3  | ジョブカフェ(若年者就職支援センター) | 22.3 | 4  | 地域若者サポートステーション |
| 2.3  | 5  | 児童相談所・保健所・福祉事務所     | 1.5  | 6  | ひきこもり地域支援センター  |
| 3.1  | 7  | 精神保健福祉センター          | 4.6  | 8  | 発達障害者支援センター    |
| 6.9  | 9  | 市町村の相談機関            | 18.5 | 10 | 病院・診療所         |
| 3.8  | 10 | NPOやフリースクールなどの民間機関  |      |    |                |
| 9.2  | 12 | その他の相談機関(具体的に:      |      | )  |                |
| 39.2 | 13 | 相談したことはない           |      |    |                |

問20 問18で「13 相談していない」、または問19で「12 相談したことはない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。(〇はいくつでも) (n=57人)

- |      |    |                                      |     |                 |
|------|----|--------------------------------------|-----|-----------------|
| 0.0  | 1  | 相談機関に相談して、たらい回しされた経験があるから (されそうだから)  |     |                 |
| 5.3  | 2  | 相談機関に相談したが、解決しなかった経験があるから            |     |                 |
| 8.8  | 3  | 相談機関があることを知らなかったから                   |     |                 |
| 19.3 | 4  | どこの相談機関に相談したらよいかわからないから              |     |                 |
| 0.0  | 5  | 相談機関に相談して、既に解決したから                   |     |                 |
| 14.0 | 6  | 相談機関より、家族や親戚の方が信頼できるから               |     |                 |
| 5.3  | 7  | 相談機関より、友人・知人の方が信頼できるから               |     |                 |
| 1.8  | 8  | 相談機関より、職場の上司・同僚の方が信頼できるから            |     |                 |
| 0.0  | 9  | 相談機関より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから |     |                 |
| 7.0  | 10 | 相談しても解決できないと思うから                     |     |                 |
| 1.8  | 11 | 自分の悩みを人に知られたくないから                    |     |                 |
| 1.8  | 12 | 相談したことを人に知られたくないから                   | 1.8 | 13 何を聞かれるか不安だから |
| 1.8  | 14 | 悩みを相手にうまく話せないと思うから                   | 0.0 | 15 お金がかかるから     |
| 7.0  | 16 | 相談機関が近くにないから                         |     |                 |
| 12.3 | 17 | その他(具体的に:                            |     | )               |
| 42.1 | 18 | 特に悩みがないから                            |     |                 |

問21 「ご本人」もしくは「あなた」が、「ご本人」の日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- |      |    |                                    |      |                     |
|------|----|------------------------------------|------|---------------------|
| 63.1 | 1  | 一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる      |      |                     |
| 54.6 | 2  | 悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている   |      |                     |
| 43.8 | 3  | 親身になって相談に乗ってくれる                    | 13.1 | 4 医学的な助言をくれる        |
| 23.1 | 5  | 心理学の専門家が相談に乗ってくれる                  | 15.4 | 6 精神科医が相談に乗ってくれる    |
| 12.3 | 7  | 24時間、いつでも相談に乗ってくれる                 |      |                     |
| 13.8 | 8  | 匿名で(自分の名前を知られずに)相談できる              |      |                     |
| 14.6 | 9  | インターネットやメールを活用して(相談機関に行くことなく)相談できる |      |                     |
| 36.2 | 10 | 無料で相談できる                           |      |                     |
| 19.2 | 11 | 同じ悩みを持つ人と出会え、交流できる「団体」や「会」         |      |                     |
| 2.3  | 12 | NPOやフリースクールなどの民間相談機関               |      |                     |
| 6.2  | 13 | 自宅に専門家が来てくれる                       | 26.2 | 14 自宅から近い場所に相談機関がある |
| 3.1  | 15 | その他(具体的に:                          |      | )                   |

問22 最後に、「あなた」が「ご本人」の日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

… ご協力ありがとうございました …



## 「若者自立支援のための実態把握調査」 調 査 票

（選択肢の左側に、単純集計の結果を記載している。特に記載のない限り、n=17人、単位=%となっている。）

このたびは、調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この調査は、今後の若者支援のあり方を検討するため、皆様が日頃、どのようなことを考え、どのように過ごしているかをお伺いするもので、県内の15歳から39歳までの方をお願いしています。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう集計いたします。また、調査結果につきましては、報告書にまとめ、公表することとしておりますが、回答内容や個人情報が入り、外部に漏れることはありません。

以下の〈回答の方法〉をご確認のうえ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

### 〈回答の方法〉

3. 質問は21問あります。現在の記入時点での状況をお答えください。
2. 回答は、調査票の当てはまる番号を○で囲んでください。また、設問によっては、数字をご記入いただいたり、具体的な内容を文章でご記入いただくところもあります。
3. 回答後は、添付の返信用封筒に入れ、封をしてポストに投函してください。  
（本調査は、「NPO法人ワーカーズコープ」への委託により実施しています。）
4. この調査でご不明の点がございましたら、下記にお問い合わせください。

… 担 当 …

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課青少年グループ

「若者自立支援のための実態把握調査」担当

TEL 017-734-9226

E-mail seishonen@pref.aomori.lg.jp



## 問1 あなたの性別をお答えください。

52.9	1	男	47.1	2	女
------	---	---	------	---	---

## 問2 あなたの年齢をお答えください。

100.0	1	15歳～19歳	0.0	2	20歳～24歳	0.0	3	25歳～29歳
0.0	4	30歳～34歳	0.0	5	35歳～39歳			

## 問3 あなたが住んでいる市町村名を（ ）内に記述してください。

0.0	東青地域	29.4	中弘南黒地域	47.1	三八地域
5.9	西北五地域	17.6	上十三地域	0.0	むつ下北地域

## 問4 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。（○はいくつでも）

52.9	1	父親	94.1	2	母親	52.9	3	兄弟姉妹
17.6	4	祖父	29.4	5	祖母	0.0	6	配偶者
11.8	7	ご自身のお子さん	0.0	8	その他（具体的に： )			
0.0	9	同居家族はいない（単身世帯）						

## 問5 あなたが最後に卒業（中退）した学校はどこですか。

5.9	1	中学卒	0.0	2	高校（全日制）卒
76.5	3	高校（全日制）中退	0.0	4	高校（定時制）卒
17.6	5	高校（定時制）中退	0.0	6	短大・専修学校卒
0.0	7	短大・専修学校中退	0.0	8	大学・大学院卒
0.0	9	大学・大学院中退			

## 問5-1 問5で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

① 中退したときの学年 及び ②中退した学科 を教えてください。（n=16人）

①	中退時	62.5	1年生	31.3	2年生	6.2	3年生
②	中退した学科	68.8	1 普通科	0.0	2 農業科	12.5	3 工業科
		12.5	4 商業科	0.0	5 総合学科	6.2	6 その他(具体的に： )

## 問5-2 問5で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

あなたが中退した理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

(n=16人)

- |      |    |                          |      |    |                  |
|------|----|--------------------------|------|----|------------------|
| 6.3  | 1  | 勉強がわからなかったから             | 25.0 | 2  | 校則や校風があわなかったから   |
| 12.5 | 3  | 仲のよい友達が辞めてしまったから         | 6.3  | 4  | 問題行動を起こしたから      |
| 18.8 | 5  | 第一希望の高校ではなかったから          | 25.0 | 6  | 人間関係がうまくいかなかったから |
| 0.0  | 7  | 親に辞めさせられたから              | 0.0  | 8  | 経済的な余裕がなかったから    |
| 18.8 | 9  | 健康上の理由から                 | 12.5 | 10 | 妊娠したから           |
| 0.0  | 11 | 高校生活以外に興味があることができたから     |      |    |                  |
| 50.0 | 12 | 欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから |      |    |                  |
| 6.3  | 13 | 早く経済的に自立したかったから          |      |    |                  |
| 0.0  | 14 | 早く家を出たかったから              |      |    |                  |
| 6.3  | 15 | その他（具体的に： _____ )        |      |    |                  |
| 6.3  |    | 無回答                      |      |    |                  |

## 問5-3 問5で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

あなたが中退をすることについて誰に相談しましたか。(〇はいくつでも) (n=16人)

- |      |    |                         |      |   |            |      |   |            |
|------|----|-------------------------|------|---|------------|------|---|------------|
| 56.3 | 1  | 親                       | 18.8 | 2 | 兄弟姉妹       | 18.8 | 3 | 中退をした学校の先生 |
| 0.0  | 4  | 小中学校の先生                 | 18.8 | 5 | 中退をした学校の友人 | 6.3  | 6 | 5以外の友人     |
| 0.0  | 7  | 先輩                      | 6.3  | 8 | 中退経験のある人   |      |   |            |
| 6.3  | 9  | 地域若者サポートステーションなど相談機関の職員 |      |   |            |      |   |            |
| 0.0  | 10 | インターネットで交流のある人          |      |   |            |      |   |            |
| 6.3  | 11 | その他（具体的に： _____ )       |      |   |            |      |   |            |
| 18.8 |    | 無回答                     |      |   |            |      |   |            |

## 問5-4 問5で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

あなたが中退するにあたって、また中退後に、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったと思いましたか。

(〇はひとつだけ)

(n=16人)

- |      |    |                               |     |   |                     |
|------|----|-------------------------------|-----|---|---------------------|
| 12.5 | 1  | 今後の進路について悩んだ時に相談する方法          |     |   |                     |
| 12.5 | 2  | 他の高校に転入学する方法                  | 6.3 | 3 | 学力向上について悩んだ時に相談する方法 |
| 12.5 | 4  | 高等学校卒業程度認定試験（高卒認定試験）を受ける方法    |     |   |                     |
| 0.0  | 5  | 仕事で困った時に相談する方法                |     |   |                     |
| 0.0  | 6  | 生活で困った時に相談する方法                |     |   |                     |
| 0.0  | 7  | 精神的に不安定になった時に相談する方法           |     |   |                     |
| 0.0  | 8  | 職業に必要な技能を得るときに、職業訓練を受ける方法     |     |   |                     |
| 6.2  | 9  | 雇用保険（失業による生活不安に対して、現金を給付する制度） |     |   |                     |
| 0.0  | 10 | 奨学金・高校授業料無償などの進学支援制度          |     |   |                     |
| 0.0  | 11 | その他（具体的に： _____ )             |     |   |                     |
| 25.0 | 12 | 特に必要ない                        |     |   |                     |
| 25.0 |    | 無回答                           |     |   |                     |



問10 いま、あなたが日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。また、それはどんなことですか。（〇はいくつでも）

23.5	1	人とのコミュニケーションがうまくとれない	
0.0	2	精神的に外出することが困難になっている	
5.9	3	信頼できる友人がいない	
5.9	4	悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない	
11.8	5	希望する職種に求人がない（少ない）	
5.9	6	職種にはこだわっていないが、県内に働きたいところがない	
0.0	7	なかなか採用されない	0.0 8 面接がうまくいかない
5.9	9	健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができない	
5.9	10	就職するための技能・技術が身に付かない	
17.6	11	金銭的に生活にゆとりがない	
17.6	12	進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたいが、お金がない	
0.0	13	その他（具体的に： _____）	
47.1	14	特にない	

問11 あなたは普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。（〇はひとつだけ）

29.4	1	ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある
23.5	2	週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある
5.9	3	ほとんど毎日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない
5.9	4	週に3～4日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない
23.5	5	週に1～2日しか外出しない
11.8	6	自室からは出るが、家からは外出しない
0.0	7	自室からほとんど出ない

問15  
にお進  
みくだ  
さい

問12 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（数字で具体的に）（n=8人）

37.5	1	5歳	25.0	1	6歳
12.5	1	7歳	25.0		無回答

問13 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。現在の状態となってどのくらい経ちますか。（〇はひとつだけ）（n=8人）

12.5	1	6ヶ月未満	25.0	2	6ヶ月～1年	
50.0	3	1年～3年	0.0	4	3年～5年	
0.0	5	5年～7年	0.0	6	7年以上	12.5 無回答



問17 あなたはこれまで、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、どのような相談機関に相談したことがありますか。（〇はいくつでも）

0.0	1	県の教育相談機関	11.8	2	ハローワーク・公共職業安定所
0.0	3	ジョブカフェ（若年者就職支援センター）	0.0	4	地域若者サポートステーション
5.9	5	児童相談所・保健所・福祉事務所	0.0	6	ひきこもり支援センター
0.0	7	精神保健福祉センター	0.0	8	発達障害者支援センター
5.9	9	市町村の相談機関	19.0	10	病院・診療所
0.0	11	NPOやフリースクールなどの民間機関			
5.9	12	その他の相談機関（具体的に：_____）			
58.8	13	相談したことはない			

問19にお進みください

問18 あなたは現在、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。（〇はいくつでも）

0.0	1	県の教育相談機関	11.8	2	ハローワーク・公共職業安定所
0.0	3	ジョブカフェ（若年者就職支援センター）	0.0	4	地域若者サポートステーション
5.9	5	児童相談所・保健所・福祉事務所	0.0	6	ひきこもり支援センター
0.0	7	精神保健福祉センター	0.0	8	発達障害者支援センター
5.9	9	市町村の相談機関	11.8	10	病院・診療所
0.0	11	NPOやフリースクールなどの民間機関			
0.0	12	その他の相談機関（具体的に：_____）			
17.6	13	相談していない			

問19 問17で「12 相談したことはない」、または問18で「12 相談していない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。（〇はいくつでも） (n=16人)

0.0	1	相談機関に相談して、たらい回しされた経験があるから（されそうだから）
6.2	2	相談機関に相談したが、解決しなかった経験があるから
0.0	3	相談機関があることを知らなかったから
6.2	4	どこの相談機関に相談したらよいかわからないから
0.0	5	相談機関に相談して、既に解決したから
6.2	6	相談機関より、家族や親戚の方が信頼できるから
0.0	7	相談機関より、友人・知人の方が信頼できるから
0.0	8	相談機関より、職場の上司・同僚の方が信頼できるから
0.0	9	相談機関より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談の方が気楽だから
6.2	10	相談しても解決できないと思うから
0.0	11	自分の悩みを人に知られたくないから
0.0	12	相談したことを人に知られたくないから
0.0	13	何を聞かれるか不安だから
12.6	14	悩みを相手にうまく話せないと思うから
6.2	15	お金がかかるから
0.0	16	相談機関が近くにないから
0.0	17	その他（具体的に：_____）
56.4	18	特に悩みがないから

問20 皆様が日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

- |      |    |                                    |      |                     |
|------|----|------------------------------------|------|---------------------|
| 17.6 | 1  | 一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる      |      |                     |
| 17.6 | 2  | 悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている   |      |                     |
| 29.4 | 3  | 親身になって相談に乗ってくれる                    | 5.9  | 4 医学的な助言をくれる        |
| 17.6 | 5  | 心理学の専門家が相談に乗ってくれる                  | 17.6 | 6 精神科医が相談に乗ってくれる    |
| 11.8 | 7  | 24時間、いつでも相談に乗ってくれる                 |      |                     |
| 41.2 | 8  | 匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる              |      |                     |
| 41.2 | 9  | インターネットやメールを活用して（相談機関に行くことなく）相談できる |      |                     |
| 41.2 | 10 | 無料で相談できる                           |      |                     |
| 5.9  | 11 | 同じ悩みを持つ人と出会え、交流できる「団体」や「会」         |      |                     |
| 0.0  | 12 | NPOやフリースクールなどの民間相談機関               |      |                     |
| 0.0  | 13 | 自宅に専門家が来てくれる                       | 11.8 | 14 自宅から近い場所に相談機関がある |
| 17.6 | 15 | その他（具体的に：                          |      | ）                   |

問21 最後に、あなたが日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

… ご協力ありがとうございました …



## 「若者自立支援のための実態把握調査」 調 査 票

（選択肢の左側に、単純集計の結果を記載している。特に記載のない限り、n=18人、単位=%となっている。）

このたびは、調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この調査は、今後の子ども・若者支援のあり方を検討するため、県内の**15歳から39歳までの子ども・若者（以下、「ご本人」とします。）の保護者・親族等の皆様（以下、「あなた」とします。）**に、ご本人が日頃、どのようなことを考え、どのように過ごしているかをお伺いするものです。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう集計いたします。また、調査結果につきましては、報告書にまとめ、公表することとしておりますが、回答内容や個人情報が入り、外部に漏れることはありません。

以下の〈回答の方法〉をご確認のうえ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

### 〈回答の方法〉

1. 質問は22問あります。現在の記入時点での状況をお答えください。
2. 回答は、調査票の当てはまる番号を○で囲んでください。また、設問によっては、数字をご記入いただいたり、具体的な内容を文章でご記入いただくところもあります。
3. 回答後は、添付の返信用封筒に入れ、封をしてポストに投函してください。  
（本調査は、「NPO法人ワーカーズコープ」への委託により実施しています。）
4. この調査でご不明の点がございましたら、下記にお問い合わせください。

… 担 当 …

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課青少年グループ

「若者自立支援のための実態把握調査」担当

TEL 017-734-9226

E-mail seishonen@pref.aomori.lg.jp





## 問6 「ご本人」が最後に卒業（中退）した学校はどこですか。

0.0	1	中学卒	0.0	2	高校（全日制）卒
83.3	3	高校（全日制）中退	0.0	4	高校（定時制）卒
16.7	5	高校（定時制）中退	0.0	6	短大・専修学校卒
0.0	7	短大・専修学校中退	0.0	8	大学・大学院卒
0.0	9	大学・大学院中退			

## 問6-1 問6で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が ①中退したときの学年 及び ②中退した学科 を教えてください。

①	中退時	55.6	1年生	38.9	2年生	5.5	3年生
②	中退した学科	66.6	1 普通科	0.0	2 農業科	5.6	3 工業科
		11.1	4 商業科	5.6	5 総合学科	11.1	6 その他（具体的に：__）

## 問6-2 問6で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が中退した理由はなぜですか。（〇はいくつでも）

5.6	1	勉強がわからなかったから	33.3	2	校則や校風があわなかったから
5.6	3	仲のよい友達が辞めてしまったから	11.1	4	問題行動を起こしたから
11.1	5	第一希望の高校ではなかったから	22.2	6	人間関係がうまくいかなかったから
0.0	7	親に辞めさせられたから	0.0	8	経済的な余裕がなかったから
27.8	9	健康上の理由から	11.1	10	妊娠したから
5.6	11	高校生活以外に興味があることができたから			
33.3	12	欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから			
5.6	13	早く経済的に自立したかったから			
0.0	14	早く家を出たかったから			
5.6	15	その他（具体的に：_____）			
0.0	16	わからない			

## 問6-3 問6で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」は、中退をすることについて誰に相談していましたか。（〇はいくつでも）

83.3	1	親	16.7	2	兄弟姉妹	33.3	3	中退をした学校の先生
0.0	4	小中学校の先生	11.1	5	中退をした学校の友人	16.7	6	5以外の友人
5.6	7	先輩	11.1	8	中退経験のある人			
0.0	9	地域若者サポートステーションなど相談機関の職員						
0.0	10	インターネットで交流のある人						
0.0	11	その他（具体的に：_____）						
0.0	12	わからない						

問6-4 問6で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が中退するにあたって、また中退後に、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったですか。（〇はひとつだけ）

33.3	1	今後の進路について悩んだ時に相談する方法			
16.6	2	他の高校に転入学する方法	0.0	3	学力向上について悩んだ時に相談する方法
11.1	4	高等学校卒業程度認定試験（高卒認定試験）を受ける方法			
0.0	5	仕事で困った時に相談する方法	0.0	6	生活で困った時に相談する方法
0.0	7	精神的に不安定になった時に相談する方法			
5.6	8	職業に必要な技能を得るときに、職業訓練を受ける方法			
0.0	9	雇用保険（失業による生活不安に対して、現金を給付する制度）			
0.0	10	奨学金・高校授業料無償などの進学支援制度			
5.6	11	その他（具体的に： _____）			
5.6	12	特に必要ない	22.2	13	無回答

問7 現在、「ご本人」の生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。（〇はひとつだけ）

5.6	1	本人自身	77.6	2	父母
0.0	3	配偶者	5.6	4	兄弟姉妹
5.6	5	他の家族や親戚	5.6	6	その他（具体的に： _____）
0.0	7	生活保護を受けている			

問8 「ご本人」はいま、仕事に就いていますか。

0.0	1	正社員・正職員として働いている	0.0	2	契約社員・派遣社員として働いている
50.0	3	パート・アルバイトとして働いている	50.0	4	いいえ
			0.0		無回答

問9 問8で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」は、今後の自分の進路についてどのように考えていると思われますか。（〇はひとつだけ）

11.1	1	わからない	22.2	2	正社員・正職員として働きたい
0.0	3	契約社員・派遣社員として働きたい	11.1	4	パート・アルバイトとして働きたい
0.0	5	自分で会社などをおこしたい			
38.8	6	進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたりもっと自分を磨いてから働きたい			
5.6	7	その他（具体的に： _____）			
5.6	8	働きたくない	5.6		無回答

問11にお進みください

問11にお進みください

問10 問9で「8 働きたくない」と回答した方にお聞きします。

その理由はなぜだと思われますか。(〇はいくつでも)

(n=1人)

0.0	1	わからない	0.0	2	健康上の理由があるから
0.0	3	なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから			
100.0	4	将来、やりたいことが見つからないから			
100.0	5	何もしたくないから	0.0	6	もっと遊びたいから
0.0	7	家族や親族からの援助があり働かなくても生活していけるから			
0.0	8	生活保護を受けており働かなくても生活していけるから			
100.0	9	働かなければならない理由が見つからないから			
0.0	10	その他（具体的に： _____ )			

問11 いま、「ご本人」が日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。

また、それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

11.1	1	人とのコミュニケーションがうまくとれない			
0.0	2	精神的に外出することが困難になっている	11.1	3	信頼できる友人がいない
5.6	4	悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない			
5.6	5	希望する職種に求人がない（少ない）			
5.6	6	職種にはこだわっていないが、県内に働きたいところがない			
5.6	7	なかなか採用されない	0.0	8	面接がうまくいかない
5.6	9	健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができない			
11.1	10	就職するための技能・技術が身に付かない			
5.6	11	金銭的に生活にゆとりがない			
11.1	12	進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたいが、お金がない			
11.1	13	その他（具体的に： _____ )			
16.7	14	特にない	33.3	15	わからない

問12 「ご本人」は普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。

(〇はひとつだけ)

問16にお進みください

38.9	1	ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある
16.7	2	週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある
0.0	3	ほとんど毎日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない
5.5	4	週に3～4日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない
27.8	5	週に1～2日しか外出しない
11.1	6	自室からは出るが、家からは外出しない
0.0	7	自室からほとんど出ない

問13 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

現在の状態になったのは、「ご本人」が何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

(n=8人)

50.0	15歳	25.0	16歳	12.5	17歳	12.5	18歳
------	-----	------	-----	------	-----	------	-----

問14 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が現在の状態となってどのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ) (n=8人)

37.5	1	6ヶ月未満	12.5	2	6ヶ月～1年
50.0	3	1年～3年	0.0	4	3年～5年
0.0	5	5年～7年	0.0	6	7年以上

問15 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも) (n=8人)

25.0	1	小・中・高校時代の不登校	12.5	2	小・中・高校時代のいじめ
0.0	3	大学になじめなかった	0.0	4	受験に失敗した
0.0	5	就職活動がうまくいかなかった	0.0	6	職場になじめなかった
0.0	7	父親との関係がうまくいかなかった	0.0	8	母親との関係がうまくいかなかった
0.0	9	父母以外の家族との関係がうまくいかなかった			
12.5	10	友人との関係がうまくいかなかった	0.0	11	働いたり外出したりする気力がない
0.0	12	世の中に絶望した	12.5	13	病気をした(している)
0.0	14	障害がある	25.0	15	妊娠した
37.5	16	その他(具体的に: )			
12.5	17	わからない			

問16 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。

(〇はいくつでも)

22.2	1	父親	55.6	2	母親
0.0	3	配偶者	27.8	4	兄弟姉妹
5.6	5	祖父母に相談している	0.0	6	1～5以外の家族や親戚
33.3	7	友人・知人	0.0	8	職場の上司・同僚
11.1	9	わからない			
16.7	10	誰にも相談していない			

問18  
にお進  
みくだ  
さい

問17 問16で「10 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。

その理由はなぜだと思われますか。(〇はいくつでも) (n=3人)

33.3	1	相談しても解決しないと思っているから	0.0	2	家族などに心配をかけたくないから
0.0	3	自分の悩みを人に知られたくないから	0.0	4	相談したことを人に知られたくないから
33.0	5	何を聞かれるか不安だから	0.0	6	悩みを相手にうまく話せないと思うから
0.0	7	相談機関に相談しているから			
33.3	8	身近な人より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから			
0.0	9	その他(具体的に: )			
33.3	10	特に悩みがないから	0.0	11	わからない

問18 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。  
(○はいくつでも)

0.0	1	県の教育相談機関	16.7	2	ハローワーク・公共職業安定所
0.0	3	ジョブカフェ（若年者就職支援センター）	0.0	4	地域若者サポートステーション
0.0	5	児童相談所・保健所・福祉事務所	0.0	6	ひきこもり地域支援センター（H28）
0.0	7	精神保健福祉センター	0.0	8	発達障害者支援センター
0.0	9	市町村の相談機関	11.1	10	病院・診療所
0.0	11	NPOやフリースクールなどの民間機関			
5.6	12	その他の相談機関（具体的に： ）	11.1	13	わからない
55.6	14	相談していない			

問19 参考までに、「あなた」はこれまで、どのような相談機関に相談したことがありますか。  
(○はいくつでも)

11.1	1	県の教育相談機関	22.2	2	ハローワーク・公共職業安定所
0.0	3	ジョブカフェ（若年者就職支援センター）	5.6	4	地域若者サポートステーション
22.2	5	児童相談所・保健所・福祉事務所	5.6	6	ひきこもり地域支援センター（H28）
5.6	7	精神健康福祉センター	5.6	8	発達障害者支援センター
5.6	9	市町村の相談機関	38.9	10	病院・診療所
0.0	11	NPOやフリースクールなどの民間機関			
11.1	12	その他の相談機関（具体的に： ）	38.9	13	相談したことはない

問20 問18で「14 相談していない」、または問19で「13 相談したことはない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。(○はいくつでも) (n=12人)

0.0	1	相談機関に相談して、たらい回しされた経験があるから（されそうだから）
0.0	2	相談機関に相談したが、解決しなかった経験があるから
8.3	3	相談機関があることを知らなかったから
16.7	4	どこの相談機関に相談したらよいかわからないから
0.0	5	相談機関に相談して、既に解決したから
0.0	6	相談機関より、家族や親戚の方が信頼できるから
0.0	7	相談機関より、友人・知人の方が信頼できるから
0.0	8	相談機関より、職場の上司・同僚の方が信頼できるから
0.0	9	相談機関より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから
16.7	10	相談しても解決できないと思うから
0.0	11	自分の悩みを人に知られたくないから
0.0	12	相談したことを人に知られたくないから
0.0	13	何を聞かれるか不安だから
8.3	14	悩みを相手にうまく話せないと思うから
0.0	15	お金がかかるから
0.0	16	相談機関が近くにないから
8.3	17	その他（具体的に： ）
41.7	18	特に悩みがないから

問21 「ご本人」もしくは「あなた」が、「ご本人」の日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。  
(○はいくつでも)

- |      |    |                                    |      |                     |
|------|----|------------------------------------|------|---------------------|
| 38.9 | 1  | 一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる      |      |                     |
| 55.6 | 2  | 悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている   |      |                     |
| 38.9 | 3  | 親身になって相談に乗ってくれる                    | 16.7 | 4 医学的な助言をくれる        |
| 38.9 | 5  | 心理学の専門家が相談に乗ってくれる                  | 33.3 | 6 精神科医が相談に乗ってくれる    |
| 11.1 | 7  | 24時間、いつでも相談に乗ってくれる                 |      |                     |
| 16.7 | 8  | 匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる              |      |                     |
| 27.8 | 9  | インターネットやメールを活用して（相談機関に行くことなく）相談できる |      |                     |
| 55.6 | 10 | 無料で相談できる                           |      |                     |
| 27.8 | 11 | 同じ悩みを持つ人と出会え、交流できる「団体」や「会」         |      |                     |
| 5.6  | 12 | NPOやフリースクールなどの民間相談機関               |      |                     |
| 11.1 | 13 | 自宅に専門家が来てくれる                       | 5.6  | 14 自宅から近い場所に相談機関がある |
| 5.6  | 15 | その他（具体的に：                          |      | ）                   |

問22 最後に、「あなた」が「ご本人」の日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

… ご協力ありがとうございました …

**平成28年度 若者自立支援のための実態把握調査  
報告書**

発行 平成29年3月

**青森県環境生活部 青少年・男女共同参画課**

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号

TEL 017-734-9226 FAX 017-734-8050

(集計・編集)

特定非営利活動法人 ワークスコープ

〒170-0013 東京都豊島区東池袋44番3号 池袋ISPタマビル

TEL 03-6907-8030 FAX 03-6907-8031